

五ヶ瀬川水系の流域及び河川の概要 (案)

平成 1 5 年 1 1 月

国土交通省河川局

目 次

	頁
1 . 流域の自然状況	1
1 - 1 地形	2
1 - 2 地質	3
1 - 3 気候	5
2 . 流域及び河川の自然環境	6
2 - 1 流域の自然環境	6
2 - 2 河川の自然環境	9
2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等	45
2 - 4 自然公園等の指定状況	57
3 . 流域の社会状況	62
3 - 1 土地利用の現況	62
3 - 2 人口	69
3 - 3 産業経済	72
3 - 4 交通	73
3 - 5 将来構想	76
4 . 水害と治水事業の沿革	78
4 - 1 既往洪水の概要	78
4 - 2 治水事業の沿革	83
5 . 水利用の現状	86
5 - 1 水利用の現状	86
5 - 2 渇水被害の概要	89
6 . 河川の流況と水質	90
6 - 1 河川流況	90
6 - 2 河川水質	92

目 次

	頁
7 . 河川空間の利用状況	94
7 - 1 河川の利用状況	95
7 - 2 高水敷地の利用状況	102
8 . 河川管理の現状	105
8 - 1 河川管理施設	105
8 - 2 河道内植生	106
8 - 3 地域との連携	108
8 - 4 水防体制	110

1. 流域の自然状況

五ヶ瀬川は、その源を宮崎県と熊本県の県境にそびえる向坂山（標高 1,684m）に発し、多くの溪流を合わせつつ高千穂溪谷を流下し、更に岩戸川、日ノ影川、網ノ瀬川等の支川を合わせ延岡平野に入る。その後、三輪において大瀬川を分派後、延岡市街地を貫流し河口付近にて祝子川、北川を合わせ、日向灘に注ぐ、幹川流路延長 106km、流域面積 1,820km² の一級河川である。

五ヶ瀬川流域は、宮崎県、熊本県、大分県の 3 県にまたがり、流域の土地利用は、山地等が約 94%、水田や果樹園等の農地が約 5%、宅地等市街地が 1% となっている。その流域は宮崎県北部のほぼ全域を占め、この地域における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、水量も豊富で自然環境や景観も特に優れていることから、本水系の治水、利水、環境についての意義は極めて大きい。

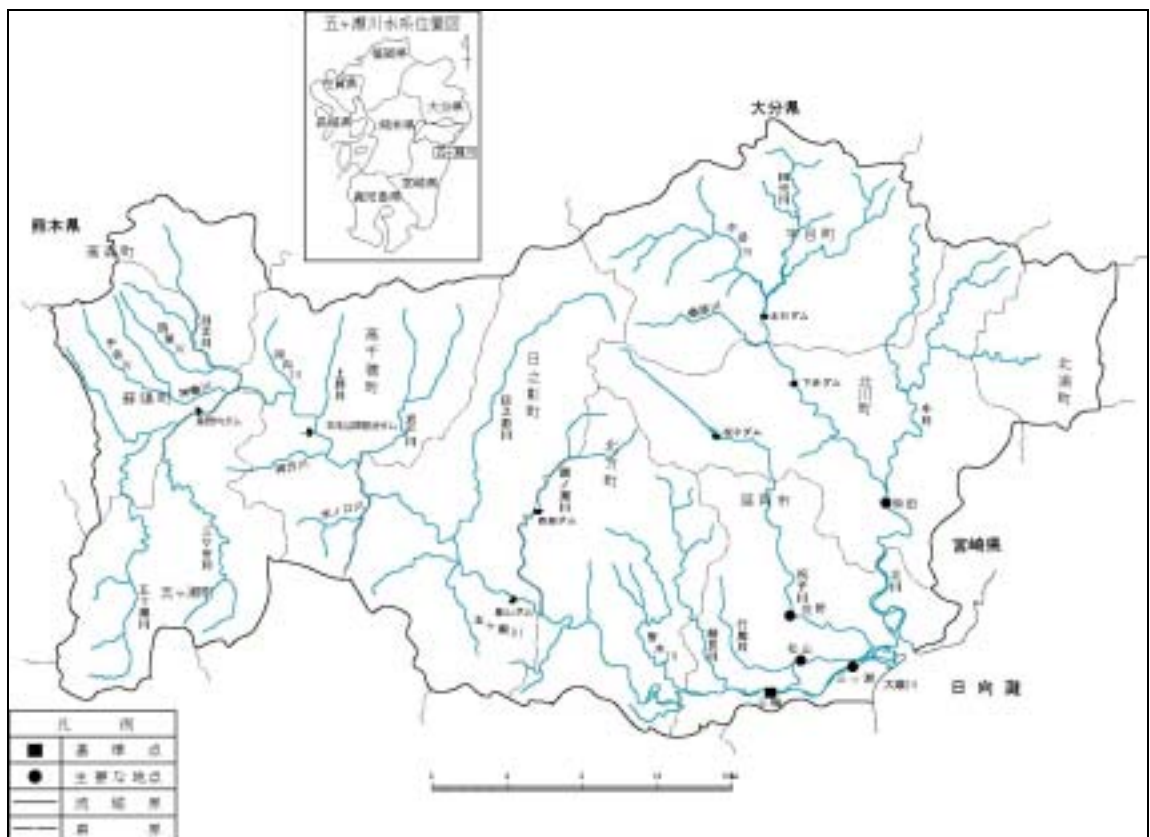


図 1-1 五ヶ瀬川水系流域図



五ヶ瀬川河口より上流を望む

1 - 1 . 地 形

本流域は、北部を大分県と宮崎県の境に位置する標高 1,400～1,700m の山嶺が連なる祖母・傾山系、西部を熊本県と宮崎県の境に位置する標高 1,000～1,700m の九州中央山地、そして南部を標高 900～1,300m の諸塚山系などの急峻な山地に囲まれている。これらの山地は、いずれも極めて急峻な大～中起伏山地よりなるが、上流域の熊本県蘇陽町一帯、及びその下流域の本川沿いには火山性台地が帯状に延びている。また、北川流域を中心とした流域東部では、地形も比較的緩やかになり、中～小起伏山地が主体となる。

本川は西部の九州山地に源を發し、一時北流して熊本県に入り、その後南東方向に流れを変え、高千穂峡などの溪谷を形づくりながら、河口近くで合流する祝子川や北川とともに三角州性平野を形成し、日向灘に注いでいる。

1 - 2 . 地 質

図 1-2 に五ヶ瀬川流域の地質図を示すが、本流域には砂岩・粘板岩・チャート・頁岩等よりなる堆積岩類が主に分布する。この堆積岩類は、古生代に堆積した地層(古生層)、中生代白亜紀に堆積した四万十累層群(諸塚層群)、そして新生代古第三紀に堆積した日向層群とに分けられ、これらが上流から下流域にかけ、北東から南西方向の帯状をなして分布する。

古生層は、砂岩・粘板岩・チャート・石灰岩等よりなる堅硬・緻密な岩盤であるが、主として本川上流域の五ヶ瀬町から高千穂町、日之影町北部にかけて分布する。また、諸塚層群は、日之影町南部から北方町、延岡市北部、北川町、北浦町及び大分県宇目町にかけての、本川中～上流域や祝子川、北川流域に分布し、主として硬質な砂岩・頁岩より構成される。日向層群は、主として比較的硬質な砂岩・泥岩より構成されるが、延岡市南部を中心に広く分布している。

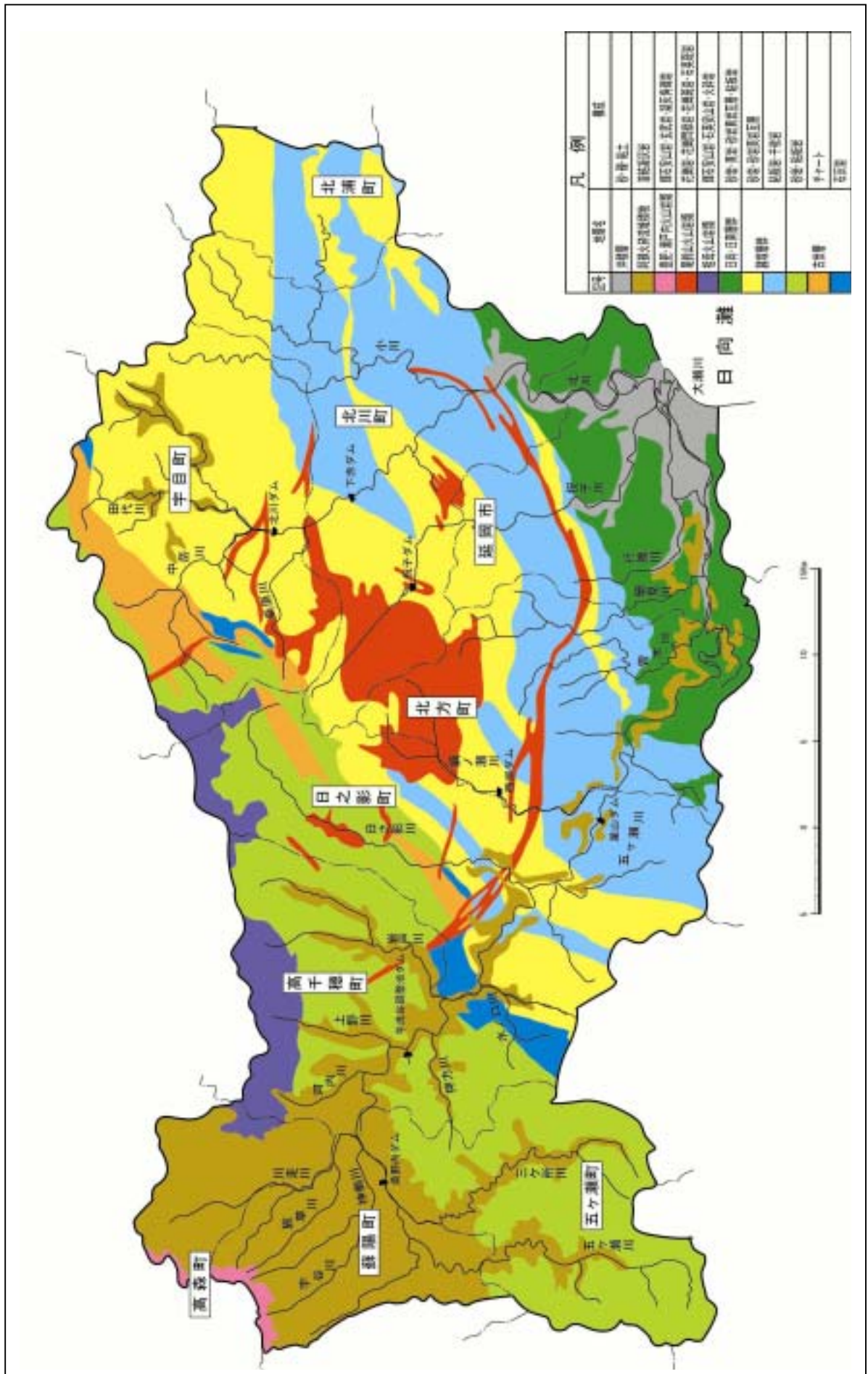


図 1-2 五ヶ瀬川流域内地質図

1 - 3 . 気候

五ヶ瀬川流域は、中・上流部は気温が低く雨量の多い山地型、下流部から海岸部に至っては暖かで雨量の多い南海型気候区に属している。

下流域の延岡市では、年間平均気温が 16～17 、上流域は、年平均気温が 15 前後であり、最上流部の宮崎県五ヶ瀬町鞍岡付近では年平均気温は 12～13 程度と低い。

流域内の年平均降水量も約 2,500 mmを越え、全国平均の比較すると約 850 mmも多い多雨地域であり、8～9月にかけて襲来する台風によって多量の雨がもたらされることにより、しばしば下流低地で浸水や洪水の被害を被る場合がある。



図 1-3-1 気候区分図

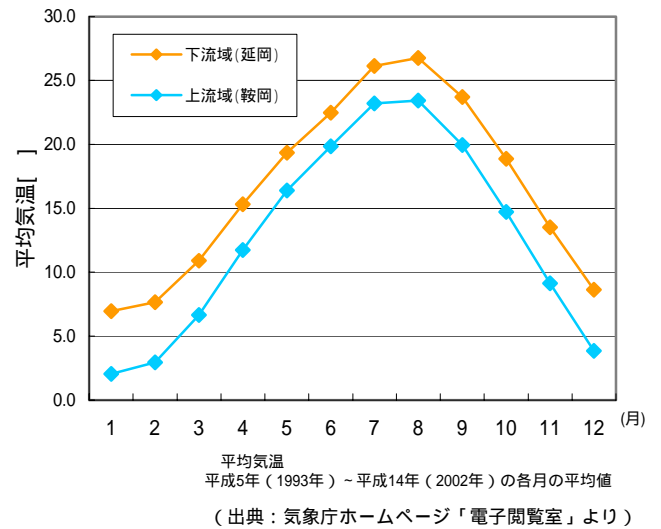
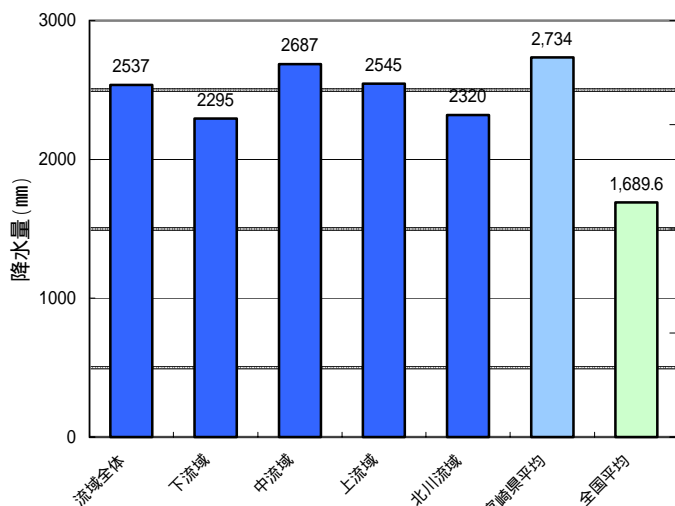


図 1-3-2 代表地点の月別平均気温



(出典 全国平均・宮崎県平均：平成 15 年 理科年表より
五ヶ瀬川流域：気象庁ホームページ「電子閲覧室」より)
五ヶ瀬川流域及び宮崎県の年間平均雨量
平成 5 年 (1993 年)～平成 14 年 (2002 年) の平均値
全国の年間雨量
昭和 46 年 (1971 年)～平成 12 年 (2000 年) の平均値

図 1-3-3 年間降水量の比較

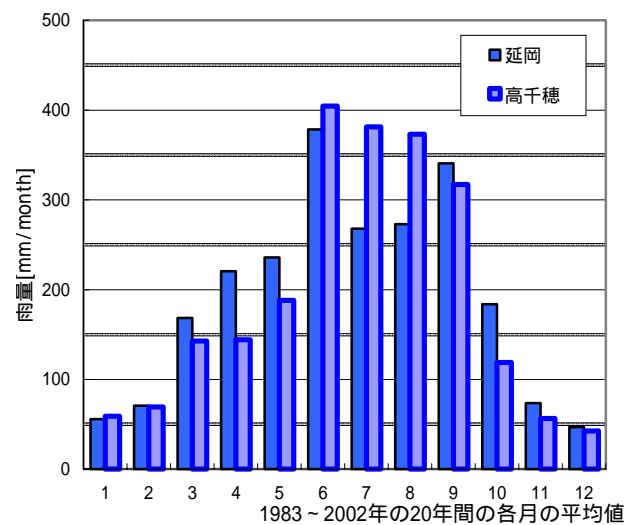


図 1-3-4 流域平均月別降水量

2 . 流域及び河川の自然環境

2 - 1 . 流域の自然環境

本流域は、北部を大分県と宮崎県の境に位置する祖母・傾山系、西部を熊本県と宮崎県の境に位置する九州中央山地などの大起伏山地に囲まれており、これらの山地から急峻な谷をなして流下する多くの支川を合わせながら南東方向に流下し、延岡市において平野部を形成して日向灘に注いでいる。

また、支川の源流部である流域北西部の高森町一帯は阿蘇火山群の一部となっており、世界一のカルデラを形成する外輪山が連なっている。



五ヶ瀬川流域を河川の特徴を考慮して図 2-1-1 のように上・中・下流域に区分する。

流域内には、3つの国定公園と2つの県立自然公園が指定されている。北部は祖母山(1,756m)・傾山(1,602m)・大崩山(1,643m)などの高い山々がなす祖母傾国定公園及び祖母傾県立自然公園が指定されている。一方、流域西部は熊本県との境に九州中央山地国定公園が、蘇陽町周辺は矢部周辺県立自然公園が指定され、豊かな自然環境を呈した地域となっている。下流域は平野部に住宅地及び工業地が存在し、海岸部は日豊海岸国定公園に指定された砂浜が広がっている。

五ヶ瀬川の流域には、源流部から河口域にかけての変化に富んだ自然を懐として、様々な動植物が生息している。流域内の植生としては、祖母山系などの山間部ではモミ、ツガ、ヒメコマツ、ブナ、五葉松などを交える原生林があり、渓谷や滝の切り立った河岸上の照葉樹林は渓谷美の一部を担っている。中流域ではスギやヒノキ等の人工林が主に分布している。また、本

川の下流部では川幅が広がるが、高水敷にはツルヨシ等が分布し、一部市民緑地として芝が植えられている。

このような環境の下、祖母・傾山系では国の天然記念物であるニホンカモシカをはじめ、ニホンジカやイノシシ等の大型哺乳類が生息し、下流域においても貴重種であるイタチやムササビなどの哺乳類が確認されている。

鳥類は五ヶ瀬川の河口域にカワウ、大瀬川の鷺島橋下流域のアシ原にセッカ、オオヨシキリなどを見ることができるとともに、河口域から中流域にかけてはチュウサギなど、環境庁や宮崎県などで貴重種に指定されている種の生息が多数確認されている。

海岸沿いは、県の天然記念物であり、各種の貴重種に指定されているアカウミガメの産卵地となっており、また大瀬川や五ヶ瀬川下流域ではイシガメやスッポン、トノサマガエル等の貴重種も確認されている。

魚類はアユを中心としてコイ、フナ、ボウズハゼ、ウグイ、オイカワ、カワムツ、ヨシノボリ等が生息し、上流の渓流や穏やかな流れの箇所には天然のヤマメが生息している。また、貴重種としてナマズやカマキリ（アユカケ）、イチモンジタナゴなどが下流域で確認されている。

昆虫類はツマグロキチョウやヒオドシチョウなどの貴重種が確認されているとともに、水質の良い渓流に繁殖するゲンジボタル、ヘイケボタルが生息し、北川町内ではホタル見物の名所が点在している。

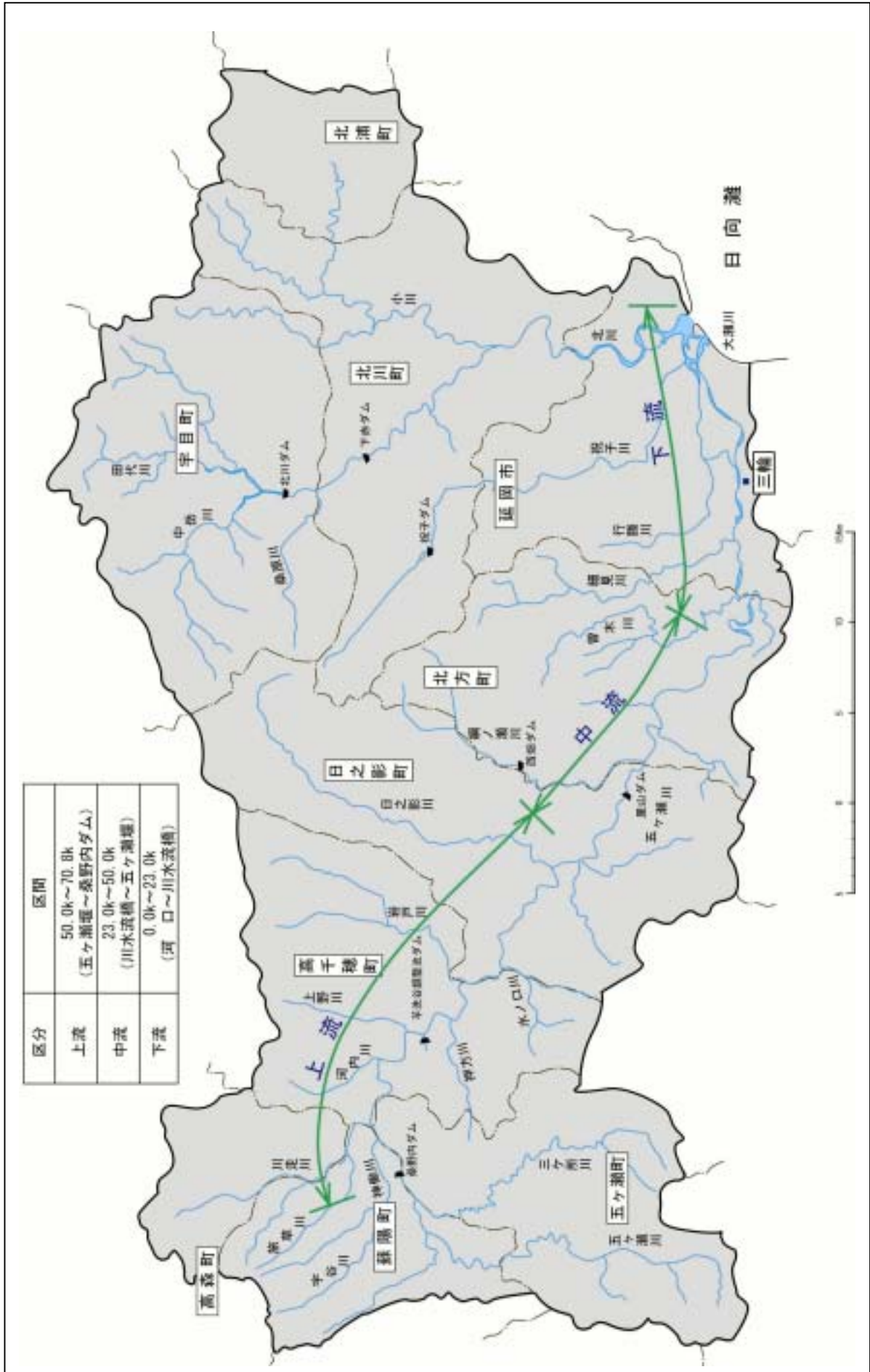


图 2-1-1 五ヶ瀬川水系区分説明図

2 - 2 . 河川の自然環境

(1) 源流域及び上流域

源流付近はスギ・ヒノキなどの山林を中心とする山峡部で、その一部の区間では巨石が点在し、自然河川の様相を呈した風景を見ることができる。

源流部の山峡を抜け、阿蘇溶岩台地を侵食して形成されたV字形の峡谷を流下する上流部は、「高千穂峡」に代表される五ヶ瀬川渓谷として、国の名勝及び天然記念物に指定されており、秋の紅葉など四季に富んだ自然環境が観光資源となっており、年間約 100 万人を超える観光客が訪れている。



白 滝 (宮崎県五ヶ瀬町)

最上流部の河川環境

五ヶ瀬川の源流をなす倉岡荒谷川の上流、海拔 900m 余りにある滝。その名の通り、まるで岩壁に白布を垂らしたように落ちており、あたりを覆う木々と相まって、一幅の日本画を見えるような趣を醸し出している。

写真：パンフレット「神話・伝説の道」(「神話・伝説の道」関係市町村連絡会議)より

蘇陽峡 (熊本県蘇陽町)

上流部の河川環境

九州のグランドキャニオンとも呼ばれ、幅 300m、深さ 150～200m もの切り立った絶壁が約 10 km にも渡って続いている。

写真：ホームページ「蘇陽町公式ホームページ - 観光情報」より

<http://www.town.soyo.kumamoto.jp/>





うのこの滝（宮崎県五ヶ瀬町）

最上流部の河川環境

五ヶ瀬川の支流である三ヶ所川にある。落差 20m、幅 10m の滝。滝つぼの大きさは直径約 100m で広さ 5000 m² もあり、樹海の中にぽっかり開いている印象を受ける。滝つぼの周辺を柱状節理の奇岩に囲まれた姿は幻想的である。

写真：ホームページ「フォレストピア」(県北フォレストピア実行委員会)より

<http://www.forestopia.gr.jp/>

五ヶ瀬川の上流域である九州中央山地ではベッコウサンショウウオやブチサンショウウオ、オオイタサンショウウオが生息しており、絶滅が心配される地域個体群のオオダイガハラサンショウウオの生息も確認されている。

また、本川の左岸側上流域を構成する祖母山系には自然林が広がるほか、涸谷のキレンゲショウマ群落、白岩山の岩峰植物群落とクリンユキフデ群落を含む原生林など、上流域や山間部を中心に貴重な群落が多く存在している。また、高森町付近にはハナシノブやサクラソウなどの貴重種が確認されている。しかし、近年では道路整備と園芸ブームによりヒメユリやハナシノブ等が大量の盗採にあい、その個体数が激減している。そのほか、五ヶ瀬川の源流域にあたる蘇陽町内の社叢は、町の天然記念物に指定されているとともに、高千穂町ではフクジュソウやクマガイソウの自生地があるなど、上流域における植生の自然度は非常に高く、多様な貴重種が存在している。

哺乳類では祖母・傾山系において、カモシカやニホンジカ等の生息が確認されている。また、そのほかの山間地でもイノシシやテン、アナグマ等、比較的大型の哺乳類が生息している。

鳥類ではハイタカ、チョウゲンボウなどの猛禽類とともに、カワセミやセンダイムシクイなど、渓流沿いに生息する種も確認されている。

魚類では、最上流部にはヤマメやウグイが生息し、三ヶ所川と合流する地点から魚種も増えオイカワやアブラハヤ、ドンコなどが確認されている。また、広範囲にわたってアユが生息している。なお、上流域でイワナが確認された例があるが、これは天然ではなく放流か養魚場からの逃逸によるものと思われる。

上流域から山間部にかけては、特に昆虫類の宝庫となっており、北部から西部の山岳地帯で、指標種であるオオムラサキやハルゼミなど多数の種が確認されている。

ニホンカモシカ

(国の天然記念物)

日本と台湾だけに分布し、そのうち日本産の物はニッポンカモシカと呼ばれている。本州、四国、九州の山岳地帯に生息する日本固有の種。五ヶ瀬川流域内では祖母傾山系に生息する。偶蹄目ウシ科ヤギ亜科の動物であり、その中で最も型が古く、氷河期を生き抜いた原始的な種で『生きた化石』と呼ばれ分類学上貴重な種である。また、急な岩場に立つその姿から『山の哲学者』とも呼ばれている。



写真：日之影町教育委員会より

ベッコウサンショウウオ（準絶滅危惧）

阿蘇山と霧島山にはさまれた標高 500 ~ 1500m の九州中央山地に分布し、常緑広葉樹林の溪流付近の深い谷や、沢に見られる。体長は 130 ~ 180 mm。日本産サンショウウオ類の中で、もっとも美しい種類といわれ、体背面は光沢のあるベッコウ色をしている。幼生は、流水性型で黒く鋭い爪をもっている。写真：「河川水辺の国勢調査」より



ヤマメ

一般に、サクラマスと河川に残留する個体を一括してヤマメと呼んでいる。五ヶ瀬町では波掃川の清流を引き入れた大規模な養魚池や人工孵化場があり、「やまめの里」として親しまれている。

写真：「河川水辺の国勢調査」より

(2) 中流域

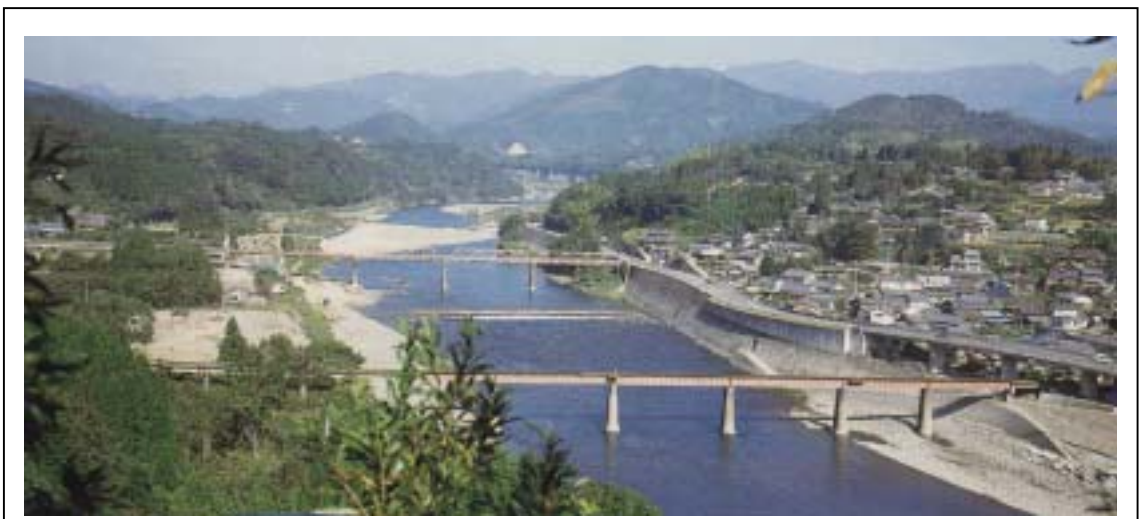


五ヶ瀬川中流部（北方町）

写真：パンフレット「雲海に架かる橋紀行 - 五ヶ瀬川上流を訪ねて」(宮崎県西臼杵支庁)より

日之影町から北方町の南半部よりなる中流域は、多数の支川を合わせつつ急峻な渓谷を一気に流下してきた本川が、やや傾斜の緩やかになった谷間を川幅を拡げつつ下流域へ向かう区間である。河岸は高水敷のない単断面で、その一部では礫と岩等が混在し、大きな瀬や淵を有している等、自然河川の様相を示している。また、これらの瀬や淵は魚類の良好な生息地となっており、釣り場としても人気が高い。

また、北方町川水流付近の「鮎やな」は、五ヶ瀬川架けられる3つのやなのうち最も上流に架かるやなであり、日本一大きな鮎が落ち所として有名である。



川水流の鮎やな

写真：パンフレット「北方見聞」(北方町企画開発課)より

この区間では、河床勾配は緩やかになりつつも河畔付近まで山々が迫っており、針葉樹、照葉樹が生い茂る山間地は多数の動植物の生息地となっている。支川・綱ノ瀬川の源流域である鬼の目山には、世界中でここにしか自生していないツチビノキが生育するなど、植物層も豊富である。

河川にはアユをはじめ、県の貴重種に指定されているカマキリやナマズが確認されているとともにウグイ、カワアナゴ等の魚類が生息し、それらの魚類を捕食するアオサギやオシドリなどのサギ類・カモ類等多数の鳥類が生息している。

昆虫類では、河川沿いでオオムラサキなどの貴重種が確認されているとともに、北部の祖母傾国定公園にむかって延びる支川沿いにはアカシジミなどの蝶類が多数生息している。



カマキリ（アユカケ）

（宮崎県：準絶滅危惧）

日本固有種。全長 150～200 mm。体色は灰褐色で、「石化け」と呼ばれる擬態を行う。稚魚は水生昆虫を主食とするが、成魚は主に魚を食べる。春秋にはアユを食べることから「アユカケ」と呼ばれる。生息環境としては石礫底を好む。

写真：「河川水辺の国勢調査」より

アオサギ

大きい川や湖沼、水田、海岸の干潟、入り江など砂泥のおおい水べりに生息する。河川区域内のヤナギ林や竹林等はサギ類の集団繁殖地やねぐらとなっていることが多い。待ち伏せたり、歩いたりして、魚を捕らえる。昆虫、両生類、甲殻類、ねずみなどの小動物も食べる。餌を見つけると頸（くび）を伸ばして、嘴ではさみとったり、突き刺したりして捕らえる。

写真：「河川水辺の国勢調査」より



オオムラサキ（準絶滅危惧）

日本を代表する蝶として、日本昆虫学会が1957年総会にて国蝶に指定。日本に棲息するタテハチョウの中では最大で、オスの翅表は青紫色に輝き大変美しく、メスは青紫色には輝かないが、一般にオスより一回り大きい。裏面の地色は銀白色のものと黄色のものがあって、西に行くほど銀白色のものが多くなる傾向にある。近年、里山の雑木林が開発により減少し、なかなかその姿を見ることが出来なくなってきた。

写真：「河川水辺の国勢調査」より



(3) 下流部



五ヶ瀬川下流部（延岡市 河口部より上流を望む）

写真：パンフレット「2000COMMUNE WITH NATURE 延岡」(延岡工事事務所)より

北方町と延岡市の市町境付近から下流域に入る五ヶ瀬川は、岩熊井堰以降流れが穏やかに中洲や河原を形成している。延岡市中部の吉野町付近で五ヶ瀬川は大瀬川と分流し、その水量は大瀬川のほうが豊富になる。そして河口付近で再び合流し、さらに河口より2キロの地点で祝子川を、河口域で北川を合流して日向灘へ注ぐという複雑な流下形態となっている。そのため、河口付近には小規模ながら段丘や三角州、沖積低地を形成しており、海岸には砂丘や砂州が広がっている。

五ヶ瀬川と大瀬川が分流している延岡市役所付近の高水敷は、駐車場または市民広場として利用されている。また、河口部は河口閉塞が発生しており、特に大瀬川は冬季の閉塞が著しい。



大瀬川（延岡市）

写真：延岡河川国道事務所

下流部の河川敷には、ヨシヤマコモ群落、ヒメガマ群落などが大きな面積を占める。一部では、オグラコウホネ群落やヒシ、エビモ、セキシヨウモ、フサモなどの浮葉沈水植物群落の水質や水流の条件に応じて生育している。河口域ではコアマモ群落が見られる。また、多くの河川が流れ込んでいることと、海岸線が複雑に入り込んでいることから塩沼地が随所に見られ、ここではシバナ、ハマサジ、ハマゼリ、ウラギク、シオクグ・ナガミノオニシバ等の、塩沼地にしか見られない特殊な植物が多く自生している。河川沿いには、環境庁のレッドデータブックで絶滅危惧 類に指定されているタコノアシやミゾコウジュ、ハマボウなどが生育している。

哺乳類は、可愛岳・行藤山にカモシカが生息しているほか、河川敷にはノウサギやアカネズミ、カヤネズミなどの小型哺乳類から、タヌキやテンなどの大型哺乳類などが生息している。

五ヶ瀬川下流域から河口にかけては鳥類の宝庫となっており、特に河口域ではサギ類やカモ類のコロニーが存在しているとともに、大瀬川の中洲にあるアシ原はツバメやムクドリの時となっている。また、ミサゴやハチクマ、ハヤブサ、クマタカなどの猛禽類も、河口付近や行藤山などで観察することができる。

は虫類は、宮崎県の天然記念物であり、環境庁のレッドデータブックで絶滅危惧 類に指定されているアカウミガメが、毎年方財海岸・長浜海岸及び新浜海岸で上陸産卵していることが確認されている。五ヶ瀬川水系では、環境庁のレッドデータブックで情報不足とされているスッポンのほか、ニホンイシガメ・クサガメが生息している。しかし、ペットで飼育されていたミシシippアカミガメが、放逐により五ヶ瀬川水系に生息していることが明らかにされており、在来3種への影響が懸念されている。

魚類では、アユをはじめボウズハゼやカマキリ（アユカケ）、ウグイなどが生息しており、河口域より岩熊井堰までスズキが遡上してくることもある。「延岡市環境基本計画」によると、五ヶ瀬川水系のアユは資源枯渇の段階にあると判断され、漁獲強度の大きいアユ漁を持続させるためには、きめの細かい資源管理が必要であるとされている。貴重種としては、環境庁のレッドデータブックで絶滅危惧 A類に指定されているメダカやキセルハゼ、及び準絶滅危惧のアカメ、シロウオが確認されている。また、外来種としてオオクチバス（ブラックバス）やブルーギルの繁殖も確認されている。

昆虫類では、生きた化石といわれるムカシトンボが桧山、行藤山系の清流に生息しており、ムカシヤンマも局所的ではあるが確認されている。また、カラスシジミ、シータテハ、ヒオドシチョウ、コムラサキ、サカハチチョウなど、河畔に生えるハルニレ、エノキ及びヤナギ類等との結びつきが強い種の生息も確認されている。

（４）北川下流域

河口から川島地区までの区間には川沿いに住宅地が見られるが、それより上流では主に耕作地として利用されるほか、山付き区間が多く見られ、カワセミやヤマセミが留まる姿が良く確認されている。河原にはツルヨシやジャヤナギ、エノキ等の植物群落が見られ、一部には古来から水防林として植栽されていた竹林も見られる。河口部では、稀少甲殻類であるカワスナガニが生息、加えて塩生湿地では、貴重な植物であるシバナ、ハマナツメ、コアマモ、ハマボウ、サンカクイなどが生育しており、ヨシ群落はオオヨシキリ等の鳥類の、コアマモ群落は稀少魚類であるアカメの幼魚の生息場となる等、動物の生息場としても貴重な空間となっている。



ハマボウ（県：準絶滅危惧）

塩水の影響を受けそうな、河口の河岸や州に見られる低木。日本の野生ハイビスカス、黄色い大型の花をつける。延岡市方財町に群落がある。

写真：「延岡市公式ホームページ」
<http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/>より

タコノアシ（絶滅危惧 類）

沼、河原、水田跡などの湿地に生える多年草。茎は直立し、高さ30～85センチ。無毛で通常淡紅色を帯びる。開花は8～9月、秋になると茹で蛸のように赤く色づく。葉は互生し狭披針形。茎の先や葉のわきから花序の枝を数本分け、片側に黄白色の小さな花が多数つく。和名は花がついた花序がタコの足のように見えることによる。



写真：「河川水辺の国勢調査」より



カヤネズミ

晩春から初冬にかけては草地、河川敷、堤防などでスキヤチガヤなどイネ科植物が優先する水気の有るところに生息する。冬は地表の堆積物や地下に掘った坑道で過ごす。近年は河川整備などの影響で生息域が狭められ、生息数も減少してきている。

写真：「河川水辺の国勢調査」より

スッポン（情報不足）

河川やため池に生息しているが、記録はあまり多くない。環境庁のレッドデータブックでは情報不足の為、生息状況が不明の種とされている。甲羅は柔らかく、頭部も特徴的。砂底に潜るのを好む。肉食性で、魚や甲殻類、貝類などを補食する。

写真：「河川水辺の国勢調査」より





チュウサギ（準絶滅危惧）

夏鳥であるが留鳥として年間を通じて見られる個体もいる。コサギ(60cm)より一回り大きく、ダイサギよりは小さい。また、食性も違っていてダイサギやコサギは、池や河川で魚を主食としていることに対してチュウサギは、カエルや昆虫を主食とし、水田や農耕地に多い。五ヶ瀬川及び北川下流域で確認されている。

写真：「河川水辺の国勢調査」より

アカメ（準絶滅危惧）

稚魚～成魚までが大量に確認されているのは宮崎県と高知県。体長は1mを越す場合もある。主に沿岸域に生息するが、幼漁期には河口の葦の中などで隠れていることが多い。また、河口には夏の時期に多く現れる。宮崎では50cm以上のアカメを「マルカ」と呼ぶ。

写真：「河川水辺の国勢調査」より



ムカシトンボ

生きた化石といわれ、世界的に有名な日本特産種のトンボ。腹長は36～40mm。成熟成虫は、おもに山地溪流で見られるが、環境変化に敏感で、砂防工事などにより土砂が流れ込んだりすると見られなくなる。成虫は4月下旬頃より羽化し、5月上・中旬を中心に生殖期を迎える。山間部ではこれより遅れる。

写真：「河川水辺の国勢調査」より



(5) 五ヶ瀬川生物

各種資料をもとに、五ヶ瀬川沿いの各生物相についての概要を整理し、表 2-2-0 に示す。

表 2-2-0 各生物相の概要

調査項目	生物相の概要
植物	<ul style="list-style-type: none"> 上流部から中流部にかけてスギ・ヒノキ等の人工林を中心に、河川沿いにはシイ・カシ萌芽林が生育している。最上流部においては、自然林が点在している。 左岸上流部の祖母傾山系はシラキ・ブナ群集やアケボノツツジ等、自然度の高い植生が多くなっている。 中流域では本川沿いにツルヨシ等の群落が生育し、支川上流域では鬼の目山のツチビノキを始めとする自然林が生育するなど、豊富な植物層を呈している。 下流域の河川敷にはツルヨシ群落、マコモ群落等が多く、一部ではオグラコウホネ群落等の浮葉沈水植物群落が生育している。また、河川沿いにはタコノアシやミゾコウジュ、ハマボウ等が生育している。 河口域ではコアマモ群落やハマボウ群落が生育しているとともに、随所に見られる塩沼地では、シバナやハマサジ、ハマゼリ、ウラギク等の特殊な植物が自生している。 支川の祝子川流域では上流部ほど自然度が高く、モミジガラマツ等の北方系植物やアケボノツツジ、ヒカゲツツジ等が生育している。また、上流の河川沿いには国の天然記念物であるモウソウキンメイチクが自生している。 支川北川のの上流部ではアカマツ・オンツツジ群集やコジイ群集等が分布している。また、中流域から下流域にかけては、二次林や人工林が多くなっているが、北川町の家田周辺の湿地植物群落は保全すべき対象として環境庁や県により指定されている。下流域の河川沿いではススキ群団が多く見られる。
哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> 左岸上流部の祖母傾山系では、国の天然記念物であるカモシカを始め、イノシシやニホンジカ、テン、アナグマ等、大型の哺乳類が生息している。 下流域の河川敷にはノウサギやカヤネズミ等の小型哺乳類とタヌキやテン等の大型哺乳類が生息している。
両生類 爬虫類	<ul style="list-style-type: none"> 最上流部の九州中央山地では、ベッコウサンショウウオやブチサンショウウオ、オオイタサンショウウオ、オオダイガハラサンショウウオの生育が確認されている。 五ヶ瀬川水系内には、ニホンイシガメやクサガメ、スッポンが生育している。 毎年、方財海岸・長浜海岸及び新浜海岸で、アカウミガメが上陸産卵している。 祝子川の上流域や北川の源流域である祖母傾山系では、ブチサンショウウオやオオサンショウウオ、オオイタサンショウウオ、オオダイガハラサンショウウオ、カナヘビ、トノサマガエル等の貴重種が多数確認されている。
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> 上流域ではカワセミやセンダイムシクイ等、渓流沿いに生育する種が確認されている。 中流域から河口域ではサギ類やカモ類が多数生息し、コロニーが存在している。下流の大瀬川の中洲にあるアシ原はツバメやムクドリ等の巣となっている。また、河口付近や行藤山等で、ミサゴやハチクマ等の猛禽類が観察されている。 祝子川では渓流を代表する種であるカワガラスが、中～上流域で確認されている。 北川の河川沿いではオオルリやキビタキ、サンコウチョウが生息しており、下流域ではハイタカ等の猛禽類が確認されている。
魚類	<ul style="list-style-type: none"> アユは河川のほぼ全域で確認されており、五ヶ瀬川を代表する魚種となっている。 最上流部ではヤマメが生息している。 上～中流にかけては県の貴重種に指定されているカマキリ（アユカケ）をはじめ、オイカワやウグイ、アブラハヤ、ナマズ、カワアナゴ等が生息している。 下流域ではボウズハゼやカマキリ（アユカケ）が生息しているとともに、メダカや、イチモンジタナゴ等が確認されており、河口付近ではアカメが生息している。また、外来種として、オオクチバス（ブラックバス）やブルーギルの繁殖も確認されている。 祝子川ではヤマメやニジマスが生息しているが、祝子ダムでは外来種であるオオクチバスが確認されている。 北川ではヤマメや放流によるコイ、カマキリ（アユカケ）、タカハヤ等の生育が確認されている。
底生動物	<ul style="list-style-type: none"> 北川上流域の宇目町では、貝類の特定種が多数確認されている 五ヶ瀬川の中流から下流域ではモズクガニやモノアラガイ等が生息している。 五ヶ瀬川、祝子川、北川の感潮域ではカワナガニが生息している。
昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> 上流域から山間部ではオオムラサキやハルゼミ等の多数の種が生息している。また、上流（高千穂町）ではタガメが確認されている。 中流域の祖母傾国定に向かう支川沿いには、ヒオドシチョウやアカシジミ等の蝶類が多数生息している。 北川中流域の北川町ではゲンジボタルやヘイケボタル等ホタル類の繁殖地となっている。 下流域では行藤山系の清流等にムカシトンボやムカシヤンマが確認されている。また、河畔に生育するハルニレ、エノキ等と結びつきが強いヒオドシチョウ等の蝶類も多数生息している。 祝子川流域ではオオムラサキやシートテハ等の蝶類とともに、ヤセオオヒラタカメムシ等の貴重な甲虫類も確認されている。

以上の生物相についての詳細を各流域ごとに整理し、以下に記載する。

また、五ヶ瀬川の自然環境を把握するために、各種文献等のデータを踏まえ五ヶ瀬川に生息する特定種についてとりまとめた。

特定種：国・県・市町指定による天然記念物

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（別名：種の保存法）

環境庁 レッドリスト

環境庁 レッドデータブック

宮崎県版 レッドデータブック

熊本県版 レッドデータブック

大分県版 レッドデータブック

水産庁 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック

環境庁 自然環境保全基礎調査

環境庁 日本の重要湿地 500

上記の資料の掲載種及び、貴重または保護すべき種として指定されている種

表 2-2-1(1) 特定種カテゴリーの説明

分類	内容
天	「文化財保護法」により保護等の対象として指定されている種
種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称：種の保存法）」で指定されている種
環	<p>「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト（環境庁編）」及び「日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - （環境庁編）」の指定種</p> <p>CR：絶滅危惧 A類 （Critically Endangered：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）</p> <p>EN：絶滅危惧 B類 （Endangered：IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種）</p> <p>VU：絶滅危惧 類 （Vulnerable：絶滅の危機が増大している種）</p> <p>NT：準絶滅危惧 （Near Threatened：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）</p> <p>DD：情報不足 （Data Deficient：評価するだけの情報が不足している種）</p> <p>LP：絶滅のおそれのある地域個体群 （Threatened Local Population：地域的に孤立しており地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群）</p>
群落	<p>「植物群落 レッドデータブック〔（財）日本自然保護協会、（財）世界自然保護基金日本委員会〕」の指定種</p> <p>ランク 4：緊急に対策必要 緊急に対策を講じなければ、群落が壊滅する</p> <p>ランク 3：対策必要 対策を講じなければ、群落の状態が徐々に悪化する</p> <p>ランク 2：破壊の危惧 現在の保護対策は良いが、対策を講じなければ、将来破壊されるおそれ大きい</p> <p>ランク 1：要注意 当面、新たな保護対策は必要ない</p>
県	<p>「宮崎県版レッドデータブック 宮崎の保護上重要な野生生物（2000年、宮崎県環境科学協会）」指定種</p> <p>CR-r：絶滅危惧 A類 （Critically Endangered-rare：県内ではもともと希であったものが、原則として、現在は1～2ヶ所でのみ生息し、個体数も極めて少ない状態で残っているもの）</p> <p>EN-r：絶滅危惧 B類 （Endangered-rare：県内ではもともと希であったものが、原則として、現在は2～4ヶ所でのみ生息し、個体数もかなり少ない状態で残っているもの）</p> <p>VU-r：絶滅危惧 類 （Vulnerable-rare：県内ではもともと希であったものが、原則として、現在は5ヶ所以下で生息し、個体数が少ないもの）</p> <p>VU-g：絶滅危惧 類 （Vulnerable-general：県内では過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、原則として10ヶ所以下で生育するか、あるいは個体数がほぼ5分の4以下に減少しているもの。今後とも大幅に分布が狭まったり、さらに個体数の減少が予想されるもの。）</p> <p>NT-r：準絶滅危惧 （Near Threatened-rare：県内ではもともと希であったものが、分布域の一部において個体数が顕著に減少しているもの）</p> <p>NT-g：準絶滅危惧 （Near Threatened-general：県内では過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、分布の一部において、生息条件の悪化により絶滅したか、もしくは生育面積の減少や個体数の顕著な減少がみられるもの）</p> <p>DD-1： 県内における証拠標本や、信頼のおける記録があり、かつて生息していたと思われるが、現存知るかどうかが判断できないもので、絶滅の可能性の考えられるもの。確認されれば「絶滅危惧 A類」に位置付けられる可能性の高いもの</p> <p>DD-2： 県内では、現在明らかに生息しているが、評価するだけの情報が不足しているもの</p>

表 2-2-2(2) 特定種カテゴリーの説明

分類	内容
水	<p>「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(2000年3月、水産庁)」の指定種</p> <p>絶滅危惧：絶滅の危機に瀕している種・亜種（環境庁カテゴリーに準ずる）</p> <p>危急種：絶滅の危険が増大している種・亜種（環境庁カテゴリーに準ずる）</p> <p>希少種：存続基盤が脆弱な種・亜種（環境庁カテゴリーに準ずる）</p> <p>減少種：明らかに減少しているもの</p> <p>減少傾向：長期的にみて減少しつつあるもの</p> <p>普通：自然変動の範囲にあるもの</p> <p>地域個体群：保護に留意すべき地域個体（環境庁カテゴリーに準ずる）</p>
自	<p>「第2回自然環境保全基礎調査 宮崎県・熊本県・大分県 自然環境情報図（環境庁 1981）」</p> <p>「第3回自然環境保全基礎調査 宮崎県自然環境情報図（環境庁 1989）」</p> <p>「第3回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 九州版」</p> <p>植物群落</p> <p>A：原生林もしくはそれに近い自然林</p> <p>B：国内若干地域に分布するが、極めてまれな植物群落 または個体群</p> <p>C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等、分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群</p> <p>D：砂丘、断崖、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群</p> <p>E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの</p> <p>F：過去に置いて人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採の手が入っていない</p> <p>G：乱獲その他の人為的な影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または</p> <p>H：その他、学術上重要な植物群落または個体群</p>
	昆虫
湿	<p>日本の重要湿地 500（環境省「インターネット自然研究所」ホームページより）</p> <p>選定基準1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟、マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の育成・生育地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合</p> <p>選定基準2：希少種、固有種等が生息している場合</p> <p>選定基準3：多様な生物相を有している場合</p> <p>選定基準4：特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合</p> <p>選定基準5：生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等）である場合</p>
巨	<p>「第4回自然観巨歩全基礎調査」日本の巨樹・巨木林（環境庁 1991）</p>
延	<p>延岡市環境基本計画 自然環境補足調査（2001年12月 延岡市）</p> <p>A：「生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全」の上から、極めて危機的レベルのたかいもの</p> <p>B：「生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全」の上から、極めて危機的レベルに瀕しているもの</p> <p>C：「生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全」の上から、危機のおそれのあるもの</p>

1) 五ヶ瀬川に生育する重要な植物種

五ヶ瀬川に生育する重要な植物群落及び植物は、次表の特定種一覧表に示すとおりである。特定種は植物群落で10種、植物種で62種確認されている。なお、表中の資料番号は、後掲の表2-2-11を参照されたい。

表2-2-3(1) 五ヶ瀬川で確認された植物群落の特定種一覧表

種名	貴重種区分							所在地	資料番号	備考
	天	環	群落	県	自	湿	延			
家田周辺の湿地植物群落 (水草等)				A		基準 2		北川町 家田・川板湿原	1,4	・希少種・固有種 の水生植物が多 く、新種も発見さ れている ・宮崎県RDBで整 合的的植物群落状 況評価:Aを受けて いる(Aランク:生 物の多様性の確 保及び自然環境 の体系的保全の 上から、極めて危 機レベルが高い)
祝子川源流域の原生地					A・B C			祝子川源流域	6	
サンゴ、海草、海藻						基準 1,2,3		延岡市 延岡島浦 北浦町 島浦島 - 阿 蘇	1	希少種を含む アマモ、ウミヒメ、ワカ メ、ヒメシマウメ、 オハクサなど。ワカ 場、テングサ場
方財町のハマボウ林 (ハマボウ群落)			4	NT-g			A	延岡市方財町	3,13,2 9	単一群落A
鬼の目山のツチピノキ 自生地		VU	2		B			北方町 細身川源流 域	6,29	
祖母、傾山系の自然林					A・D			祖母傾山系	6,22	
ミヤマゼキショウなど洞 岳石灰岩峰植物群落			3		B・D・ H			日之影町 日之影川 上流域	6,29	
澗谷のキレンゲショウマ 群落			2		H			五ヶ瀬町 五ヶ瀬川 源流域	6,29	
白岩山の岩峰植物群落 とクリンユキフデ群落を 含む原生林	宮崎県			CR-r	A・B D・H			五ヶ瀬町 五ヶ瀬川 源流域	6,8	444種の高山植 物
新百姓山周辺の天然ヒ ノキ自生地群落			4	CR-r	B・G			日之影町 新百姓山 北西部	13,29	
鬼の目山の天然スギ自 生地群落				CR-r	A・B・ C			北方町 鬼の目山～ 国見山～だき山の 北西側斜面	13	
行藤山の岩壁植生					B・D			延岡市 行藤山の雄 岳・雌岳の岩壁	13	歩道・木道、案内 板(解説版)等、利 用者のための措 置がなされている。

表 2-2-3(2) 五ヶ瀬川で確認された植物群落の特定種一覧表

種名	貴重種区分							所在地	資料番号	備考
	天	環	群落	県	自	湿	延			
行藤山のイチイガシ林					A・B・E			延岡市 行藤町行藤神社の社叢林	13	歩道・木道、案内板(解説版)等、利用者のための措置がなされている。
延岡のオオバネム群落			2		B・C			延岡市 南部沿海地	13,29	
楠原神社のカシ林					A・B・E			日之影町 楠原	13	
戸川岳の石灰岩植生域			2		D			日之影町 戸川岳	13,29	
高千穂神社のカシ林					A・B・E			高千穂町 高千穂神社	13	歩道・木道、案内板(解説版)等、利用者のための措置がなされている。
二上山のケヤキ林					A・B・H			高千穂町 二上山	13	歩道・木道、案内板(解説版)等、利用者のための措置がなされている。
矢筈岳・比叡山の岩角地植生域					D			日之影町・北方町 矢筈岳・比叡山の急崖地上	13	歩道・木道、案内板(解説版)等、利用者のための措置がなされている。
鬼の目山山塊の夏緑広葉樹林					A・B			北方町 上鹿川の鬼の目山～国見岳～だき山	13	
北方町大山神社のカシ林					A・B・E			北方町 大山神社社叢林	13	
宇目町などのツチトリモチを含むコジイ林(自然林)			3		E			宇目町 切込・北川ダム流域等	13,22,29	
鷹烏屋社のアカガシ林(自然林)	大分県				A			宇目町 鷹烏屋社の境内とその周囲の国有林の一部	8,13,22	
夏木山一帯の自然林			3		A			祖母傾山系の宇目町側の稜線部	13,22,29	
長浜海岸・新浜海岸の海岸砂丘植物							A	延岡市新浜町他	13	群落複合A
友内川河口のシバナ(シバナ群落)			3				A	延岡市大武町、二ツ島町	13,29	単一群落A
沖田川のハマボウ・ハマナツメ林							A	延岡市石田町・塩浜町・新浜町・旭ヶ丘	13	単一群落A
行藤山の岸壁植生							B	延岡市行藤町(行藤山)	13	群落複合B
赤水のウバメガシ林			2				B	延岡市赤水町	13,29	単一群落B

表 2-2-3(3) 五ヶ瀬川で確認された植物群落の特定種一覧表

種名	貴重種区分							所在地	資料番号	備考
	天	環	群落	県	自	湿	延			
赤水神社のスダジイ林							B	延岡市赤水町	13	群落複合B
行藤山のイチイガシ林							B	延岡市行藤町(行藤山)	13	群落複合B
熊野江の塩沼地植物群落							A	延岡市熊野江町	13	単一群落A
北川河口のコアマモ群落							A	延岡市二ツ島・白石町・東海町・大武町	13	複合群落A
フクジュソウ自生地	宮崎県	VU		CR-r				高千穂町 向山	8	
祝子川のモウソウキンメイチク林	国							北川町 祝子川上流	8	
クマガイソウ自生地	高千穂							高千穂町 押方	8	
幣立神宮の森	蘇陽							蘇陽町 大野	8	
仁瀬本神社の森	蘇陽							蘇陽町 二瀬本	8	
年称神社の森	蘇陽							蘇陽町 高畑	8	
早榊神社の森	蘇陽							蘇陽町 高辻	8	
阿蘇・山東原野の山地草原					C・E			高森町・蘇陽町一帯	23	
ツガ群落			3					宇目町	29	
ヒメコマツ群落			3					宇目町	29	
シオジ群落(シオジ・ミヤマクマワラビ群集)			3					宇目町	29	
ブナ群落(ブナ・スズケ群集)			3					宇目町	29	
イチイガシ群落			2					延岡市	29	
スダジイ群落			2					延岡市	29	
アカマツ群落			3					日之影町	29	
アケボノツツジ・ツガ群集			3					高千穂町・日之影町	29	

表 2-2-3(4) 五ヶ瀬川で確認された植物群落の特定種一覧表

種名	貴重種区分							所在地	資料番号	備考
	天	環	群落	県	自	湿	延			
サワグルミ群落			3					高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町	29	
タブノキ群落			2					高千穂町	29	
ケヤキ群落			2					高千穂町	29	
シラキ・ブナ群集			3					高千穂町・日之影町、五ヶ瀬町	29	
ミズナラ群落			3					日之影町	29	
イブキシモツケ・イワキンバイ群落			3					日之影町	29	
ツクシドウダンツツジ群落			3					高千穂町・日之影町	29	
ナガミノオニシバ群落			3					延岡市	29	
ハママツナ・ハマサジ群落			3					延岡市	29	
イチョウシダ群落			3					日之影町	29	
イワギク群落			3					日之影町	29	
クモノスダ群落			3					日之影町	29	
祖母・傾山系の温帯性夏緑広葉樹林域群落			4					高千穂町・日之影町	29	
石灰岩峰植物群落			2					五ヶ瀬町	29	
白岩山の温帯性夏緑広葉樹林域群落			4					五ヶ瀬町	29	
植生帯移行部植生			2					北方町、五ヶ瀬町	29	
温帯性夏緑広葉樹林域群落			2					北方町	29	
岩上岩隙植物群落			2					延岡市	29	
岩上・岩隙草本植物群落			2					日之影町	29	

表 2-2-4(1) 五ヶ瀬川で確認された植物の特定種一覧表

種名						確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	巨			
アオツリバナ			VU	CR-r		延岡市、北方町、北川町	7	北限 九州本土で宮崎のみ
アスナロ						北方町 二股桑水流	8	巨樹として町文化財資料に記載
イズハハコ			VU			北川上流域	4	
イセウキヤガラ				NT-r		延岡市	15	
イチョウ						高森町 矢津田	14,26	
イチョウ	国					高千穂町 河内 熊野鳴瀧神社	8,24	呼称: 田原のイチョウ
イチョウ	国					高千穂町 下野八幡宮	8,24	呼称: 下野八幡神社のイチョウ
イチョウ	高千穂					高千穂町 岩戸	8	呼称: 古代イチョウ
イチョウ	蘇陽					蘇陽町 上差尾	8	呼称: 東福寺の銀杏
イチョウ	蘇陽					蘇陽町 橘	8	呼称: 栴山阿蘇神社の銀杏
イチョウ						宇目町 柳瀬地藏	25	
イトモ			VU	EN-r		低地の河川、湖沼	2	
イヌノフグリ			VU	CR-g		宇目町、日之影町、蘇陽町、高森町、高千穂町	7	
イヌマキ						北方町 上崎 上崎神社(2本)	8	巨樹として町文化財資料に記載
ウシクグ				NT-g		五ヶ瀬川・大瀬川分流地点、五ヶ瀬川中流域	3,9	
ウスバヒョウタンボク			VU			蘇陽町、高森町	7	
ウバタケニンジン			EN	VU-g		宇目町、北川町、高千穂町、日之影町、北川上流域、小川	4,7	準固有、南限
ウマノスズクサ				NT-g		五ヶ瀬川・大瀬川分流地点	3	
ウラギク			VU	CR-r		延岡市、北浦町	3,7,15	
ウラギク			VU	CR-r		北川下流域	4	
オオウバタケニンジン			CR	CR-r		延岡市	15	
オオバネムノキ			EN	EN-r		延岡市	15	日本で宮崎のみ、北限
オグラコウホネ			VU	EN-r		延岡市 祝子町、北方町	7,15	南限域
カイジンドウ			EN			高森町	7	
ガガイモ				VU-r		五ヶ瀬川・大瀬川分流地点、五ヶ瀬川中～下流流域	3,9,15	
カゲロウラン			VU	VU-g		延岡市	15	
カツラ						高千穂町 向山秋元	24	
カヤ	五ヶ瀬					五ヶ瀬町 古戸野神社	8	呼称: 古戸野神社かや

表 2-2-4(2) 五ヶ瀬川で確認された植物の特定種一覧表

種名						確認地点	資料 番号	備考
	天	種	環	県	巨			
カワヂシャ			NT			五ヶ瀬川中流域、北川上～ 下流域、北川支川	3,4,9	
キシウナキリスゲ			EN	CR-d		延岡市、北川町、北浦町	7	
キセワタ			VU	EN-r		宇目町、高森町	7	南限
キノニスゲ			VU	VU-g		延岡市	15	
キビノクロウメモドキ			VU	CR-r		宇目町、北川町、高千穂町、 日之影町	7	
キリ	大分県					祖母傾山 国有林内・外	8	呼称:宇目の野生 桐
キンモクセイ	国					北浦町 古江	8	呼称:古江のキンモ クセイ
キンラン			VU	NT-g		北川上流域	4	
クスノキ						延岡市春日神社	24	呼称:春日神社のク ス(3本)
クスノキ						延岡市街地	24	
クワズイモ				VU-g		延岡市	15	
ケミヤマナミキ			EN	CR-r		延岡市、宇目町、北川町、日 之影町	3,7,15	
ケヤキ	国					高千穂町 下野八幡宮	8,24	呼称:下野八幡神 社のケヤキ
ケヤキ	蘇陽					蘇陽町 馬見原	8	呼称:田町天満宮 の櫨
ケヤキ	蘇陽					蘇陽町 柏	8	呼称:不動堂の櫨
コアマモ				NT-g		五ヶ瀬川河口から下流域 (砂質の泥地)	2,15	
コイヌガラシ				NT-g		五ヶ瀬川下流域、北川下流 域	3,15	
コウキヤガラ				EN-r		延岡市	3,15	
コウホネ				NT-g		延岡市 金堂ヶ池	3,15	
コギシギシ			VU	NT-g		延岡市	7	
コキンバイザサ				VU-g		延岡市	15	
ゴマクサ			EN	NT-g		蘇陽町	7	
ゴマシオホシクサ			EN	CR-g		延岡市	15	
サイコクヌカボ			EN	CR-g		延岡市(北川下流域)	3,7	南限
サカキ	五ヶ瀬					五ヶ瀬町	8	呼称:三ヶ所神社さ かき
サクラ	北浦					北浦町 大井 三川内神社	8	
サクラソウ			VU	CR-g		五ヶ瀬川源流域(高森町)	5	南限
ササユリ				EN-g		延岡市	15	南限

表 2-2-4(3) 五ヶ瀬川で確認された植物の特定種一覧表

種名						確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	巨			
サンヨウアオイ				VU-r		北川支川(小川等)	4	南限
シイノキ						延岡市 貝の瀬付近	24	
シシアクチ				CR-r		延岡市	15	九州で宮崎のみ、北限
シダレザクラ	宮崎県					五ヶ瀬町	8	呼称:浄専寺のシダレザクラ
シダレザクラ	五ヶ瀬					五ヶ瀬町 宮の原・揚	8	2本
シノメソウ			EN	CR-r		延岡市	15	南限域
シバナ			VU	VU-r		延岡市 北川町 北浦町(入り江や河口付近の泥地)	2,3,7	
ジュンサイ				CR-r		延岡市	15	
ズイナ				VU-r		北川上流域	4	
スギ						蘇陽町 下山・宮ノ後・二瀬木	14,26	計4本
スギ						高森町 草部	14,26	
スギ						北方町 川水流	8	呼称:大杉 巨樹として町文化財資料に記載
スギ	高千穂					高千穂町 三田井 高千穂神社	8	呼称:秩父杉
スギ	五ヶ瀬					五ヶ瀬町 古戸野神社	8	呼称:古戸野神社杉
スギ	五ヶ瀬					五ヶ瀬町 祇園神社	8	呼称:祇園神社杉
スギ	蘇陽					蘇陽町 下山	8	呼称:下山八幡宮の杉
スギ	蘇陽					蘇陽町 馬見原	8	呼称:明德山の山伏杉
スギ						高千穂町 上野 上野神社	24	
スギ						高千穂町 下野八幡宮	24	
スズサイコ			VU	VU-g		蘇陽町、高森町、高千穂町	7	
スズメノハコベ				NT-g		延岡市 北川下流域	3,15	
スズメハコベ			EN	NT-g		小川	4	
セキシウモ				NT-g		五ヶ瀬川中流域	3	
セッコク			EN				15	
センダン						北方町 三槿	8	巨樹として町文化財資料に記載
センニンモ				CR-r		北川下流域	4	
ソハヤキミズ			CR	EX-r		延岡市行藤町、北方町	7,15	基準標本、準固有、南限
タイリンアオイ				VU-r		延岡市	15	南限

表 2-2-4(4) 五ヶ瀬川で確認された植物の特定種一覧表

種名						確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	巨			
タコノアシ			VU	VU-g		大瀬川中流～河口付近 北川下流域	2,3,13	
タシロノガリヤス			EN	OT-1		延岡市、北方町、北川町、高 千穂町、宇目町、日之影町	7	準固有
チャボツメレンゲ			VU	EN-r		延岡市	15	南限
チョウジソウ			VU	CR-r		延岡市、宇目町、北川町	7,15	南限
チョウセンスイラン			EN	CR-r		蘇陽町、高森町、高千穂町	7	南限
チョクザキミズ			CR			高千穂町、日之影町、五ヶ 瀬町	7	
ツクシクカイソウ			EW	CR-r		五ヶ瀬川源流域(高森町)	5	日本では宮崎・熊 本のみ
ツクシタンポポ			EN	CR-r		宇目町、日之影町	7	南限
ツクシテンツキ			VU			高森町	7	
ツクシムレスズメ			CR	CR-r		小川	4	日本では宮崎、熊 本、鹿児島のみ
ツチビノキ			VU	CR-r		延岡市、鬼の目山	15	
ツツジ	日之影					日之影町 七折東深角	8	呼称:深角つつじ
テツホシダ				VU-g		延岡市	15	
デンジソウ			VU	EX-r		延岡市	7	
トダイアカバナ			VU	CR-r		延岡市、北方町、北川町、宇 目町、高千穂町、日之影町	7	九州で宮崎のみ、 南限
ナガエミクリ				NT-g		延岡市	15	
ナガボテンツキ				CR-r		北川下流域	3,4	
ナギラン			VU	VU-g		延岡市	15	
ナゴラン			CR	EN-g		延岡市	15	
ナラ	蘇陽					蘇陽町 米迫	8	呼称:水神の櫓
ニッケイ			NT			小川	4	
ヌカボタデ			VU	EN-g		延岡市、北川町(北川下流 域)	3,7,15	南限
ヌマゼリ			EN	CR-r		延岡市、北川町	7	南限
ノダイオウ			VU				3	
ノテンツキ				EN-r		五ヶ瀬川中流域	3,9	
ハナシノブ			CR	CR-r		五ヶ瀬川源流域(高森町)	5	
ハマサジ			VU	NT-r		延岡市	15	
ハマゼリ				EN-r		延岡市	15	

表 2-2-4(5) 五ヶ瀬川で確認された植物の特定種一覧表

種名						確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	巨			
ハマナツメ			EN	VU-g		延岡市(河口付近・北川下流域)	3,7,15	
ハマボウ				NT-g		延岡市	3,15	
ハママツナ				CR-r		延岡市櫛津町	15	
ハンノキ				NT-g		延岡市	15	
ヒイラギ	五ヶ瀬			CR-r		五ヶ瀬町 兼ヶ瀬	8	九州本土で宮崎のみ、南限
ヒツジグサ				EN-g		延岡市	15	
ヒノキ	蘇陽					蘇陽町 方ヶ野	8	呼称:方ヶ野天満宮の方永檜
ヒメイカリソウ				CR-r		延岡市	15	南限
ヒメコウホネ			VU	VU-r		延岡市稲葉崎町、北川町	7,15	
ヒメシロアサザ			VU	VU-g		延岡市、北川町、北浦町	7,15	
ヒメナミキ				VU-r		延岡市 方財町	3	
ヒメヒゴタイ			VU	CR-d		宇目町	7	南限
ヒメミクリ			VU	CR-r		北川上流域	4	
ヒメミソハギ				NT-g		五ヶ瀬川・大瀬川分流地点	3	
ヒユウガトウキ			VU	VU-g		延岡市、北方町	7,15	準固有、南限
フウラン			VU	VU-g		延岡市	15	
フクジュソウ	宮崎県		VU	CR-r		五ヶ瀬川源流域(高森町)、高千穂町	5	
フサモ				EN-r		五ヶ瀬川中流域	3	
フジ	蘇陽					蘇陽町 菅尾	8	呼称:恵良の藤
ホソバオグルマ			VU			蘇陽町、高森町、高千穂町	7	
マイヅルテンナンショウ			VU	EN-r		小川	4	
マキ	蘇陽					蘇陽町 大野	8	呼称:幣立神宮の高野檜
マツ	蘇陽					蘇陽町 長崎	8	呼称:服掛の松
マツ	蘇陽					蘇陽町 塩出迫	8	呼称:竜王の松
マツ	蘇陽					蘇陽町 長谷	8	呼称:塚野のさがり松
マツカサススキ				EN-r		延岡市、五ヶ瀬川中流域	3,9,15	南限
マツバラシ			VU	VU-r		延岡市	15	
マルバテイショウソウ			EN	NT-g		延岡市	7	日本では宮崎・鹿児島・熊本のみ

表 2-2-4(6) 五ヶ瀬川で確認された植物の特定種一覧表

種名						確認地点	資料 番号	備考
	天	種	環	県	巨			
マルミカンアオイ			EN	NT-g		延岡市	15	準固有
ミクリ			NT	VU-r		延岡市	15	南限域
ミシマサイコ			VU	CR-g		高森町	7	
ミズオオバコ				NT-g		延岡市	15	
ミズトラノオ			VU	CR-r		延岡市、北川町	7	
ミズネコノオ			VU	NT-g		延岡市、北浦町	7,15	
ミズマツバ			VU			宇目町、北川下流域、小川	3,4,7	
ミソコウジュ			NT			五ヶ瀬川中・下流域、 北川上～下流域、小川	2,3,4,9	
ミチヤナギ				NT-g		五ヶ瀬川・大瀬川分流地点	3	
モウソウキンメイチク	国					北川町 祝子川上流	8	呼称：祝子川のモウ ソウキンメイチク林
モミジコウモリ			VU	NT-g		延岡市	15	準固有、北限
ヤクシマスゲ			VU			日之影町	7	
ヤシャゼンマイ				NT-r		延岡市	15	南限
ヤッコソウ	延岡 北浦			EN-g		延岡市 熊野江神社 北浦町 市振神社	8,15	(含む椎の木)
ヤツシロソウ			EN			源流域(高森町)	5	
ヤナギイボタ				EN-r		北川上流域、小川	4	
ヤナギスブタ				EN-g		延岡市	15	
ヤブヨモギ			VU			蘇陽町、高森町、高千穂町、 日之影町、宇目町	7	
ヤマトミクリ			VU	EN-r		延岡市、北川町	7,15	南限域
リュウノヒゲモ			VU	CR-r		延岡市、北川下流域	4,15	
ロクオンソウ			EN	VU-g		延岡市、高森町、蘇陽町	7,15	
下野八幡宮のイチョウ	国					高千穂町	8	
下野八幡宮のケヤキ	国					高千穂町	8	
古江のキンモクセイ	国					北浦町	8	
田原のイチョウ	国					高千穂町、日之影町、五ヶ 瀬町	8	

2) 五ヶ瀬川に生育する重要な動物種

五ヶ瀬川に生育する重要な動物は、次表の特定種一覧表に示すとおりである。特定種は哺乳類3種、両生・は虫類10種、鳥類44種、昆虫類75種が確認されている。なお、表中の資料番号は、後掲の表2-2-11を参照されたい。

表2-2-5 五ヶ瀬川で確認された哺乳類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
イタチ (イタチ属の一種)				NT-g				水田、池沼のそばから人家周辺 大瀬川下流域 北川下流域 五ヶ瀬川注・下流域	2,3	イタチ・イタチ属はチョウセンイタチの可能性もあり、その場合は重要種とはならないが、安全側をとりイタチとみなして重要種に含めた
カモシカ	国特		地域 個体群	OT-1				祖母・傾山系	8,24	国特別天然記念物
ムササビ				NT-g				大瀬川	3	
ツキノワグマ			LP	Ex-d				祖母・傾山系	6,22	絶滅か？
ヤマネ	国		NT	VU-g				祖母傾山系	8	

表2-2-6 五ヶ瀬川で確認されたは虫類・両生類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
アカウミガメ (及びその産卵地)	宮崎県		VU	NT-g				長浜海岸・方財町海岸など	3,4,18	ワシントン条約
イシガメ				VU-r				大瀬川	2,4	
オオイタサンショウウオ			VU	EN-r				五ヶ瀬川源流域(宇目町、高森町、蘇陽町)	22,23	
オオサンショウウオ	国特			DD-2				五ヶ瀬川源流域 祖母傾山系	6,8	
オオダイガハラ サンショウウオ	大分県		LP	EN-r				源流域(高森町) 祖母傾山系(宇目町)	5,21,22	
カナヘビ			VU					北川、五ヶ瀬川水系 河川敷など	3,18	
クサガメ				VU-r				北川下流域	3	
シロマダラ				DD-2				延岡市	19	
スッポン			DD-2					五ヶ瀬川水系	3,4,18	
タカチホヘビ				DD-2				延岡市	19	
トノサマガエル				NT-g				五ヶ瀬川 中・下流域 北川下流域	3,4,19	
ニホンヒキガエル				NT-g				延岡市	19	
ブチサンショウウオ				DD-2				五ヶ瀬川上流域、祝子川上流域、祖母傾山系	4,6,19,22	
ベッコウサンショウウオ			NT	EN-r			2	九州中央山地源流域(五ヶ瀬川源流域)、 五ヶ瀬川上流域	2,6,21,23	
ヤモリ				DD-2					4	

表 2-2-7(1) 五ヶ瀬川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
アオバズク				NT-g					4	
アカアシシギ			VU					五ヶ瀬川・大瀬川下流域	3	
アカショウビン				NT-r					4	
アカモズ			NT					延岡市	18	
ウズラ			DD	NT-g				延岡市	4,18	
オオジシギ			NT	VU-r				北川下流域	3,4	
オオタカ			VU	NT-r				延岡市、五ヶ瀬川中流域、北川下流域	3,4,9,18,20	
オオルリ				NT-r				北川中流域付近 北川支川上流部	4	
オジロワシ			EN					延岡市	18	
カッコウ				NT-r					4	
カラシラサギ			DD					延岡市	18	
カラスバト	国		NT	VU-r				五ヶ瀬川流域	20	
カンムリウミスズメ	国		VU	EN-r					4,8,18	
カンムリカイツブリ			LP					全域	2,3	
キビタキ				NT-r				北川中流域付近	4	
クイナ				NT-r					4	
クマタカ			EN	VU-g				北川町・北浦町の町境付近 延岡市	4,18,20	
クロサギ				NT-r					4	
クログミ				NT-r					4	
コアジサシ			VU	NT-g				五ヶ瀬川・大瀬川下流域	3,4,18	
コサメビタキ				NT-r					4	
コシジロヤマドリ			NT	OT-1					4,18	その他保護上重要な種
コシャクシギ			CR	VU-r				全域	2,4,18	
コノハズク				VU-r					4	
コマドリ				NT-r					4	
サシバ				NT-g				五ヶ瀬川中～下流域	3,4,9	
サンコウチョウ				NT-r				北川中流域付近 北川支川上流部	4	
サンショウクイ			VU					五ヶ瀬川・大瀬川分流地点 五ヶ瀬川中流域	3,9	
ジュウイチ				NT-r					4	
ズグロカモメ			VU	EN-r					4	
セイタカシギ			EN					五ヶ瀬川下流域	3,18	
タマシギ				NT-r				五ヶ瀬川・大瀬川下流域	3,4	
チュウサギ			NT		希少			五ヶ瀬川 中・下流域 北川下流域	3,9	
チュウヒ			VU	VU-r				岩熊井堰付近 北川下流域	3,4	

表 2-2-7(2) 五ヶ瀬川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料 番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
ツクシガモ			EN	EN-r				五ヶ瀬川 下流域	3	
ツツドリ				NT-r					4	
ツバメチドリ			VU	VU-r				延岡市、北川下流域	4,18	
ツミ				NT-r				五ヶ瀬川中流域	9	
トモエガモ			VU	EN-r				五ヶ瀬川・大瀬川下流域 北川下流域	3,4,18	
トラツグミ				NT-g					4	
ノジコ			NT					延岡市、五ヶ瀬川中流域	9,18	
ハイイロチュウヒ				VU-r				五ヶ瀬川下流域	3,4	
ハイタカ			NT	NT-r				五ヶ瀬川 上～下流域 北川下流域	3,4,9,18	
ハチクマ			NT	VU-r				五ヶ瀬川 中・下流域 北川下流域	3,4,18	
ハヤブサ			VU	NT-r				五ヶ瀬川 中・下流域 北川下流域	3,4,18	
ヒクイナ				NT-g				五ヶ瀬川中・下流域	3,4,9	
フクロウ				VU-g				北川下流域	4	
ホウロクシギ			VU	NT-r				五ヶ瀬川・大瀬川下流域	3,4,18	
マガン			NT					延岡市	18	
マナヅル			VU					延岡市	18	
ミサゴ			NT	NT-r				五ヶ瀬川 中・下流域 北川下流域	2,3,4,18,9	
ヤイロチョウ			EN	EN-r				延岡市	4,18	
ヨシゴイ				NT-r					4	
ヨタカ				NT-r					4	

表 2-2-8 五ヶ瀬川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	種別								確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	漁	自	湿			
アカメ			NT	VU-g					五ヶ瀬川・北川河口域	2,17,24	
アユ									全域	2	
ウグイ									五ヶ瀬川上～下流域	3	
ウナギ									五ヶ瀬川下流域	3	
カマキリ(アユカケ)				NT-g					五ヶ瀬川中・下流域 北川中～下流域 祝子川下流域	2,3 6	
カワアナゴ				DD-2					五ヶ瀬川中・下流域 北川下流域	2,3,4	
ギンブナ									五ヶ瀬川中・下流域	3	
コイ									五ヶ瀬川中・下流域	3	
ナマズ				NT-g					五ヶ瀬川中流域 北川 上～下流域、北川支川	3,4,9	
ゲンゴロウブナ										3	
フナ属の一種										3	
イチモンジタナゴ			EN		希少				大瀬川	3	
ヤマメ									五ヶ瀬川及び支川上・中 流域	3	
メダカ			VU	VU-g					延岡市、北川下流域	3,4,19	
トビハゼ				VU-g						4	
ドンコ			CR						五ヶ瀬川上～下流域	16	
ドジョウ				NT-g					北川下流	4	
タカハヤ									北川支川(小川等)	4	減少傾向

表 2-2-9 五ヶ瀬川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	種別								確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	漁	自	湿			
カワスナガニ			DD	DD-2					五ヶ瀬川、祝子川、北川 の感潮域	1,2,3	
ノコギリガザミ				NT-r					下流域	3	
モノアラガイ			NT	CR-r					五ヶ瀬川 中流域 北川下流域	3,4	
ドブガイ				DD-2					北川下流域	4	
マツカサガイ				DD-2					北川下流域	4	
ミナミテナガエビ									北川上流域	4	減少傾向
モズクガニ									五ヶ瀬川中流域、小川	3,4	減少傾向

表 2-2-10(1) 五ヶ瀬川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
アイノミドリシジミ				NT-g		D		祖母傾山系、五ヶ瀬川最上流部(五ヶ瀬町)、延岡市	6,19	
アオカナブン				NT-g		C		祖母傾山系(高千穂町)	6	
アオクチブトカメムシ						B		祖母傾山系	22	
アオサナエ				NT-g				五ヶ瀬川・大瀬川分流域、小川	3,4	
アカシジミ				NT-g		C		五ヶ瀬川中流域～上流域、山間部、延岡市	6,19	
アトコブゴミムシダマシ						B		祖母傾山系	22	
イカリモンハンミョウ			CR+EN	NT-g				延岡市	4,18	
ウグイスシャチホコ								延岡市	19	九州未記録
ウグイスセダカヨトウ								延岡市	19	貴重種分布局地的
ウスオビコバネナミシャク								延岡市	19	九州未記録
ウスグロマダラウワバ								延岡市	19	珍種 日本特産種
ウミホソチビゴミムシ			NT					延岡市(平地から市街地、河川の砂地)	2,3,18	
ウラキンシジミ				NT-g		D・B		祖母傾山系、五ヶ瀬川最上流部(五ヶ瀬町)、延岡市	6,19,22	
ウラギンスジヒョウモン				VU-g				延岡市	19	
ウラギンヒョウモン				NT-g				延岡市	19	
ウラクロシジミ				NT-r		D・B		祖母傾山系	6,22	
ウラゴマダラシジミ				CR-r		D		五ヶ瀬川最上流域(五ヶ瀬町)	6	
ウラジロミドリシジミ				NT-g		C		五ヶ瀬川源流域(高森町・蘇陽町)	23	
ウラナミジャノメ			VU	NT-g				延岡市	4,19	
エゾスジグロシロチョウ				NT-g		C		五ヶ瀬川源流域(高森町・蘇陽町) 延岡市	19,23	
エゾベニヒラタムシ						B		祖母傾山系	22	
エゾミドリシジミ				NT-g		B		延岡市、祖母傾山系	19,22	
エゾヨツメ				NT-r				延岡市	19	
オオアワフキ						C		祖母傾山系	22	
オオウラギンヒョウモン			CR+EN	EN-g				延岡市	4,19	
オオキノコムシ						B		祖母傾山系	22	
オオクボカミキリ				NT-r		C		祖母傾山系	22	
オオセンチコガネ				NT-g		C		祝子川・網ノ瀬川上流部	6	
オオダイセマダラコガネ				NT-g		C		祖母傾山系	6	

表 2-2-10(2) 五ヶ瀬川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
オオツチイロノメイガ								延岡市	19	分布貴重
オオニジュウヤホシテン トウ						C		祖母傾山系	6	
オオホシオナガバチ						B		祖母傾山系	22	
オオホソコバネカミキリ				NT-r		B		祖母傾山系(高千穂町) 五ヶ瀬川源流域(五ヶ瀬 町)	6	
オオミドリシジミ				NT-g		C		五ヶ瀬川源流～上流域 祖母傾山系	6,23	
オオミノガ				VU-g				延岡市	19	
オオムラサキ			NT	NT-g		指		五ヶ瀬川中～上流域 延岡市、祖母傾山系	4,19,2 2	
オオモンキメクラガメ						C		祝子川上流域 祖母傾山系	6	
オキナワルリチラシ						C		祖母傾山系	22	
オナガアゲハ				NT-g				延岡市	19	
オナガサナエ				NT-g				五ヶ瀬川・大瀬川分流地 点、北川上～下流域、小 川	3,4	
オナガシジミ				EN-r		D		五ヶ瀬川源流域(五ヶ瀬 町)	6	
カドムネヒラタカメムシ				NT-r		C		祝子川・綱ノ瀬川上流部	6	
ガマキンウワバ				NT-r				延岡市	19	
カラスシジミ				NT-g		B		延岡市、祖母傾山系	19,22	
キアシドクガ								延岡市	3,18	九州未記録
キイロヤマトンボ			VU	VU-g				五ヶ瀬川・大瀬川分流地 点	3	
キバネセセリ				NT-r		C		日之影川(日之影町)、 祖母傾山系、五ヶ瀬川 最上流域	6	
キベリマメゲンゴロウ				NT-r				五ヶ瀬川・大瀬川分流地 点	3	
キマダラモドキ			NT	NT-r		C		祖母傾山系、五ヶ瀬川 源流域～上流部	6,23	
キリシマミドリシジミ				NT-g				延岡市	19	
キンスジコガネ						B		祖母傾山系	22	
クモガタヒョウモン				NT-g				延岡市	19	
クロカタビロオサムシ				DD-2		B		祖母傾山系	22	
クロカナブン				NT-g				五ヶ瀬川・大瀬川分流地 点	3	
クロシオゴマフボクトウ				VU-r				延岡市	19	
クロシジミ			CR+EN	VU-g				延岡市	4,19	
クロミドリシジミ				VU-g		C		五ヶ瀬川源流域～上流 域(高森町・蘇陽町・高 千穂町)	6,23	
クロモンオビリンガ				DD-2				延岡市	19	

表 2-2-10(3) 五ヶ瀬川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
ゲンゴロウ			NT	CR-g					4	
ゴイシジミ				NT-g				延岡市	19	
コガタノゲンゴロウ			CR+EN	NT-g				五ヶ瀬川・大瀬川分流域 点、北川下流域	3,4,18	
コツバメ				NT-g				延岡市	19	
コヒラタカメムシ						C		祝子川・綱ノ瀬川上流部	6	
コベニモンメクラガメ						C		祖母傾山系 五ヶ瀬川最上流域	6	
ゴマフシロキバガ								延岡市	19	九州未記録
コムラサキ				NT-g				延岡市	19	
サツマウバタマムシ						C		五ヶ瀬川下流域	6	
サツマゴキブリ						C		五ヶ瀬川下流域	6	
サラサヤンマ				NT-g				五ヶ瀬川 中・下流域	3	
シータテハ				NT-g		C		延岡市、祖母傾山系 五ヶ瀬川最上流部	6,19	
シナカミキリ				NT-r		C		五ヶ瀬川源流域(五ヶ瀬 町)	6	
ジャノメチョウ				NT-g				延岡市	19	
ジョナスキシタバ				NT-r		C		祖母傾山系	6	
シラクモアツバ								延岡市	19	九州未記録
シラホシアシブトクチバ								延岡市	19	珍種
シロテンコウモリ				DD-2				延岡市	19	
シロヘリハンミョウ				NT-r				五ヶ瀬川下流域	3	
スギタニゴマケンモン				NT-r		C		祖母傾山系	6	
スギタニルリシジミ				NT-g				延岡市	19	
スジグロチャバネセセリ			NT	NT-r		C		祖母傾山系(高千穂町) 五ヶ瀬川上～源流域 延岡市	4,6,19	
スジボソヤマキチョウ				CR-d		E		祖母傾山系(高千穂町)	6	
スマレシロヒメシャク								延岡市	19	九州未記録
ソトシロフヨトウ								延岡市	19	九州未記録
タカオキリガ				DD-2		C		祖母傾山系	6	
タカネトンボ				NT-r		D		五ヶ瀬川下流域(延岡市 街地)	6	
タガメ			VU	VU-g		指		五ヶ瀬川上流域、宇目 町	3,6,22	
タテハモドキ						C		北川下流域、大瀬川	3,6	
タナベサナエ				VU					4	
ツクシカラスヨトウ				NT-g				延岡市	19	
ツノクロツヤムシ				NT-g		B・C		祖母傾山系(高千穂町・ 宇目町)	6,22	

表 2-2-10(4) 五ヶ瀬川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
ツマキレオナガミズスマシ				DD-2				五ヶ瀬川・大瀬川分流地点	3	
ツマグロキチョウ			VU					下流域、延岡市	3,4,19	
ツمامラサキアツバ								延岡市	19	九州本土未確認、珍
テイキチシャチホコ				DD-2				延岡市	19	
トカラナガカメムシ						C		祝子川上流域	6	
トガリバホソコバネカミキリ				NT-r		B		祖母傾山系	22	
トゲヒゲホソヒラタカメムシ				NT-r		C		祝子川・綱ノ瀬川上流部	6	
ナガトガリバ								延岡市	19	九州未記録
ナガヒラタカメムシ						C		祝子川・綱ノ瀬川上流部	6	
ニジオビベニアツバ				NT-g				延岡市	4,19	貴重種分布局地的
ニホンミツバチ				NT-g				五ヶ瀬川 中・下流域	3	
延岡市周辺の主要なトンボ生息地								延岡市 金堂ヶ池	3	
ハネナガモクメキリガ				NT-g				延岡市	19	
ハルゼミ				NT-g		指		五ヶ瀬川源流域～上流域	6,22,23	
ハンノオオルリカミキリ						B		祖母傾山系	22	
ヒオドシチョウ				NT-g		C		五ヶ瀬川 下～上流域 流域、北川支川中流域、 祖母傾山系	3,6,19	
ヒゲナガトビイロサシガメ						C		祝子川上流域	6	
ヒサマツミドリシジミ				VU-g				延岡市	19	
ヒメエグリアツバ								延岡市	19	珍
ヒメキマダラヒカゲ				NT-g		B・C		祖母傾山系	6,22	
ヒメシロチョウ			VU	VU-r		C		五ヶ瀬川源流域(高森町・蘇陽町)	23	
ヒメスズメ				NT-r		B・C		五ヶ瀬川源流域	23	
ピロウドハマキ						B		祖母傾山系	22	
フジミドリシジミ				NT-g		D		祖母傾山系、延岡市	6,19	
フタコブスジアツバ								延岡市	19	貴重種分布局地的九州珍
ブロウニングカミキリ						C		祖母傾山系	22	
ヘイケボタル				NT-g					4	
ベニイカリモンガ				NT-g				延岡市	4,19	
ベニツチカメムシ				NT-g				五ヶ瀬川・大瀬川分流地点	3	
ヘリグロチャバネセセリ				NT-r		C		延岡市、五ヶ瀬川源流域(高森町・蘇陽町)	19,23	

表 2-2-10(5) 五ヶ瀬川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	種別							確認地点	資料番号	備考
	天	種	環	県	水	自	湿			
ホシミスジ				NT-r		C		五ヶ瀬川源流域(高森町・蘇陽町) 高千穂町山間部	6,23	
ホソバネキンウワバ								延岡市	19	大方北方系珍
ホソムネクロナガオサムシ						B		祖母傾山系	22	
ホソモモブトカミキリ						C		祖母傾山系(高千穂町) 五ヶ瀬川源流域(五ヶ瀬町)	6	
マエウスモンキノメイガ								延岡市	19	分布貴重
マルバネヒメカゲロウ						C		祖母傾山系	22	
ミズイロオナガシジミ				NT-g				延岡市	19	
ミスジチョウ				VU-g		B・C		祝子川中流域、祖母傾山系五ヶ瀬川上流域、延岡市	6,19,22	
ミヤマセセリ				NT-g				延岡市	19	
ミヤマチャバネセセリ				NT-g				延岡市	19	
ムカシトンボ				NT-g		指		五ヶ瀬川 岩熊井堰付近、北川下流域、五ヶ瀬川上流域(山間の溪流)、北川支川(小川等)	2,3,4,6	
ムカシヤンマ				NT-g		指		日之影川(日之影町)	6	
メスアカミドリシジミ				NT-g		B・C		祖母傾山系 五ヶ瀬川最上流部(五ヶ瀬町)、延岡市	6,19,22	
ヤセオオヒラタカメムシ			VU			C		祝子川・綱ノ瀬川上流部	6	
ヤマトハガタヨトウ				NT-g				延岡市	4,19	
ヨツボシトンボ						D		五ヶ瀬川下流域	6	
ヨツボシメクラガメ						C		祝子川上流域	6	
リュウキュウリボシカミキリ						C		祝子川・綱ノ瀬川上流部 祖母傾山系	6,22	
ルリヒラタムシ						D		祖母傾山系	22	
ヒメボタル				NT-g				北川町(北川中流)	28	
シロヘリツチカメムシ			NT					五ヶ瀬川・大瀬川分流域地点	3	
グンバイトンボ			VU	EN-r				北川下流域	4	
キイロサナエ				VU-g				北川下流域	4	
タベサナエ				VU-g				北川下流域	4	
ナベブタムシ				NT-g				北川上流域	4	

3) 区域ごとの主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布値、繁殖地等

表 2-2-11 区域ごとの主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地等

区域	主な環境の構成要素	河川環境を特徴づける種	集団分布地、繁殖(産卵)地、ねぐら
下流域	<p>水域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汽水域、入り江 ・瀬、堰 <p>陸域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂浜、干潟 ・中洲、河川敷、ヨシ、アシ、草地 	<p>植 物：<u>コアモ</u>群落、ヨシ、アシ、マコモ群落、ヒメガマ群落、ハマボウ、<u>シバ</u>、<u>クノアシ</u></p> <p>哺乳類：<u>カシバ</u>、<u>カネミ</u>、<u>タヌキ</u>、<u>イタチ</u></p> <p>鳥 類：<u>カウ</u>、<u>コアシ</u>、<u>マガモ</u>、<u>ツシガ</u>、<u>モ</u>、<u>トビガモ</u>、<u>サンショウクイ</u>、<u>セイウ</u>、<u>シ</u>、<u>チュウザ</u>、<u>チュウ</u></p> <p>両生は虫：<u>アカミガメ</u>、<u>スッポン</u>、<u>クマガ</u></p> <p>魚 類：<u>アサ</u>、<u>スズキ</u>、<u>ボラ</u>、<u>アユ</u>、<u>カサギ</u>、<u>ウグ</u>、<u>イ</u>、<u>ボウ</u>、<u>ヒ</u></p> <p>昆虫類：<u>ムカシホ</u>、<u>カラスジ</u>、<u>ヒトシ</u>、<u>ショウ</u></p>	<p>植 物：<u>コアモ</u>群落、<u>ハマボウ</u>群落</p> <p>哺乳類：河畔のイネ科植物 = <u>カネミ</u>の繁殖地及びねぐら、</p> <p>鳥 類：河口域 = <u>サギ</u>類、<u>カモ</u>類の集団繁殖地 中洲のヨシ林 = <u>ツバメ</u>、<u>ムクドリ</u>のねぐら</p> <p>両生は虫：砂浜 = <u>アカミガメ</u>の産卵地</p> <p>魚 類：汽水域 = <u>アサ</u>、<u>スズキ</u>等の幼稚魚の繁殖地</p> <p>昆虫類：河畔の<u>ムカシホ</u>、<u>イネ</u> = <u>ヒトシ</u>、<u>ショウ</u>等蝶類の採餌・繁殖</p>
中流域	<p>水域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早瀬、淵 <p>陸域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河畔林、岩、砂礫 	<p>植 物：<u>ツバ</u>、<u>ハ</u></p> <p>鳥 類：<u>アサ</u>、<u>チュウザ</u>、<u>ムクドリ</u>、<u>ヒキ</u>、<u>イ</u>、<u>ハ</u>、<u>ハ</u>、<u>サ</u>、<u>ミ</u></p> <p>魚 類：<u>アユ</u>、<u>カサギ</u>、<u>ナマズ</u>、<u>ウグ</u>、<u>イ</u>、<u>カ</u>、<u>ア</u></p> <p>昆虫類：<u>オム</u>、<u>ヒトシ</u>、<u>アカ</u></p>	<p>植 物：鬼の目山の<u>ツバ</u>、<u>ハ</u>自生地</p> <p>鳥 類：<u>サ</u>類、<u>カ</u>類の集団繁殖地</p>
上流域	<p>水域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・V字渓谷、早瀬、滝 <p>陸域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹林地、断崖 	<p>植 物：<u>スギ</u>・<u>ヒノキ</u>等の原生林、自然林、<u>サ</u>、<u>ハ</u>、<u>ヒメ</u></p> <p>哺乳類：<u>カシバ</u>、<u>コホシ</u>、<u>イノシ</u>、<u>テン</u>、<u>ア</u></p> <p>鳥 類：<u>ハ</u>、<u>ク</u>、<u>カ</u>、<u>オ</u></p> <p>両生は虫：<u>ウツ</u>、<u>オ</u>、<u>ハ</u>、<u>シ</u>、<u>フ</u>、<u>オ</u>、<u>オ</u></p> <p>魚 類：<u>アユ</u>、<u>ヤマメ</u>、<u>ウグ</u>、<u>イ</u>、<u>オ</u>、<u>ア</u>、<u>ラ</u>、<u>ド</u></p> <p>昆虫類：<u>オム</u>、<u>カ</u></p>	<p>植 物：<u>ツバ</u>、<u>シ</u>群落、<u>白</u>、<u>岩</u>の岩峰植物群落と<u>ク</u>、<u>ク</u>群落を含む原生林</p> <p>哺乳類：<u>カシバ</u>、<u>イノシ</u>等の分布、繁殖地（祖母傾山系）</p> <p>両生は虫：<u>ウツ</u>類の分布、繁殖地</p> <p>魚 類：<u>ヤマメ</u>、<u>アユ</u>の産卵地</p>
祝子川流域	<p>水域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渓谷、早瀬、淵 <p>陸域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河畔林、 	<p>植 物：<u>ア</u>、<u>ヒ</u>、<u>サ</u>、<u>イ</u></p> <p>哺乳類：<u>カシバ</u>、<u>イノシ</u></p> <p>鳥 類：<u>カガ</u></p> <p>両生は虫：<u>フ</u>、<u>オ</u></p> <p>魚 類：<u>ヤマメ</u>、<u>コジ</u>、<u>アユ</u></p> <p>昆虫類：<u>オム</u>、<u>シ</u>、<u>ヒトシ</u></p>	<p>植 物：上流域の自然林、<u>イ</u>、<u>イ</u>林</p> <p>哺乳類：<u>カシバ</u>等の分布、繁殖地</p> <p>鳥 類：<u>カガ</u>の繁殖地</p> <p>両生は虫：<u>フ</u>、<u>オ</u>の産卵地</p> <p>魚 類：<u>ヤマメ</u>の産卵地</p>
北川流域	<p>水域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渓谷、瀬、淵 <p>陸域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河畔林、草地、沈水植物 	<p>植 物：<u>ク</u>群落、<u>コ</u>群落、<u>スギ</u>・<u>ヒ</u>、<u>水</u>、<u>雑</u>、<u>草</u>、<u>群</u>、<u>落</u></p> <p>鳥 類：<u>オ</u>、<u>ヒ</u>、<u>サ</u></p> <p>両生は虫：<u>カ</u>、<u>ト</u></p> <p>魚 類：<u>アユ</u>、<u>ヤマメ</u>、<u>ア</u>、<u>カ</u></p> <p>昆虫類：<u>ゲン</u>、<u>ホ</u>、<u>ヒ</u></p>	<p>植 物：家田周辺の湿地植物群落</p> <p>魚 類：<u>アユ</u>・<u>ヤマメ</u>の産卵</p> <p>昆虫類：<u>ホタル</u>類の繁殖地</p>

下線は特定種を示す。

4) 文献一覧表

表 2-2-11 動植物関係収集資料一覧表

資料番号	出典資料名及び選定基準
1	日本の重要湿地 500 (環境省「インターネット自然研究所」ホームページより)
2	五ヶ瀬川カワナビマップ(国土交通省 延岡工事事務所調査第一課ホームページより)
3	五ヶ瀬川水系 河川環境情報図 (平成14年3月) 国土交通省 延岡工事事務所
4	宮崎県河川整備計画検討委員会 五ヶ瀬川水系北川圏域 - 県管理区間 - 第1回委員会資料 平成15年3月 宮崎県
5	ヒアリング
6	第2回自然環境保全基礎調査 宮崎県動植物分布図 昭和56年 環境庁自然保護局企画調整課
7	環境庁レッドリスト(ホームページ 公開種)
8	文化財資料(国・県・各市町)
9	五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川圏域河川整備計画(案) - 県管理区間 - 参考資料 平成14年5月 宮崎県
10	川の生物図典 財団法人リバーフロント整備センター編
11	フィールド総合図鑑 川の生物 財団法人リバーフロント整備センター編
12	山溪カラー名鑑 日本の淡水魚
13	日本の重要な植物群落 九州版 環境庁 編
14	第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 (環境庁 1991)
15	延岡市環境基本計画 自然環境補足調査 報告書及びデータ集 (2001年3月 延岡市)
16	第3回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書 九州・沖縄版 環境庁 1897年
17	第4回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書 九州・沖縄版 環境庁 平成6(1994)年3月
18	延岡市環境基本計画 自然環境調査 報告書及びデータ集 (2000年3月 延岡市)
19	延岡市環境基本計画 自然環境補足調査 報告書及びデータ集 (2001年12月 延岡市)
20	生物多様性調査 鳥類調査中間報告書 平成11(1999)年3月 環境庁自然保護局 生物多様性センター
21	生物多様性調査 動物分布調査報告書(両生類・爬虫類) 平成13(2001)年10月 環境庁自然保護局 生物多様性センター
22	第2回自然環境保全基礎調査 大分県動植物分布図 1981年 環境庁
23	第2回自然環境保全基礎調査 熊本県動植物分布図 1981年 環境庁
24	第4回自然環境保全基礎調査 宮崎県自然環境情報図 平成7年 環境庁
25	第4回自然環境保全基礎調査 大分県自然環境情報図 平成7年 環境庁
26	第4回自然環境保全基礎調査 熊本県自然環境情報図 平成7年 環境庁
27	宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物 平成12年3月 宮崎県
28	パンフレット等
29	植物群落レッドデータ・ブック 1996 (財)日本自然保護協会(NACS-J) (財)世界自然保護基金日本委員会(WWF Japan)

2 - 3 . 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 観光及び景勝地

五ヶ瀬川流域には、すぐれた自然景観が非常に多く存在し、国や県、市町においてそれらの保全が図られているとともに、多くの観光客を誘致する資源となっている。

上流部から中流部にかけては祖母傾国定公園、祖母傾県立自然公園に指定されており、高千穂峡、見立渓谷などの渓谷や滝など、河川に関わりの深い山岳景勝地が多く、四季を通して行楽に訪れる人々で賑わいを見せている。祝子川上流の大崩山や比叡山～矢筈岳周辺は、険峻な山岳と四季を通じて自然林や花々を愛でる、自然景観を鑑賞しながらの登山コースとして人気が高い。

下流域から河口部は、砂州や砂丘などの海岸景観がすぐれており、特に延岡市から北浦町へ延びる長浜海岸は、国定公園やアカウミガメの産卵地として文化財としての保護を受ける美しい砂浜となっている。北浦町付近になると岩礁や海崖食の様相が増え、延岡市側とは異なった自然景観を見せている。



高千穂峡と真名井の滝

(宮崎県高千穂町)

三田井市街の南西約1.5km、阿蘇溶岩台地が数億年もの間五ヶ瀬川に浸食されてできた深いV字形の峡谷。延長2kmあまりに渡って続いており、「五ヶ瀬峡谷(高千穂峡)」として、国の名勝に指定されている。両岸には高さ50～100mの断崖が見事な柱状節理を見せてそそり立ち、崖上に茂る樹木が谷を覆って、神秘的な雰囲気醸し出している。

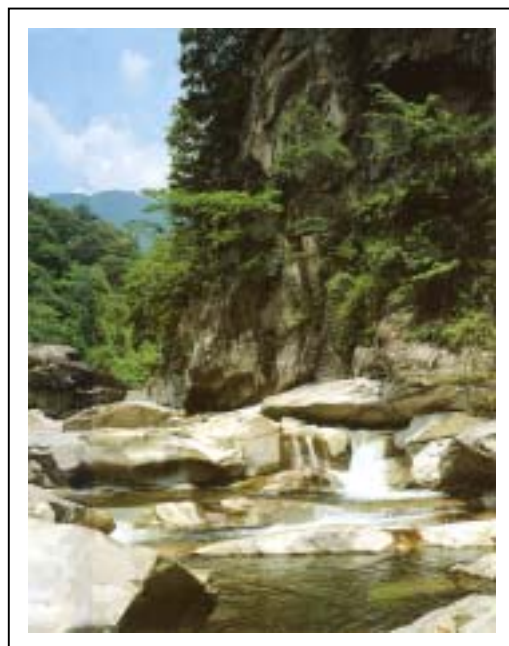
写真：高千穂町のホームページより

見立渓谷

(宮崎県日之影町)

祖母傾山系を源流とする全長38kmの日之影側上流に位置する。急流に浸食された花崗岩系の奇岩・怪岩がいたるところに露出する。高地の植物が有名で、春の新緑と秋の紅葉の美しさで名所となっている。また、かもしかの森にある「英国館」は、国の登録有形文化財に指定されている。

写真：パンフレット「ふるさと日之影・浪漫散策」より





大崩山

(宮崎県北川町・北方町・日之影町)

祖母傾国定公園及び祖母・傾県立自然公園に含まれる。山容は自然林におおわれ、変化豊かな大小の岩峰が随所にそそり立っている。永い歴史の中で造形された深い渓谷、花崗岩からなる岩石と清流、豊富な植物に加えカモシカの棲息地としても知られる。また、登山としても人気が高い。

写真：パンフレット「きたがわ」(北川町)より

比叡山

(宮崎県北方町)

標高は918m、花崗岩のスラブで鎧われたこの山は、昭和14年に国の名勝に指定された。網の瀬川の流れから一気に立ち上がる岩山で、対岸には険峻な矢筈岳が聳えている。

写真：パンフレット「北方見聞」(北方町)より



行藤の滝

(宮崎県延岡市)

延岡市の行藤山にある落差77m、幅30mの滝。日本の滝100選に選ばれており、垂直の岩壁を水が滑り落ちる様は近くで見ると迫力がある。

写真：パンフレット「まるごと延岡」(延岡市)より

表2-3-1(1) 五ヶ瀬川流域内のすぐれた自然景観

自然景観資源名	名称	県	関係市町村
火山群	阿蘇火山	熊本県	高森町
	阿蘇火山中央河口群	熊本県	高森町
火山	高岳	熊本県	高森町
	根子岳	熊本県	高森町
	丸山	熊本県	高森町
火口・カルデラ	阿蘇カルデラ	熊本県	高森町
カルデラ壁	阿蘇カルデラ壁	熊本県	高森町
山地景観 山脈・山地・高地・丘陵	九州山地	熊本県	高森町、蘇陽町
		宮崎県	北浦町、北川町、北方町、延岡市、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町
		大分県	宇目町
非火山性孤峰	愛宕山	宮崎県	延岡市
断崖・岩壁	湧塚南壁	宮崎県	北川町
	小積ダキ北壁	宮崎県	北川町
	坊主尾根南壁	宮崎県	北川町
	二枚ダキ	宮崎県	北川町
	大崩ダキ	宮崎県	北川町
	広ダキ	宮崎県	北川町
	鋒岳岩壁	宮崎県	北川町
	行藤奥壁左岩壁	宮崎県	北川町
	雌岳西壁・南壁	宮崎県	北川町
	雄岳中央壁・右岩壁	宮崎県	北川町
	比叡山・峰岩壁	宮崎県	北方町
	矢筈岳右岩壁	宮崎県	北方町
	比叡山 峰南壁	宮崎県	北方町
	北川ダム付近の断崖・岩壁	大分県	宇目町
	藤河内溪谷の断崖・岩壁	大分県	宇目町
岩峰・岩柱	七日廻りダキ	宮崎県	北川町
	上湧塚岩柱	宮崎県	北川町
	中湧塚岩柱	宮崎県	北川町
	丹助岳	宮崎県	北方町
	矢筈岳岩峰	宮崎県	北方町
	傾山の岩峰・岩柱	宮崎県	日之影町
	東傾の岩峰・岩柱	大分県	宇目町
石灰岩景観 鍾乳洞	三合鍾乳洞	宮崎県	高千穂町
	四恩岳鍾乳洞	宮崎県	高千穂町
	七折鍾乳洞	宮崎県	日之影町
	柘の滝鍾乳洞	宮崎県	高千穂町
	太子ヶ岩鍾乳洞	宮崎県	高千穂町
	尾越鍾乳洞	大分県	宇目町
特殊地学景観 岩脈	比叡一行藤弧状岩脈	宮崎県	延岡市、北方町、北川町
岩脈	根子岳天狗岩岩脈	熊本県	高森町

出典：第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書「日本の自然景観 九州版」より

表2-3-1(2) 五ヶ瀬川流域内のすぐれた自然景観

自然景観資源名	名称	県	関係市町村
水景 河川景観 峡谷・渓谷	御手洗渓谷	宮崎県	北方町
	鹿川渓谷	宮崎県	北方町、日之影町
	日之影渓谷	宮崎県	日之影町
	岩戸川渓谷	宮崎県	高千穂町
	高千穂峡	宮崎県	高千穂町
	三ヶ所渓谷	宮崎県	五ヶ瀬町
	五ヶ所渓谷	宮崎県	五ヶ瀬町
	蘇陽峡	熊本県	蘇陽町
		宮崎県	五ヶ瀬町
	西山渓谷	大分県	宇目町
	藤河内渓谷	大分県	宇目町
	穿入蛇行河川	小川	宮崎県
三ヶ所川		宮崎県	五ヶ瀬町
五ヶ瀬川		宮崎県	五ヶ瀬町
瀬	下渡の瀬	宮崎県	北方町
甌穴群	御手洗渓谷甌穴群	宮崎県	北方町
	高千穂峡甌穴群	宮崎県	高千穂町
	鶉の子滝甌穴群	宮崎県	五ヶ瀬町
	鞍岡小川甌穴群	宮崎県	五ヶ瀬町
	西山渓谷の甌穴群	大分県	宇目町
	藤河内渓谷の甌穴群	大分県	宇目町
滝	蛇淵の滝	宮崎県	北川町
	観音滝	宮崎県	北浦町
	モチダ谷第三の滝	宮崎県	北川町
	若狭の淵滝	宮崎県	北川町
	登山口の滝	宮崎県	北川町
	水神淵の滝	宮崎県	北川町
	蛇淵の滝	宮崎県	北浦町
	千貫淵の滝	宮崎県	北川町
	鹿川キャンプ場の滝	宮崎県	北方町
	落水の滝	宮崎県	北川町
	竜子滝	宮崎県	北川町
	香花滝	宮崎県	北川町
	香花滝	宮崎県	北川町
	森谷観音滝	宮崎県	北川町
	二股二段滝	宮崎県	北方町
	行勝の滝	宮崎県	延岡市
	那智の滝	宮崎県	延岡市
	観音滝	宮崎県	高千穂町
	土々呂滝	宮崎県	高千穂町
	竜ガ岩屋の滝	宮崎県	高千穂町
	竜宮滝	宮崎県	高千穂町
	鳴滝	宮崎県	高千穂町
	真名井の滝	宮崎県	高千穂町
	玉垂の滝	宮崎県	高千穂町

出典：第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書「日本の自然景観 九州版」より

表2-3-1(3) 五ヶ瀬川流域内のすぐれた自然景観

自然景観資源名	名称	県	関係市町村
滝	蛇ヶ淵の滝	宮崎県	高千穂町
	宇土内滝	宮崎県	北方町
	轟滝	宮崎県	五ヶ瀬町
	八戸観音滝	宮崎県	日之影町
	滝下の滝	宮崎県	北方町
	布引滝	宮崎県	北方町
	鶴ノ子滝	宮崎県	五ヶ瀬町
	うげの滝	宮崎県	五ヶ瀬町
	親白滝	宮崎県	五ヶ瀬町
	子白滝	宮崎県	五ヶ瀬町
	観音滝（藤河内）	大分県	宇目町
海岸景観 溺れ谷	北浦 - 延岡海岸	宮崎県	延岡市、北浦町
	島浦島海岸（日豊海岸）	宮崎県	延岡市
	遠見山半島海岸	宮崎県	延岡市
砂浜・磯浜	方財町海岸	宮崎県	延岡市
	長浜海岸	宮崎県	延岡市
	新浜町海岸	宮崎県	延岡市
砂嘴	方財町砂嘴	宮崎県	延岡市
砂州	浦尻湾砂州	宮崎県	延岡市
	東浜砂町砂州	宮崎県	延岡市
	新浜町砂州	宮崎県	延岡市
砂丘	長浜砂丘	宮崎県	延岡市
	新浜町海岸砂丘	宮崎県	延岡市
海食崖	宇土崎海崖	宮崎県	北浦町
	遠見山牧場海崖	宮崎県	北浦町
	斗栴崎海崖	宮崎県	北浦町
	赤水岬海崖	宮崎県	延岡市
波食台	平磯波食台	宮崎県	北浦町
岩礁	芋の子礁	宮崎県	北浦町
	西礁	宮崎県	北浦町
	かり礁	宮崎県	北浦町
	横島岩礁群	宮崎県	北浦町
	烏帽子子礁一平礁	宮崎県	北浦町
	耳ほげ礁	宮崎県	北浦町
	投石礁	宮崎県	北浦町
	むら礁	宮崎県	北浦町
	沖ノ子島岩礁群	宮崎県	延岡市
	二子礁一立礁	宮崎県	延岡市
	丸山礁	宮崎県	延岡市
	難礁	宮崎県	延岡市
海食洞	耳ホゲ	宮崎県	北浦町
	千貫の目	宮崎県	延岡市
	潮吹	宮崎県	延岡市
	くらかけ	宮崎県	延岡市
	はなぐり	宮崎県	延岡市
その他 上記以外の際立った地形	河岸段丘状台地	宮崎県	高千穂町、五ヶ瀬町

出典：第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書「日本の自然景観 九州版」より

表2-3-1(4) 五ヶ瀬川流域内のすぐれた自然景観（名選・他）

名称		所在地	概要
日本の滝百選	行藤の滝	宮崎県：延岡市	・花崗岩と原生林の行藤山。その雄岳・雌岳が相寄るところに76.6mの高さを誇る雄大な滝。別名「矢筈の滝」ともいう。
	真名井の滝	宮崎県：高千穂町	・太古の昔より湧き続ける石清水が高千穂峡に注ぐその姿は、渓谷の中でも圧巻。神話の里・高千穂が故にどことなく神秘的な雰囲気を持つ滝で、落ちる水が風を誘い、ボートで近づくとき涼しさは格別。
美しい日本のむら景観百選 （農林水産省）	戸川地区	宮崎県：日之影町	・「石垣の村」戸川では、畳一枚ほどの巨岩と樹木で作ったコロやテコを利用し、嘉永から安永年間に築かれた石垣を大切に保存している。
水の郷百選 （国土交通省）	延岡市	宮崎県：延岡市	・豊富な水資源は化学繊維工業等の需要に対応し、県内一の工業都市を形成しており、五ヶ瀬川の「鮎やな」、「イカダ下り」、さらに水神さん祭り、流れ灌頂などの伝統行事も伝承され、水とみどりと活力のあるまちづくりを目指している。また、岩熊井堰等の古くからの利水施設も適切に保存・利用されている。
日本の棚田百選 （農林水産省）	尾戸の口	宮崎県：高千穂町	・棚田の形状的な美しさ。周辺地域を含んだ農村風景としての美しさが特徴。
	栃又	宮崎県：高千穂町	
	徳別当	宮崎県：高千穂町	
	石垣の村	宮崎県：日之影町	・急峻な棚田のほとんどが石積みで姿が美しい。また、観光エリアの中心に位置し、深い森林と清流、そそり立つ奇岩、新緑と紅葉はみごとな渓谷美をみせてくれる。 ・宅地、石蔵、防風垣等村全体が石垣で作られ独特の雰囲気をかもしている。一番古い石垣は嘉永から安政年間に築かれたとされ村人全体が石工であったといわれている。小さい石と巨岩を自在に組み合わせた建造物は代々の村人の芸術作品であり文化遺産である。
	鳥の巣	宮崎県：五ヶ瀬町	・宮の原集落が三ヶ所神社や浄専寺等の神社仏閣を管理する集落であるため、冠 婚葬祭等について、昔からの伝統文化を継承している。特に三ヶ所神社と浄専 寺の間にある三ヶ所用水路の開設当時の先駆者の後藤寅五郎氏の胸像は、先人 達の偉業を後世に伝えている。
	下の原	宮崎県：五ヶ瀬町	・近傍のサイフォン施設を含んで、面的な棚田と線的な施設の織りなす景観を呈しており、棚田公園の整備等の構想もある地区である。 ・伝統文化の維持保全：内の口集落に金比羅さん、お大師さん、お地蔵さん祭り等の祭事等が多く、非常に地域文化を大切にしている地域である。ふるさと水と土保全活動等において子供たちへの研修の場としても利用されている地域でもある。
日蔭	宮崎県：五ヶ瀬町	・九州島発祥の地と言われる祇園山をバックに下流域の集落と共に山間部の棚田の風景を呈している。 ・水源にある妙見神社や地域の活性化施設である「水の館」を中心に祇園神楽の伝承や近傍の自然を活かした「もみじ祭り」で文化の維持・保全活動を図っている。	

出典：「2001年版 宮崎県観光要覧」「熊本県地域振興局ホームページ」「国土交通省ホームページ」「農林水産省ホームページ」等より

表2-3-1(5) 五ヶ瀬川流域内のすぐれた自然景観（名選・他）

名称		所在地	概要
熊本名勝百景	高森峠	熊本県：高森町	・南郷谷が一望できる。荒々しく男性的な根子岳が目の前に見える。
	らくだ山公園展望所	熊本県：高森町	・熊本名勝百景第1位の大パノラマ、根子岳が展望できる。
雲海	国見ヶ丘、四季見原、烏帽子岳（見所）	宮崎県：高千穂盆地一帯	・秋の快晴、無風の冷え込んだ朝、高千穂盆地は雲海に覆われる。見頃は日の出前後で、初冬頃まで見ることができる。
風穴（祖母山）	祖母山麓	宮崎県：高千穂町 大字五ヶ所	・風穴とは、山の斜面に生じた横穴で、夏季には穴の内壁全体に結氷が見られ、自然の大氷庫をなすものをいう。祖母山の風穴は、北谷登山口から約1km入り込んだ、標高1,300mの所にあり、ちょうど断崖の下部になる。高さ3mにも及ぶ四畳敷大の大岩が、蓋のように入り口をふさいだ空間になっている。入り口から氷室までの距離は約30mで、中からは夏季の間中、常に冷気がでてくる。
水源	妙見の水（水の館）	宮崎県：五ヶ瀬町 鞍岡	・九州発祥の地 祇園山の麓から湧き出る大量の出水は小谷をつくり、名水とされている。「四億年の雫」といわれ親しまれている。
	舟の口水源	熊本県：蘇陽町 長崎	宮崎県五ヶ瀬町との県境にある湧水。五ヶ瀬川と合流し渓谷美を誇る蘇陽峡の源となる。熊本名水百選。

出典：「2001年版 宮崎県観光要覧」「熊本県地域振興局ホームページ」「国土交通省ホームページ」「農林水産省ホームページ」等より

(2) 文化財

五ヶ瀬川流域には歴史的に重要な文化財、史跡が多く、下表に示すとおり国指定で12件、県指定で15件の文化財がある。

表2-3-21) 五ヶ瀬川流域内文化財一覧表(国指定)

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
	特天	カモシカ	祖母傾山国有林内外(位置を特定せず)	S31. 2.15
1	重文	鉄造狛犬(一対)	宮崎県:高千穂町(高千穂神社)	S46. 6.22
2	重無	高千穂の夜神楽	宮崎県:高千穂町	S53. 5.24
3	重無	五ヶ瀬の荒踊	宮崎県:五ヶ瀬町	S62. 1. 8
4	史跡	南方古墳群	宮崎県:延岡市	S18. 9. 8
5	名天	五ヶ瀬川溪谷(高千穂峡)	宮崎県:高千穂町	S 9.11.10
6	天	祝子川のモウソウキンメイ竹林	宮崎県:北川町	S45. 8.11
7	天	柘の滝鍾乳洞	宮崎県:高千穂町	S 8. 2.28
8	天	田原のイチヨウ	宮崎県:高千穂町	S26. 6. 9
9	天	下野八幡宮のケヤキ	宮崎県:高千穂町	S26. 6. 9
10	天	下野八幡宮のイチヨウ	宮崎県:高千穂町	S26. 6. 9
11	天	七折鍾乳洞	宮崎県:日之影町	S 8. 2.28
12	名勝	比叡山および矢筈嶽	宮崎県:北方町・日之影町	S14. 9. 7

(凡例) 重文:重要文化財 重有:重要有形民族文化財 無民:無形民族文化財
 重無:重要無形民族文化財 重:重要無形文化財 有文:有形文化財
 天:天然記念物 名天:名勝天然記念物



鉄造狛犬(一対)【国指定重要文化財】

(宮崎県高千穂町)

鎌倉時代後期の作と思われる。鑄造の故もあって、狛犬の類型的な形にとらわれず、たくましく、力強い像形をしている。鑄造狛犬の作例は全国的にもまれである。

写真:パンフレット「神話の里 歴史とのふれあい」(高千穂町コミュニティセンター)より



高千穂の夜神楽

【国指定重要無形民俗文化財】

(宮崎県高千穂町)

岩戸神話を舞踏化した33番の神楽が、毎年11月下旬から2月上旬にかけて高千穂地方の集落内に夜を徹して舞われる。

写真：高千穂町のホームページより

五ヶ瀬の荒踊 【国指定重要無形民俗文化財】

(宮崎県五ヶ瀬町)

三ヶ所神社の秋祭に古例にならって奉納され、その翌日、坂本城址と中登神社で踊られる。踊りは戦国時代の武者装束をつけた勇壮なもので60人の員数を要する。

写真：パンフレット「森の歌」(五ヶ瀬町企画商工課・五ヶ瀬町観光協会)



七折鍾乳洞 【国指定天然記念物】

(宮崎県日之影町)

総延長140mにおよび、鍾乳石、石筍、石柱、石幕等のほかに菊花状の方解石の放射晶群を有している。

写真：パンフレット「ふるさとの文化財」(日之影町教育委員会)より

比叡山および矢筈嶽【国の名勝】

(宮崎県北方町、日之影町)

五ヶ瀬川の支流・綱の瀬川の峡谷を介して比叡山と矢筈岳が相對している。花崗斑岩脈中の雄大な連峰で、断崖絶壁の間に松、楓、つつじなどが生育し絶景である。

写真：日之影町教育委員会



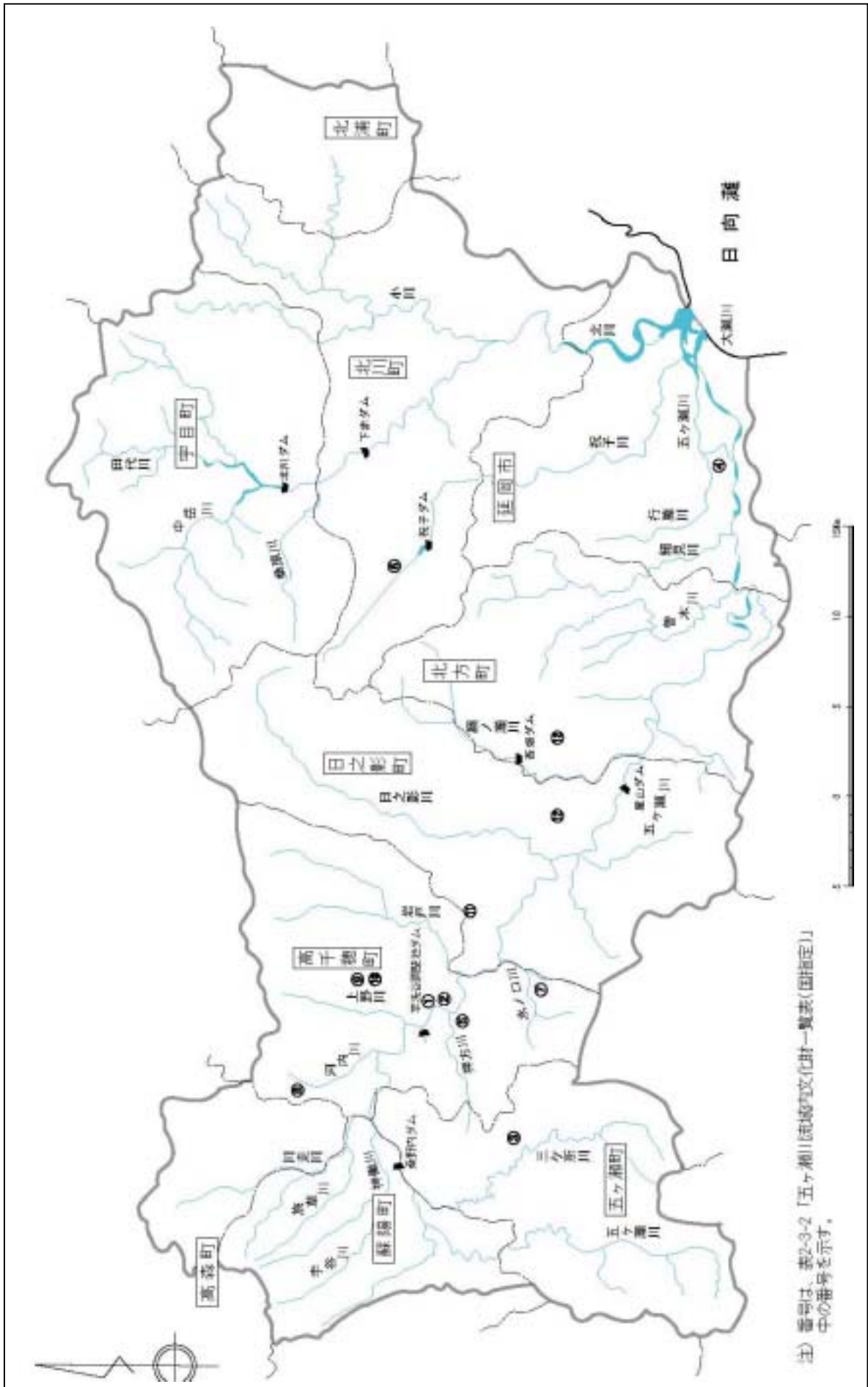


図2-3-1 五ヶ瀬川流域内 国指定文化財位置図

表2-3-2(2) 五ヶ瀬川流域内文化財一覧表(県指定)

種別	名称	所在地	指定年月日
有文	鉄 鱒 口 (一 口)	宮崎県：延岡市(行藤神社)	S40. 8.17
有文	鍍 銀 蓮 池 文 華 鬘 (二面)	宮崎県：延岡市(三福寺)	S40. 8.17
有文	石 造 六 地 蔵 幢	宮崎県：延岡市(内藤記念館)	S40. 8.17
有文	横 穴 墳	宮崎県：日之影町	
有文	円 墳	宮崎県：日之影町	
有文	石 棺	宮崎県：日之影町	
有文	男神像及び女神像(四躯)	宮崎県：高千穂町(高千穂神社)	S34. 7.10
有文	石刻門守神像(二面)	宮崎県：五ヶ瀬町(三ヶ所神社)	S40. 8.17
有文	塩見太師庵宝塔	大分県：宇目町	S51. 3.30
重有	切支丹柄鏡	大分県：宇目町	S34. 3.20
無民	柚木野人形	宮崎県：高千穂町	S37. 5.15
無民	大人歌舞伎	宮崎県：日之影町	
重無	千束楽	大分県：宇目町	S41. 3.22
史跡	南州翁萬居跡	宮崎県：北川町	S 8.12. 5
史跡	吉野朝勤王家芝原又三郎の墓	宮崎県：高千穂町	S 8.12. 5
史跡	陣内遺跡	宮崎県：高千穂町	S51. 3.26
史跡	後曾木古墳	宮崎県：北方町	S12. 7. 2
史跡	高畑赤立遺跡	熊本県：蘇陽町	H10. 3. 11
史跡	重岡キリシタン墓	大分県：宇目町	S34. 3.20
天	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎県：延岡市(宮崎市,日南市)	S55. 6.24
天	福寿草自生地	宮崎県：高千穂町	S 8.12. 5
天	白岩山石灰岩峰植物群落	宮崎県：五ヶ瀬町	S17. 6.23
天	浄専寺のシダレザクラ	宮崎県：五ヶ瀬町(浄専寺)	S40. 8.17
天	宇目の野生桐	大分県：宇目町	S34. 3.20
天	鷹鳥屋山の自然林	大分県：宇目町	S60. 3.29
名勝	那智の滝	宮崎県：延岡市	S12. 7. 2
名勝	行藤山	宮崎県：延岡市	S32.12.15
名勝	藤河内溪谷	大分県：宇目町	S34. 3.20

(凡例) 重文：重要文化財 重有：重要有形民族文化財 無民：無形民族文化財
 重無：重要無形民族文化財 重：重要無形文化財 有文：有形文化財
 天：天然記念物 名天：名勝天然記念物



アカウミガメ及びその産卵地

【県指定天然記念物】

(宮崎県延岡市)

長浜海岸の一部(約3.8km)が、アカウミガメ及びその産卵地として指定されている。延岡市では平成3年の74頭をピークに減少し、現在では30頭ほどの上陸しか見られなくなっている。

写真：「延岡市の文化財」(延岡市教育委員会)より



行藤山【県指定名勝】

(宮崎県延岡市)

祖母傾国定公園に属す標高約830mの山で丹助嶽、比叡山、茶臼山と続いている。絶壁がそそり立つ雄岳、雌嶽と呼ばれる2つの岩峰からなり、この遠望が狩猟や騎乗の際着用した装束である行藤の形に似ていることから行藤山と呼ばれた。

写真:「延岡市の文化財」(延岡市教育委員会)より



千束楽【県指定重要無形文化財】

(大分県宇目町)

毎年9月の第3土曜と日曜日に千束の鷲野尾神社祭礼の時に奉納される。宇目郷最古の360年歴史を持つ民俗芸能。

写真:「2000宇目町町勢要覧」(宇目町)より



浄専寺のシダレザクラ【県指定天然記念物】

(宮崎県五ヶ瀬町)

浄専寺境内にあるしだれ桜は、樹齢250年を越えており、毎年3月下旬から4月上旬が見ごろとなっている。

写真:パンフレット「神話・伝説の道」(「神話・伝説の道」関係市町村連絡会議)より

2 - 4 . 自然公園等の指定状況

五ヶ瀬川流域は、自然環境に非常に恵まれており、3の国定公園と2つの県立自然公園の指定を受けているとともに、以下のように鳥獣保護区も指定されている。

また、流域内の都市計画は延岡市と高千穂町にあり、高千穂町の都市計画は街路事業となっている（図2-4-3参照）。

表2-4-1 自然公園一覧表

種別	公園名	流域内 関係市町村	指定年月日	備考
国立・国定公園	祖母・傾 国定公園	大分県：宇目町 宮崎県：延岡市、 北方町、北川町、 高千穂町、日之影町、 五ヶ瀬町	S40. 3.25	未開の自然林、多種多様の動植物群の分布、神話伝説の発祥地。
	日豊海岸 国定公園	宮崎県：延岡市、北 浦町、北川町	S49. 2.15	半島と湾、島嶼、断崖のおりなすリアス式海岸の美。
	九州中央山地 国定公園	宮崎県：五ヶ瀬町	S57.5.15	原生林のすぐれた自然景観と豊かな動植物、歴史的文化的資源に富む。
県立 自然公園	矢部周辺 県立自然公園	熊本県：蘇陽町	S32.8.3 S57.5.15削除 H7.7.10再検討	多数の自然景観資源。
	祖母・傾 県立自然公園	宮崎県：延岡市、 北方町、北川町、 高千穂町、日之影町、 五ヶ瀬町	S33. 9. 1	未開の自然林、多種多様の動植物群の分布、神話伝説の発祥地。

表2-4-2 規制状況一覧表

規制項目	関係法令	関係市町
鳥獣保護区	鳥獣保護及び 狩猟に関する法律	大分県：宇目町 熊本県：高森町、蘇陽町 宮崎県：延岡市、五ヶ瀬町、 高千穂町、日之影町、 北方町、北川町
都市計画区域	都市計画法	宮崎県：延岡市、高千穂町

祖母傾国定公園（鉾岳）

写真：パンフレット「北方見聞」（北方町）より



日豊海岸国定公園

写真：延岡市総務課より

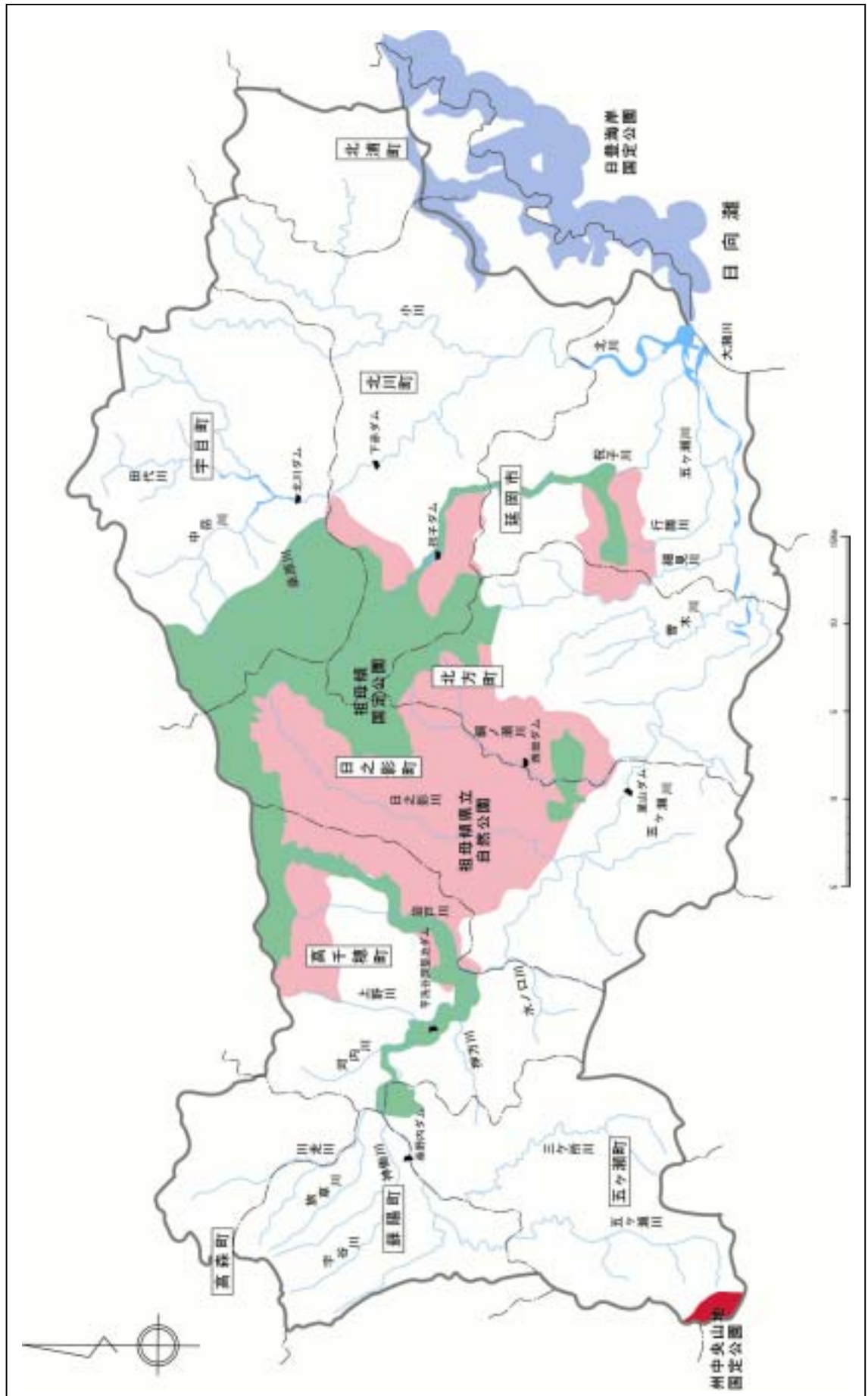


図2-4-1 五ヶ瀬川流域内 自然公園位置図

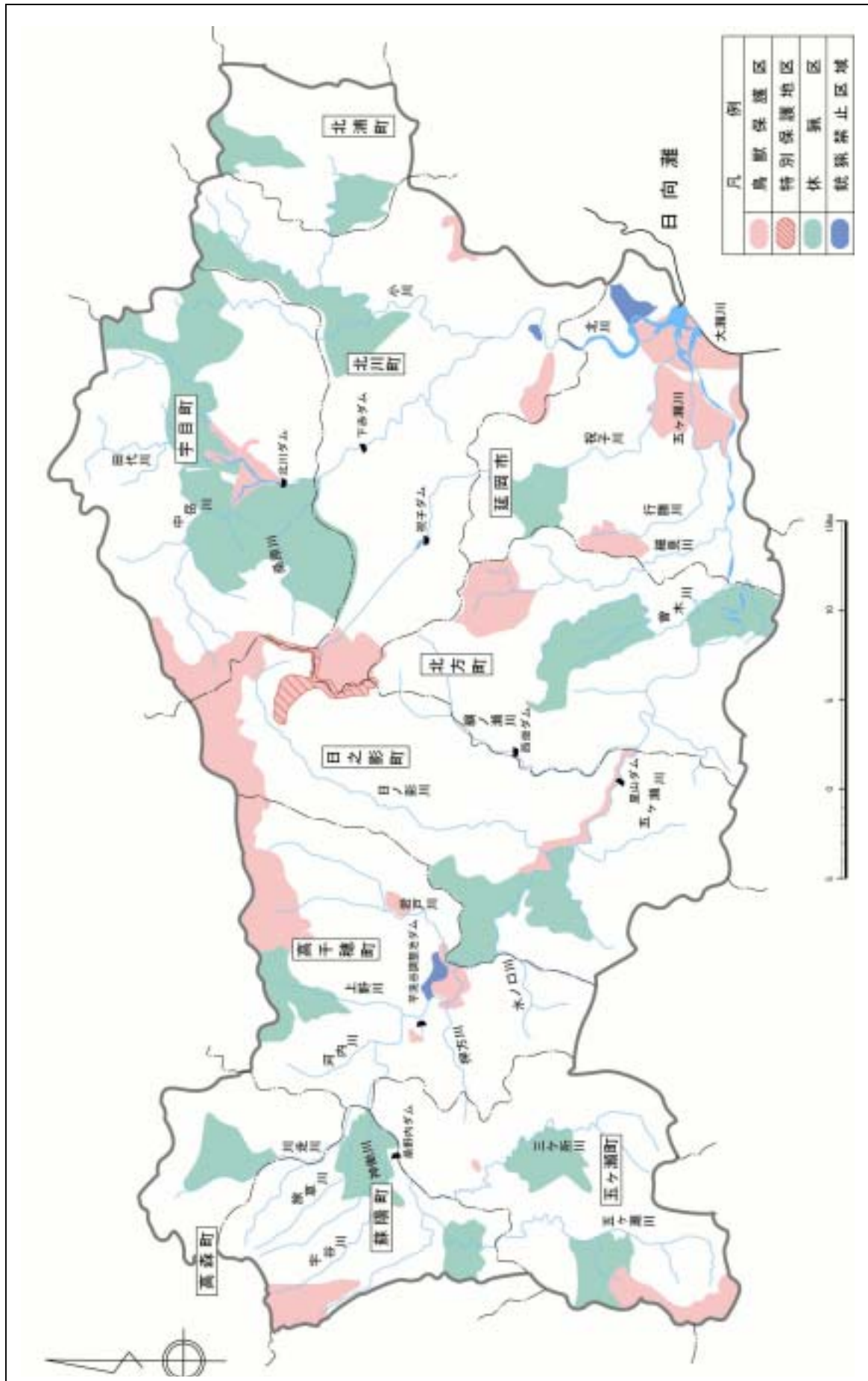
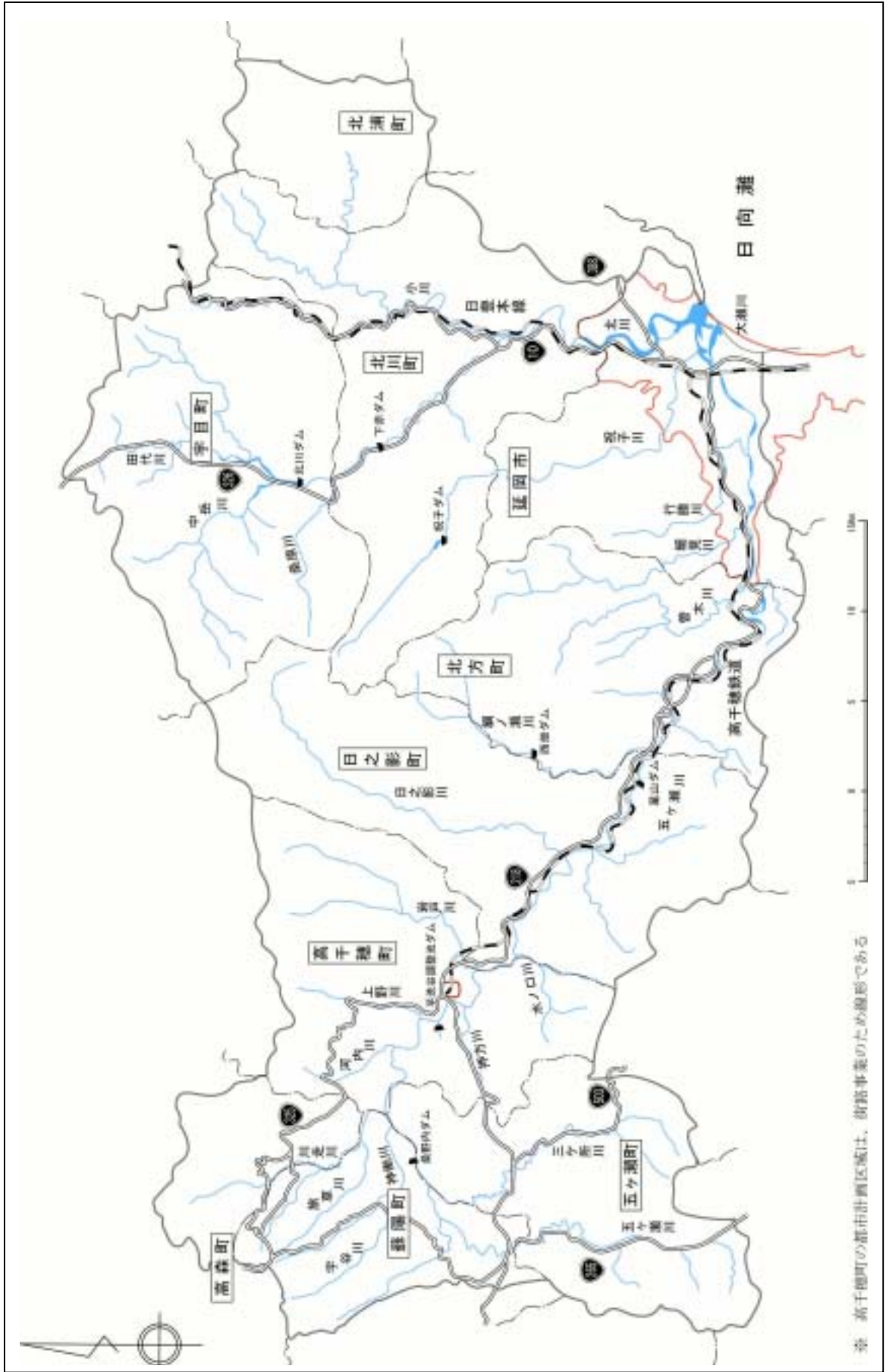


图2-4-2 五ヶ瀬川流域内 鳥獣保護区指定区域



※ 高千穂町の都市計画区域は、街路事業のため線形である

図2-4-3 五ヶ瀬川流域内 都市計画の状況

3 . 流域の社会状況

3 - 1 . 土地利用の現況

(1) 土地利用の現況

流域の土地利用は、山地等が約94%、水田や果樹園等の農地が約5%、宅地等市街地が約1%となっており、経年的にも顕著な変化はみられない。

表3-1-1 土地利用の現況

項 目	面積 (km ²)	全面積に占める割合
流域面積	1820.0	-
山地等	1715.9	94%
農 地	91.0	5%
宅地等市街地	13.1	1%

(出典)平成7年度 河川現況調査

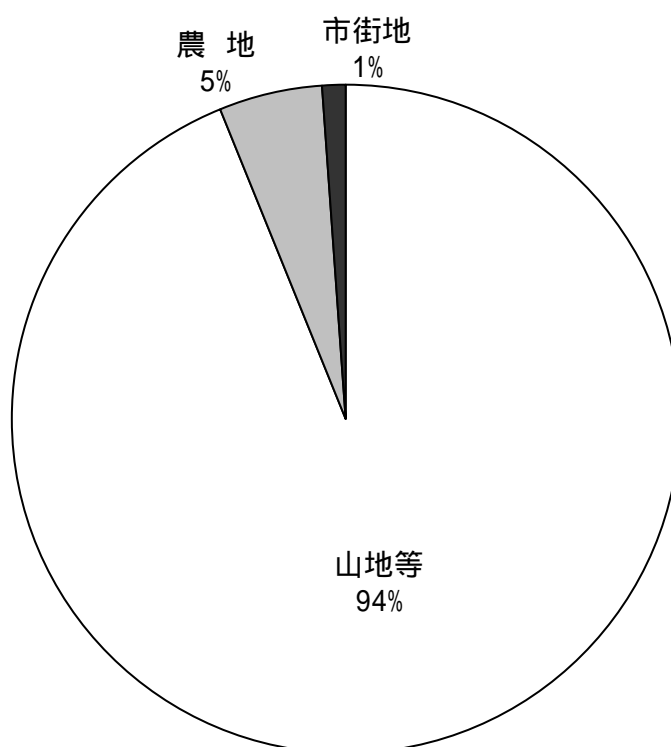


図 3 - 1 土地の利用状況

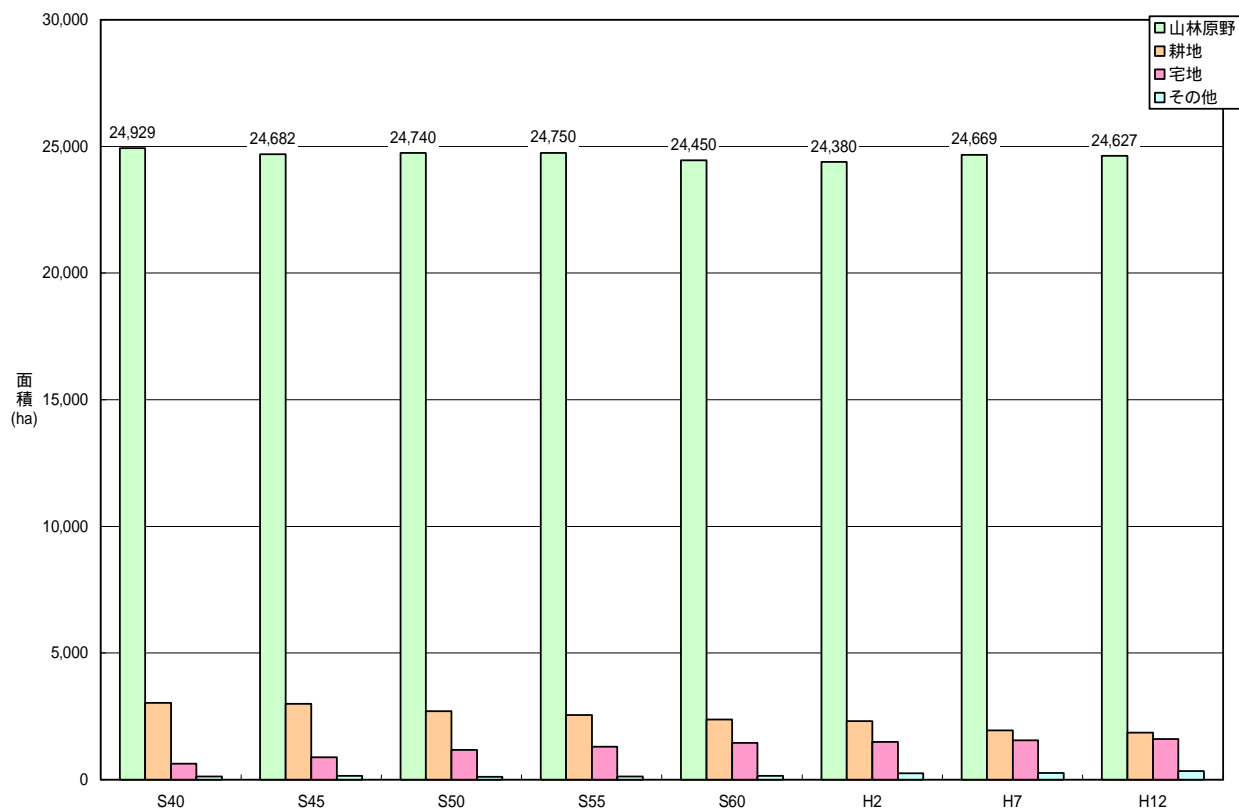


図3-1-1 五ヶ瀬川水系関係市町村地目別面積変化グラフ（下流域：宮崎県；延岡市）

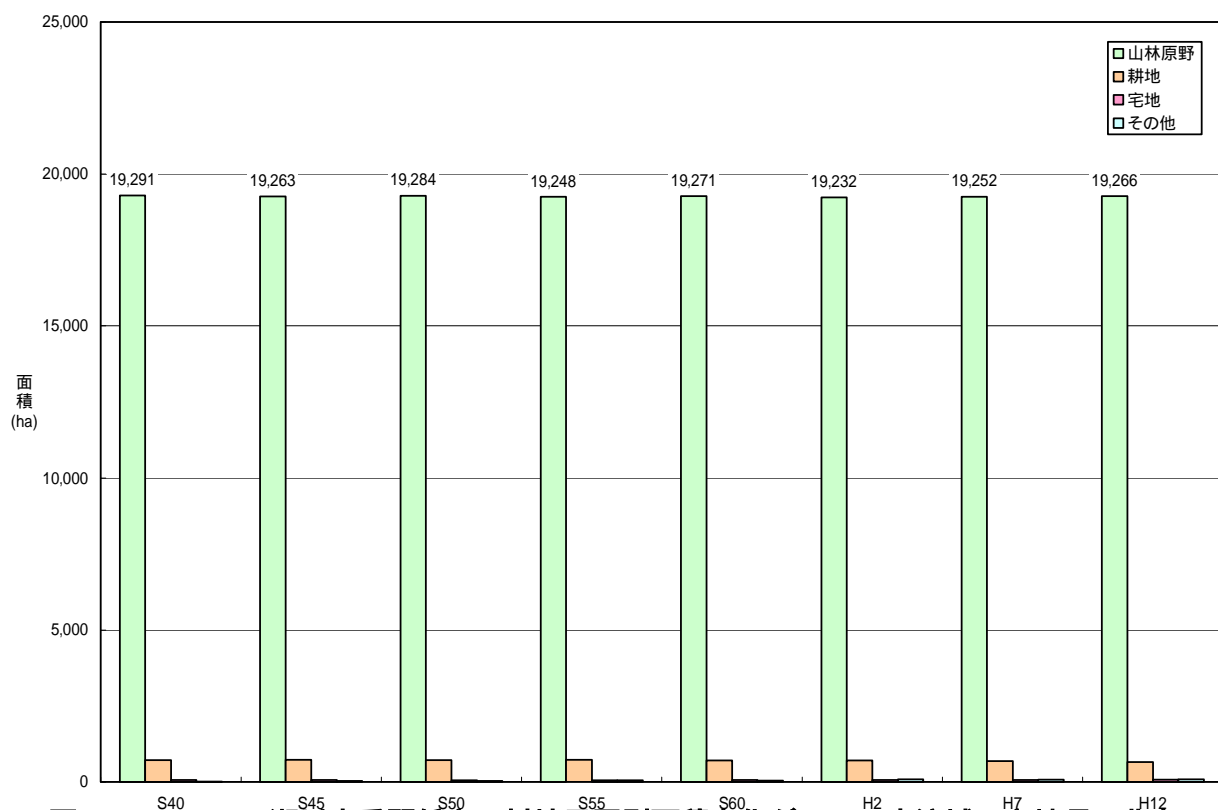


図3-1-2 五ヶ瀬川水系関係市町村地目別面積変化グラフ（中流域：宮崎県；北方町）

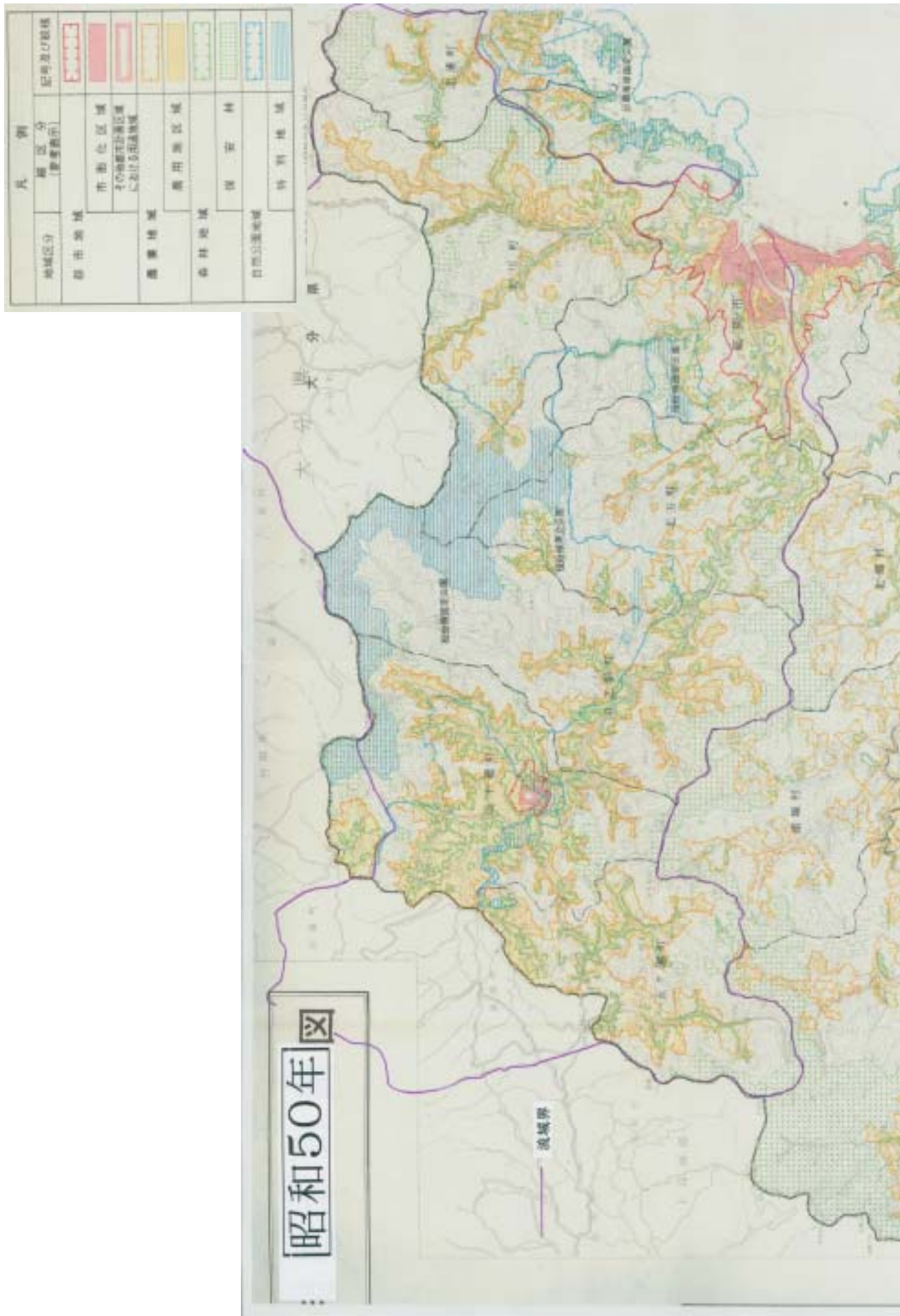


図3-1-3(1) 五ヶ瀬川流域土地利用変遷図(昭和50年)

昭和50年から平成10年における土地利用の顕著な変化はみられない。

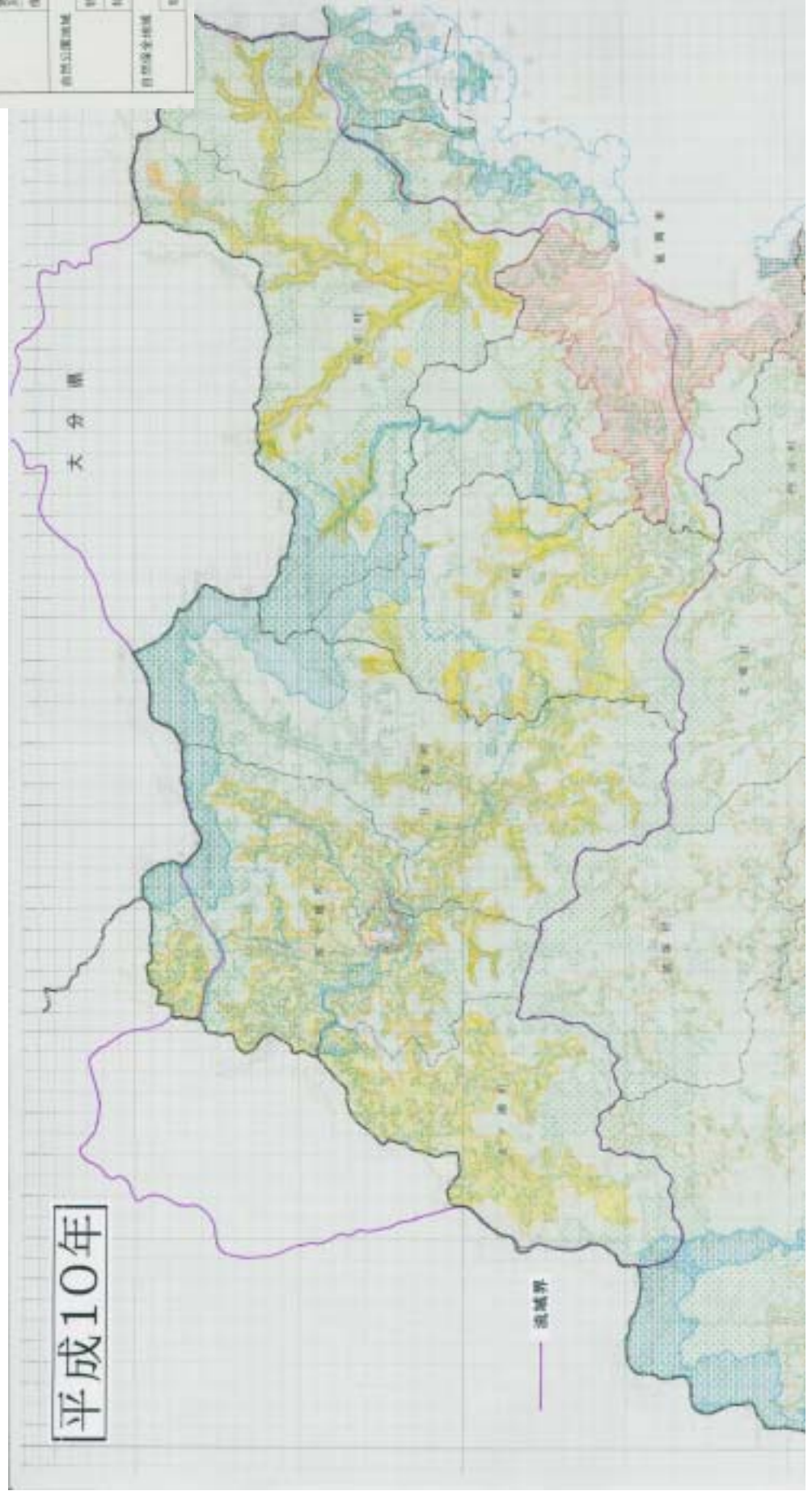


図3-1-3(2) 五ヶ瀬川流域土地利用変遷図(平成10年)

图3-1-6(1) 河口部経年变化图

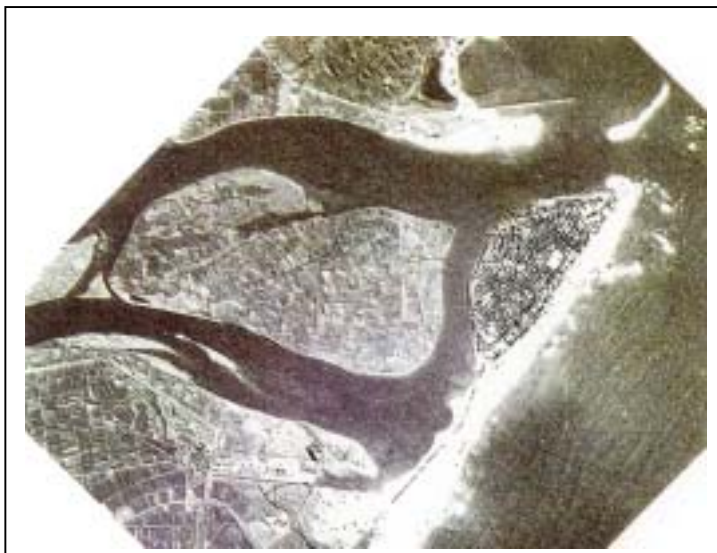
(S=1:25,000)



◀ 撮影日 昭和22年



◀ 撮影日 昭和33年3月10日



◀ 撮影日 昭和35年7月30日

图3-1-6(2) 河口部経年变化图

(S=1:25,000)



◀ 撮影日 昭和52年8月



◀ 撮影日 昭和53年7月



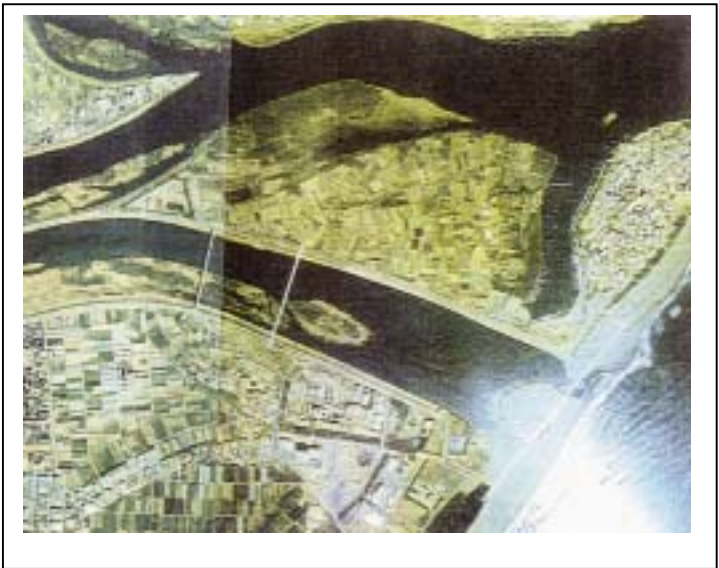
◀ 撮影日 昭和57年8月20日

图3-1-6(3) 河口部経年变化图

(S=1:25,000)



◀ 撮影日 平成6年3月20日



◀ 撮影日 平成7年3月22日



◀ 撮影日 平成11年12月31日

3 - 2 . 人口

流域内の人口は、そのほとんどが五ヶ瀬川下流部（延岡市街部）に集中しており、現在の流域内人口は約12万8千人、想定氾濫区域内人口は約6万5千人となっている。（河川現況調査）流域全体の特徴としては、昭和35年から一時減少傾向にあったが、昭和50年に過去最高の21万人の人口となっている。しかしながら、その後は現在まで徐々に減少し、昭和50年から平成7年までに約16%の減少となっている。（図3-2-1参照）

流域ごとに人口の変化をみると、下流域であり、流域内の産業経済の中心である延岡市については昭和35以降急激な増加をみせるが、昭和55年にピークを迎えると、その後年々減少し、現在はピーク時の約7%の人口減となっている。（図3-2-2参照）

中流域の北方町については、昭和35年以降急激な人口減少が続いており、現在では昭和35年の半数以下（約56%の減少）の人口となっている。（図3-2-3参照）

上流域は宮崎県の日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町及び熊本県の蘇陽町、高森町の範囲として集計した。また、高千穂町については昭和44年に上野村と合併しているため、昭和35年と40年の人口は2町村の合計値とした。この流域に関しても人口の減少は激しく、昭和35年以降右下がりの傾向は続き、現在は昭和35年の約半数の人口となっている。（図3-2-4参照）

五ヶ瀬川の支川である祝子川・北川流域として宮崎県北川町、北浦町、及び大分県大分町の人口を集計した。この流域においても減少傾向は著しく、昭和35年以降現在までに約47%の減少となっている。（図3-2-5参照）

以上により、山間地である中～上流域及び支川に属する町においては人口の減少が著しく進行しているとともに、延岡市についても徐々に人口の減少が起こっている。これは、山間部における過疎化の進行、及び全国的な少子化の影響によるものと考えられる。

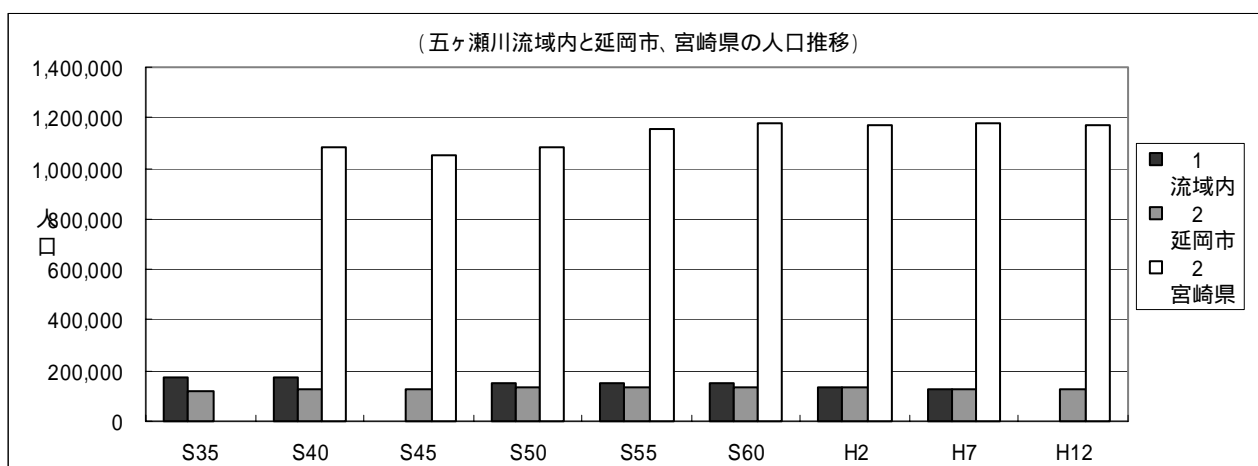
表3-2-1 流域人口の推移

（人）

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
1 流域内	174,640	172,807	-	152,134	150,611	148,643	134,128	127,638	-
2 延岡市	122,527	124,000	128,292	134,521	136,598	136,381	130,624	126,629	124,761
2 宮崎県	-	1,080,692	1,051,105	1,085,055	1,151,587	1,175,543	1,168,907	1,175,819	1,170,007

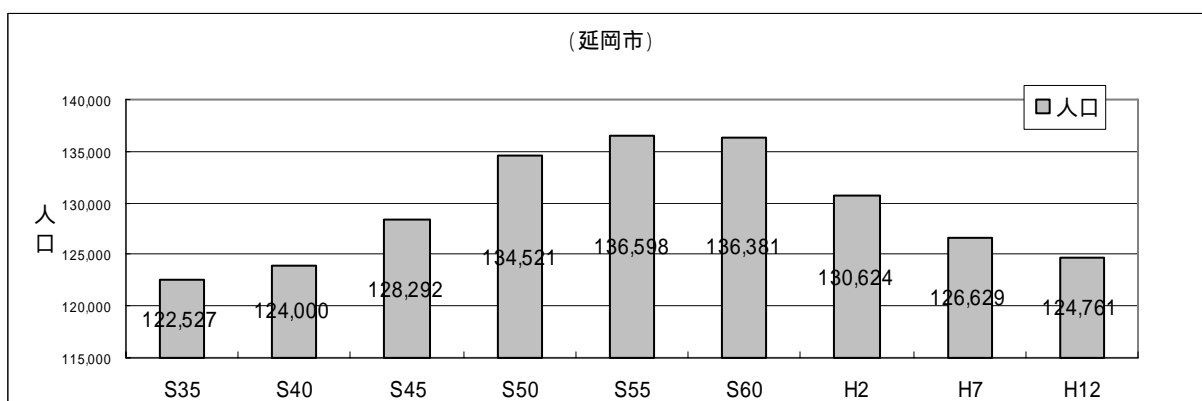
出典： 1 河川現況調査

： 2 宮崎県、熊本県、大分県統計年鑑



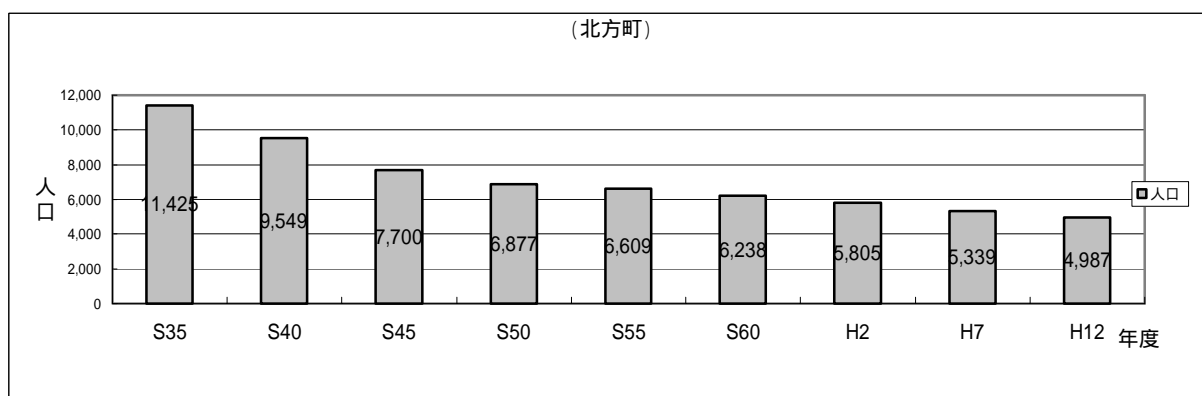
出典：河川現況調査（流域内）、宮崎県統計年鑑（延岡市、宮崎県）

図3-2-1 五ヶ瀬川流域内と延岡市、宮崎県の人口推移



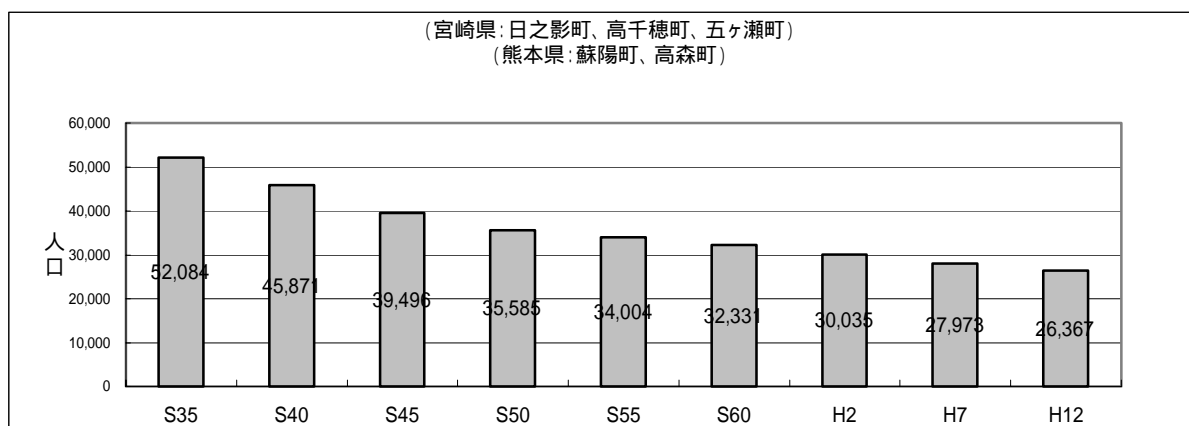
(出典：宮崎県統計年鑑)

図3-2-2 下流域の人口推移（延岡市）



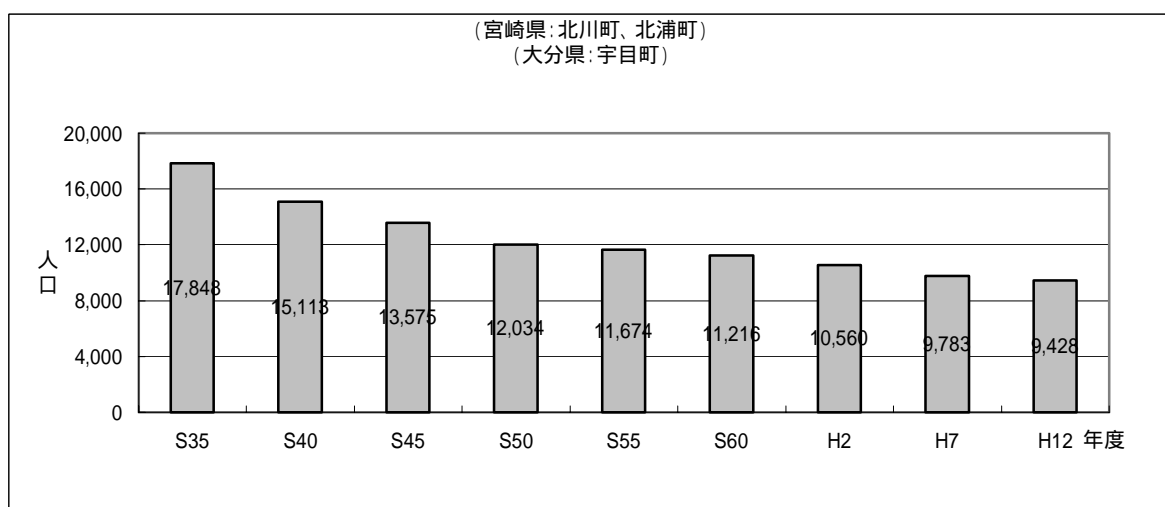
(出典：宮崎県統計年鑑)

図3-2-3 中流域の人口推移（北方町）



(出典:宮崎県、熊本県統計年鑑)

図3-2-4 上流域の人口推移
(宮崎県:日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町、熊本県:蘇陽町、高森町)



(出典:宮崎県、大分県統計年鑑)

図3-2-5 祝子川・北川流域の人口推移
(宮崎県北川町、北浦町、大分県:宇目町)

3 - 3 . 産業経済

流域内の総資産額は、平成2年時点では1兆2439億で、その約半分は家屋資産が占めている。

表3-3-1 流域内資産額

家屋 資産額	家財 資産額	事業所 資産額	農漁家 資産額	合計
(50.4)	(16.4)	(31.3)	(1.9)	(100.0)
627,510	203,418	388,757	24,189	1,243,874

出典：河川現況調査（基準年 平成2年度末）

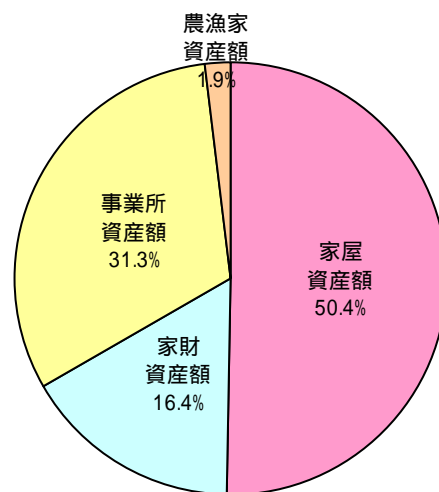


図3-3-1 流域内資産額の構成

流域内の産業は、上流域では木材生産及び木製品製造が盛んで、また支川北川上流では窯業用鉍石が採掘されている。一方、下流域では、旭化成を中心とする化学工業が盛んである。また、主要都市の延岡市は新産業都市に指定されている。

五ヶ瀬川流域内の産業別就業人口は、宮崎県とほぼ同様の構成比となっているが、第2次産業の構成比がやや高くなっている。これは、旭化成を中心とした化学工業が盛んであることによるものと考えられる（図3-3-2参照）

表3-3-2 平成12年の産業別就業人口 (人)

	1 五ヶ瀬川流域内	2 宮崎県
第1次産業	12,360	74,013
第2次産業	19,867	143,649
第3次産業	32,035	347,773
就業人口	64,262	565,435

出典： 1 河川現況調査（基準年 平成2年度末）
 2 宮崎県、熊本県、大分県投影年間及び国勢調査注）就業者のうち「分類不能」とされるものは除外した

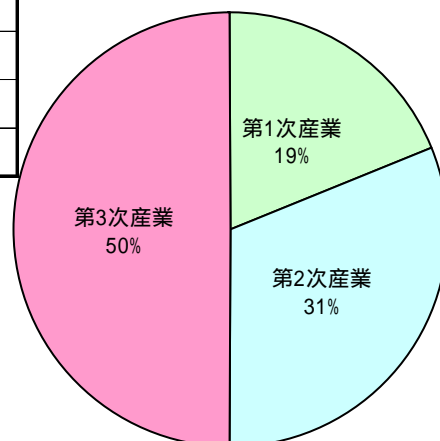


図3-3-2 産業別就業人口の構成比

3 - 4 . 交通

当該流域における鉄道機関としては、福岡市から小倉、大分を經由し、延岡市、鹿児島市に至るJR日豊本線がある。これは東九州地区の幹線鉄道であり、物資輸送に大きな役割を果たしている。また、延岡市から流域を縦断する高千穂鉄道は、流域関係市町村及び観光客の重要な交通手段となっている。

一方、道路については、国道10号線が大分県から北川町、延岡市を貫通して宮崎市方面へと流域下流を南北に横断する形で走り、また国道218号線が熊本から九州山地を横断し、流域内の町を本川に沿う形で東西方向へと經由して延岡市まで延びており、それらの道路が交差する延岡市は東九州の交通網の重要な拠点となっている。しかし、当該流域内の市町は、九州内の高速道路開通地域のなかでもインターチェンジまでの距離が遠く、大都市圏と比較すると遠距離移動に時間を要する地域となっている。そのため、道路整備計画に重点がおかれており、北九州より北川町、延岡市を貫通して鹿児島まで延びる東九州自動車（高速道路）や、九州縦貫自動車道と東九州自動車道を結ぶ延長約95kmに渡る九州横断自動車道延岡線などが整備中であり、またそれらの高速道路にとれない、延岡市、北川町周辺の国道整備も進められている。

また、宮崎県では、「ひむか歴史ロマン街道」として歴史資源を活用しつつ、地域連携を目指したネットワークづくりが推進されているとともに、北方町、日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町などでは、フォレストピア六峰街道として、県北6町村の中央部尾根筋を通過する広域幹線林道の整備を推進している。



図3-4-2 道路整備図

(出典：国土交通省 九州地方整備局 延岡工事事務所ホームページより)



(出典：国土交通省 九州地方整備局 延岡工事事務所ホームページより)

図3-4-3 延岡工事事務所管内地域図

3 - 5 . 将来構想

当該流域は、宮崎県、熊本県、大分県の3県にまたがっており、それぞれの県による長期計画等において、各地域の将来構想が持たれている。

(1) 宮崎県

延岡市、北浦町、北川町、北方町、日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町は、「みやざき21世紀デザイン 第5次宮崎県総合長期計画(H13.4)」において、東臼杵・西臼杵地域として地域構想が図られている。ここでは県下屈指の産業地域である延岡市を中心として、諸産業の振興による経済基盤の強化や地域内連携を深めるとともに、多様な自然・文化資源を生かした地域外との交流機能の強化を図ることにより、「豊かな自然と産業集積が織りなす、東九州の中核圏域の形成」が求められている。

- 1 . 産学官連携による新産業分野の創出と産業集積の拡大
- 2 . 大地と海の恵みを活用した農林水産業の振興
- 3 . 内外に開かれた歴史・文化交流圏の形成
- 4 . 流域を単位とする広域連携の先導地域の形成

(2) 熊本県

高森町・蘇陽町は、「熊本県総合計画(H12.6.30)」において、阿蘇地域として地域振興計画が策定されている。経済環境の大きな変化を迎えたことにより、これまでの観光リゾート地域の形成方向から、地域の過疎、高齢化を踏まえた新しい観光地づくりをめざして、「観光と暮らしが共生した地域づくり」が推進されている。

- 1 . 特色を生かした活力ある地域産業づくり
 - (1) 阿蘇21農業・農村づくり
 - (2) 豊かな森林資源の活用と保全
- 2 . 地域資源を生かした観光地づくり
 - (1) 自然・歴史に包まれた神々の郷づくり
 - (2) 交通基盤づくり
- 3 . 安全・安心な地域社会づくり
 - (1) お年寄りが輝く元気な阿蘇づくり
 - (2) 環境が景観に配慮した地域づくり
 - (3) 火山地帯としての防災の推進

(3) 大分県

宇目町は、大分県による「おおいた新世紀創造計画(H11.12) - 地域編 - 」において、豊後水道沿岸の海岸線や五ヶ瀬川水系等の自然に恵まれた地域で構成される「県南圏」に位置付けられており、大分地方中核都市圏と宮崎地方中核都市圏を結ぶ交通ネットワークや経済交流の拠点となっている。

美しく豊かな自然資源が豊富なこの地域は、それらを活用した農林水産業や観光における振興が図られているとともに、今後は高速道などの道路整備による交通網の発展により宮崎県との交流による各種事業の促進が予想される地域とされている。

- 1．地域連携と交通基盤の整備による利便性の高い生活圏の実現
- 2．地域特性を活かした付加価値の高い産業の展開
- 3．誰もが安心して暮らせる、ゆとりとやすらぎに満ちた地域社会の実現
- 4．美しい自然を活かした観光と交流の推進

4 . 水害と治水事業の沿革

4 - 1 . 既往洪水の概要

五ヶ瀬川流域の年間平均雨量は約 2,500mm 程度であり、全国平均と比較すると約 850 mm程度多い多雨地域である。月別の雨量をみると 8~9 月に最も多く、これはこの時期に宮崎県を通過する台風に伴う降雨による影響であることがわかる(1 - 3 「気候」参照)。このことにより、当該流域では 8 月~9 月に上記原因による洪水が過去に幾たびか発生している。

当該流域内での主要な洪水は、昭和 18 年 9 月洪水、昭和 29 年 9 月洪水、昭和 46 年 8 月洪水、昭和 57 年 8 月洪水、平成 5 年 8 月洪水、平成 9 年 9 月洪水等であり、これらの洪水は全て台風性の洪水である。これらの洪水の概要を、表 4-1 に示す。

近年では、平成 5 年 8 月洪水(6,441m³/s) 平成 9 年 9 月洪水(5,953m³/s) と計画高水流量(6,000m³/s) 相当もしくはそれを超える洪水が連続して発生している。

特に、平成 5 年 8 月洪水では、台風 7 号が九州の西海上を縦断するコースをとったため、台風の東側に位置する五ヶ瀬川流域では、海側から浸入した湿った空気が山沿いで猛烈な豪雨をもたらし、1 時間に高千穂で 75mm、日ノ影で 71 mmの雨量を記録し、三輪地点の流量が 6,441m³/s と計画高水流量 6,000m³/s を超える大出水となり、既往最大洪水として位置付けられている。また、平成 9 年 9 の台風 19 号では、五ヶ瀬川水系北川において甚大な被害が発生したことは記憶に新しい。

(1) 昭和 46 年 (1971 年) 8 月 27 日 ~ 30 日洪水

台風 23 号は、30 日未明佐田岬に上陸し、鹿児島県、宮崎県南部を通過し、宮崎市付近より日向灘へ抜けた。

この台風の接近に伴い、五ヶ瀬川流域では 28 日の午後より断続的に降り続いた雨が夜半から強風を伴い強く降り続き、水位が三輪地点で 6.40m まで達したのを始め、各地で計画高水位近くの水位を記録した。

この洪水により五ヶ瀬川流域では、死者 11 名、負傷者 8 名の人的被害を出し、家屋の全・半壊 19 戸、床上・床下浸水は 869 戸に及んだ。

(2) 平成 5 年 (1993 年) 8 月 8 日 ~ 10 日洪水

台風 7 号は、9 日夜半から 10 日早朝にかけて九州の西海上を縦断し、平戸市付近を通過して日本海へと抜けた。この台風の接近に伴い、8 日午前に降り始めた雨は 9 日夜半から 10 日早朝にかけて記録的な豪雨となった。特に延岡市では水位の上昇が激しく、松山地点で計画高水位を 6cm 越え、また三ツ瀬地点においても計画高水位を 18cm 越えた。

この洪水により、五ヶ瀬川流域では、死者 2 名、負傷者 11 名の人的被害を出し、家屋の全・半壊 19 戸、床上・床下浸水は 896 戸に及んだ。

(3) 平成9年(1997年)9月13~16日洪水

台風19号は、16日早朝枕崎市に上陸し、九州を縦断し、夕方頃大分市を通過して瀬戸内海へと抜けた。

この台風の接近に伴い、13日より降り始めた雨量は16日未明から昼頃にかけて1時間に40mm程度の雨が5~6時間連続するなど記録的な豪雨となった。特に、支川祝子川と北川に雨量が集中したため、祝子地点で計画高水位を34cm越え、また熊田地点でも既往最高水位は127cmを越える9.87mを記録した。

この洪水により、五ヶ瀬川流域では、特に被害の激しかった北川町を中心に、死者1名、行方不明者2名、重軽傷7名の人的被害(いずれも北川町)を出し、家屋の全・半壊21戸、床上・床下浸水は2,979戸に及んだ。特に北川沿川は各地で溢水氾濫が発生し、このため北川は河川激甚災害の指定を受けるに至った。

平成9年(1997年) 9月13~16日洪水



五ヶ瀬川左岸 延岡市小峰町(6k800) 浸水状況



北川 北川町野峯地区(15k500)



北川 北川町本村地区(11k500)



北川 北川町東海地区(2k000)

参考資料:パンフレット「河川激甚災害対策特別緊急事業」(建設省九州地方建設局延岡工事事務所/宮崎県延岡土木事務所)
パンフレット「北川直轄河川激甚災害対策特別緊急事業」(建設省九州地方建設局延岡工事事務所)より

表4-1(1) 既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況
		雨量	水位	流量	
昭和 18 年 9 月 18～20 日 (台風)	<p>台風は、20 日早朝、佐田岬沖に接近し、日向灘に沿って北上していった。この台風の接近により、五ヶ瀬川流域では 17 日頃から雨が降り始め、20 日頃までに山間部及び中流部で総雨量が 700～800 mm に達する記録的な豪雨となった。</p> <p>また、この洪水により大瀬川大瀬橋で 7.40m、安賀多橋で 5.35m の最高水位を記録し、五ヶ瀬川右岸堤防が決壊し、家屋の倒壊や死者行方不明者が多数発生した。</p>	<p>三輪地点上流</p> <p>1 日間：323mm</p> <p>2 日間：433 mm</p> <p>1 時間：不明</p> <p>3 時間：不明</p>	<p>大瀬川</p> <p>大瀬橋：7.40m</p> <p>安賀多橋：5.35m</p>	不明	<p>死者 114 名</p> <p>行方不明者 1 名</p> <p>負傷者 161 名</p> <p>家屋全半壊 1,535 戸</p> <p>床上浸水 8,435 戸</p> <p>(宮崎県内 宮崎県災異誌より)</p>
昭和 26 年 10 月 13～15 日 (ルース台風)	<p>台風は 14 日午後 6 時半頃、枕崎に上陸し、九州を東北に縦断していった。この台風の接近により、五ヶ瀬川流域では、14 日夜までに 400mm 近い雨量を観測し(延岡 373mm：午後 8 時現在)、五ヶ瀬、大瀬、祝子、北川のいずれも、危険水位を 1.2～2.2m 上回った。</p>				<p>土々呂で死者 1 名</p> <p>負傷者 重傷 1 名</p>
昭和 29 年 9 月 10～13 日 (台風 12 号)	<p>大型の台風 12 号は、13 日の午後枕崎市の東方に上陸し、九州を縦断していった。</p> <p>この台風の接近に伴い、五ヶ瀬川流域では 12 日の早朝より雨が降り始め、13 日迄降り続き、その降雨量は中流部砂岩の山岳地帯で特に多く、見立で 1,000 mm、上鹿川 730 mm に達した。</p> <p>また、この洪水により大瀬川三ッ瀬地点で最高水位 6.15m を記録し、計画高水位を 0.55m 上回った。</p> <p>洪水は、堤防天端すれすれを流れ、一部大瀬橋下流左岸付近では溢水氾濫が生じた。</p>	<p>三輪地点上流</p> <p>1 日間：283mm</p> <p>2 日間：527 mm</p> <p>1 時間：30mm</p> <p>3 時間：83 mm</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪：不明</p> <p>大瀬川</p> <p>三ッ瀬：6.15m</p>	不明	<p>死者 12 名</p> <p>行方不明者 4 名</p> <p>負傷者 15 名</p> <p>家屋全壊 379 戸</p> <p>家屋半壊 916 戸</p> <p>床上浸水 3,810 戸</p> <p>床下浸水 2,421 戸</p> <p>(流域内 宮崎県災異誌より)</p>
昭和 36 年 10 月 25～26 日 集中豪雨	<p>25 日夜から 26 日にかけて、東九州の広い範囲で集中豪雨が発生し、特に県北に大きな被害をもたらした。</p>				

表4-1(2) 既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況
		雨量	水位	流量	
昭和41年 8月13～16日 (台風13号)	<p>台風の接近に伴い、五ヶ瀬川流域では15日夕刻より集中豪雨に襲われた。</p> <p>延岡では降り始めからの雨量が、16日午後までに約700mmに達し、北川村(現北川町)では、地すべりにより15人の死者を出した。</p>				
昭和46年 8月27～30日 (台風23号)	<p>台風23号は、30日未明佐田岬に上陸し、鹿児島県、宮崎県南部を通過し、宮崎市付近より日向灘へ抜けた。</p> <p>この台風の接近に伴い、五ヶ瀬川流域では28日の午後より断続的に降り続いた雨が夜半から強風を伴い強く振り続き、上流部山岳地帯で連続雨量が上祝子835mm、見立685mm、本屋敷718mmを記録した。</p> <p>また、この洪水により、警戒水位を越えてなお1時間に約0.4mのスピードで増水し、三輪地点で6.40mまで達したのを始め、各地で計画高水位近くの水位を記録した。</p> <p>河川の増水が激しかったことから各地で避難警告及び避難命令が出され、約1千世帯の人々が避難した。</p>	<p>三輪地点上流</p> <p>1日間：393mm</p> <p>2日間：519mm</p> <p>1時間：31mm</p> <p>3時間：84mm</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪：6.40m</p> <p>松山：5.82m</p> <p>大瀬川</p> <p>三ッ瀬：5.44m</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪：5,500m³/s</p> <p>祝子川</p> <p>佐野：929m³/s</p> <p>北川</p> <p>熊田：2,544m³/s</p>	<p>死者11名</p> <p>負傷者8名</p> <p>家屋全半壊19戸</p> <p>一部損壊66戸</p> <p>床上浸水295戸</p> <p>床下浸水574戸</p> <p>(流域内 宮崎県災異誌より)</p>
昭和57年 8月25～27日 (台風13号)	<p>大型で非常に強い台風13号は、27日の未明都井岬付近に上陸し、宮崎市を通過後午前5時頃延岡市に最接近し、昼過ぎに日本海へと抜けた。</p> <p>この台風の接近に伴い、25日午後に降り始めた雨は26日夜半より27日未明にかけて20mm/hr～40mm/hr、ところによっては50mm/hrを越す強い降雨となり、各地で500mm～600mmの総雨量を記録した。また、この洪水による最高水位は、三輪地点で5.96m、三ッ瀬地点で4.96mに達し、堤防からの漏水や護岸崩壊等の被害が発生した。</p>	<p>三輪地点上流</p> <p>1日間：340mm</p> <p>2日間：419mm</p> <p>1時間：27mm</p> <p>3時間：78mm</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪：5.96m</p> <p>松山：5.88m</p> <p>大瀬川</p> <p>三ッ瀬：4.96m</p> <p>祝子川</p> <p>佐野：4.60m</p> <p>北川</p> <p>熊田：7.40m</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪：5,000m³/s</p> <p>祝子川</p> <p>佐野：747m³/s</p> <p>北川</p> <p>熊田：2,607m³/s</p>	<p>家屋全半壊7戸</p> <p>一部損壊15戸</p> <p>床上浸水51戸</p> <p>床下浸水116戸</p> <p>(流域内 宮崎県災異誌より)</p>

表4-1(3) 既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況
		雨量	水位	流量	
平成5年 8月8～10日 (台風7号)	<p>台風7号は、9日夜半から10日早朝にかけて九州の西海上を縦断し、平戸市付近を通過して日本海へと抜けた。この台風の接近に伴い、8日午前に降り始めた雨は9日夜半から10日早朝にかけて記録的な豪雨となり、1時間に上流の高千穂で75mm、日ノ影で271mmを記録した。</p> <p>この洪水により、延岡市では水位の上昇が激しく、松山地点で計画高水位を6cm越え、また三ッ瀬地点においても計画高水位を18cm越えた。</p> <p>河川の増水が激しかったことから、流域の約9,000地帯に避難勧告が発令され、約6,400人が避難した。</p>	<p>三輪地点上流</p> <p>1日間：334mm</p> <p>2日間：387mm</p> <p>1時間：47mm</p> <p>3時間：125mm</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪：6.88m</p> <p>松山：6.88m</p> <p>大瀬川</p> <p>三ッ瀬：5.71m</p> <p>祝子川</p> <p>佐野：5.47m</p> <p>北川</p> <p>熊田：6.83m</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪： 6,441m³/s</p> <p>祝子川</p> <p>佐野： 755m³/s</p> <p>北川</p> <p>熊田： 2,220m³/s</p>	<p>死者2名</p> <p>負傷者11名</p> <p>家屋全半壊19戸</p> <p>床上浸水388戸</p> <p>床下浸水508戸</p> <p>(流域内 高水速報より)</p>
平成9年 9月13～16日 (台風19号)	<p>台風19号は、16日早朝枕崎市に上陸し、九州を縦断し、夕方頃大分市を通過して瀬戸内海へと抜けた。</p> <p>この台風の接近に伴い、13日より降り始めた雨量は16日未明から昼頃にかけて1時間に40mm程度の雨が5～6時間連続するなど記録的な豪雨となった。</p> <p>特に、支川祝子川と北川に雨量が集中したため、祝子地点で計画高水位を34cm越え、また熊田地点でも既往最高水位が127cmを越える9.87mを記録した。</p> <p>この洪水により、北川沿川は各地で溢水氾濫が発生し、河川激甚災害の指定を受けるに至った。</p>	<p>三輪地点上流</p> <p>1日間：217mm</p> <p>2日間：396mm</p> <p>1時間：36mm</p> <p>3時間：102mm</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪：6.62m</p> <p>松山：6.77m</p> <p>大瀬川</p> <p>三ッ瀬：5.49m</p> <p>祝子川</p> <p>佐野：5.96m</p> <p>北川</p> <p>熊田：9.87m</p>	<p>五ヶ瀬川</p> <p>三輪： 5,953m³/s</p> <p>祝子川</p> <p>佐野： 1,091m³/s</p> <p>北川</p> <p>熊田： 5,067m³/s</p>	<p>死者1名</p> <p>家屋全半壊21戸</p> <p>床上浸水1,762戸</p> <p>床下浸水1,217戸</p> <p>(流域内 高水速報より)</p>

4 - 2 . 治水事業の沿革

(1) 昭和 7 年以前の改修計画 (第 1 期改修計画以前)

明治に入り、河川災害による被害が年々増大してきたため、明治 24 年県会において五ヶ瀬川、大淀川の河川改修事業を国庫支弁による事とする改修計画が議決され、当時の内務大臣に建議された。

また、明治 43 年の通常県会で五ヶ瀬川の改修を決定しながら、これまでほとんど未着手の状態であったが、大正 7 年 6 月の洪水では大瀬川堤防 (現安賀多橋南岸) が決壊するなど度重なる災害により、大正 8 年 9 月 18 日河川法準用河川に編入の告示があった。

しかし、かくたる成果もなく大正に至り、大正 10 年「岩戸川合流点以下流路 12 里 27」を県費支弁区域と定め河川改修の一部を行ったが、事業にはほとんど見るべきものはなかった。

(2) 昭和 7 年 ~ 昭和 25 年の改修計画 (宮崎県施工) 第 1 期改修計画時代

昭和 7 年度より中小河川として五ヶ瀬川の改修を進め、昭和 25 年度をもって一応堤防の概成を見た。

また、大正 7 年、大正 13 年 7 月、昭和 3 年 8 月の台風洪水の痕跡、及びピーク流量から五ヶ瀬川計画高水流量を $4,500\text{m}^3/\text{s}$ 、分流後の五ヶ瀬川を $1,500\text{m}^3/\text{s}$ 、大瀬川を $3,000\text{m}^3/\text{s}$ と決定、改修を進めた。

(3) 昭和 26 年以降の改修計画 (建設省施行) 第 2 期改修計画時代

昭和 18 年 9 月の台風第 15 号による大災害を契機として、直轄編入の要望が高まり、ついに昭和 26 年 5 月五ヶ瀬川水系は直轄河川となり、第 2 期の改修工事が始められることとなった。

計画高水流量は、三輪において $6,000\text{m}^3/\text{sec}$ とし、大瀬川分派点において大瀬川に $4,500\text{m}^3/\text{sec}$ を分派して $1,500\text{m}^3/\text{sec}$ とし、更に北川の合流量 $3,000\text{m}^3/\text{sec}$ を合わせ東海において $4,500\text{m}^3/\text{sec}$ とし、その下流では河口まで同流量とされた。

昭和 26 年度から、五ヶ瀬川と大瀬川を合流分派する、延岡市鷺島と船倉地生を結ぶ隔流堤に着手し、昭和 29 年度までに主に隔流堤の基礎工 (組梁沈床) を施工するとともに、昭和 29 年 10 月の大洪水により川中地区、市街地部の引堤工事に着手し、昭和 36 年度までに川中地区の大半の特殊堤工事を完了し、またこれに伴って当該箇所の附帯工事、大瀬橋の打上継足、旭化成揚水機場の移設等を完了した。

昭和 36 年度迄に、五ヶ瀬川改修工事の第一次課題である、市街地特殊堤の引堤嵩上等の工事もほぼ完了したので、昭和 37 年度より改修工事の主眼である隔流堤工事の準備的工事として、浜砂地区の引堤、掘削工事に着手し、昭和 38 年度までに引堤工事は概成したので、昭和 39 年度からは隔流堤工事の一部である鷲島地区の護岸に着手し、昭和 40 年度以降も重点的に当地区の工事進捗を計らんとした。

(4) 五ヶ瀬川水系工事実施基本計画 (昭和 41 年 4 月)

社会・経済の発展とともに河川改修の重要度が高くなり、明治 29 年に制定された旧河川法は昭和 39 年新河川法に改正された。その新河川法によると、河川管理者はその管理する河川について工事実施基本計画を作成し、計画高水流量その他当該河川の河川工事の実施について基本的事項を策定する事になっている。

五ヶ瀬川工事実施基本計画は、昭和 35 年の基本計画と基本的事項の変更はないが、延岡市市街部を洪水より防御する事を最大の課題とし、分流堤による計画分流を行い、大瀬川と五ヶ瀬川を隔流し、河口閉塞の防止を図り、また全川に亘る低水路拡幅、低平地の内水排除施設の設置等が計画された。

計画高水流量は、三輪地点において $6,000\text{m}^3/\text{sec}$ とし、大瀬川分派点において大瀬川に $4500\text{m}^3/\text{sec}$ を分派、五ヶ瀬川に $1,500\text{m}^3/\text{s}$ とし、更に北川の合流量 $3,000\text{m}^3/\text{sec}$ を合わせ、東海において $4,500\text{m}^3/\text{s}$ とし、その下流では河口まで同流量とされた。

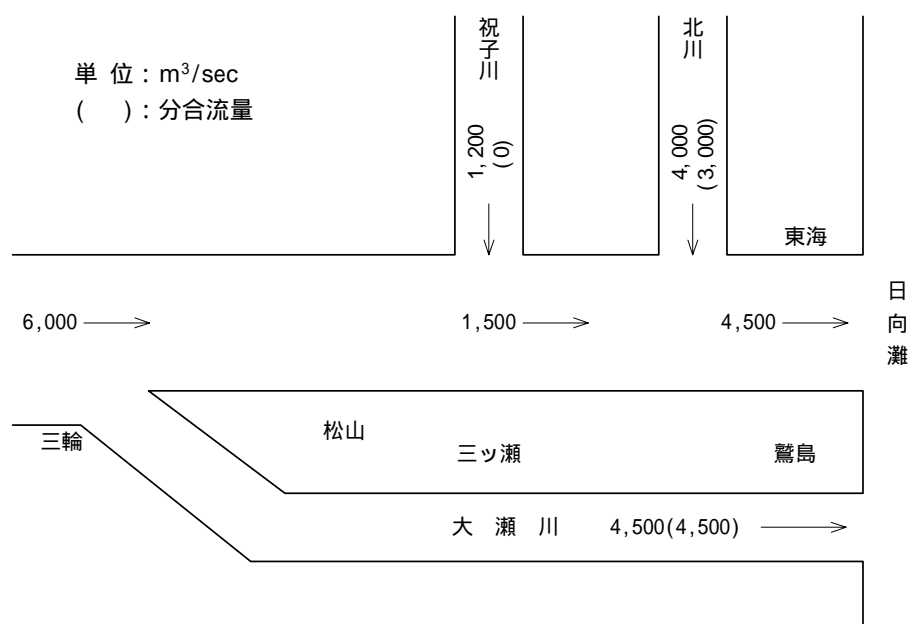


図 4-2 五ヶ瀬川現計画高水流量図

5. 水利用の現状

5 - 1 . 水利用の現状

1) 発電

五ヶ瀬川の水利用の歴史は古く、大正時代から電力量拡大のための発電所建設が行われてきており、現在では、22発電所で最大約237m³/s（最大出力約138,000kw）が発電用水として利用されている。

表 5-1-1 五ヶ瀬川流域の水利権（発電用水） [許可水利権]

番号	河川名	水利使用者	取水量等	許可年月日	備考
1	五ヶ瀬川	旭化成工業(株)(星山発電所)	(表) 49 m ³ /s	当初 S 14. 9. 4	許可
2	五ヶ瀬川	旭化成工業(株)(五ヶ瀬川発電所)	(表) 29.7 m ³ /s	当初 T 11. 5. 6	許可
3	五ヶ瀬川	旭化成工業(株)(水ヶ崎発電所)	(表) 24.2 m ³ /s	当初 S 24. 10. 31	許可
4	五ヶ瀬川	チッソ(株)(高千穂発電所)	(表) 19.48 m ³ /s	当初 T 14. 12. 2	許可
5	五ヶ瀬川	九州電力(株)(桑野内発電所)	(表) 15 m ³ /s	当初 T 14. 12. 2	許可
6	五ヶ瀬川	旭化成工業(株)(馬見原発電所)	(表) 5 m ³ /s	当初 T 11. 10. 9	許可
7	綱ノ瀬川	三菱マテリアル(株)(梁崎発電所)	(表) 1.67 m ³ /s	当初 T 9. 7. 14	許可
8	綱ノ瀬川	三菱マテリアル(株)(黒原発電所)	(表) 1.67 m ³ /s	当初 T 9. 10. 23	許可
9	綱ノ瀬川	九州電力(株)(新菅原発電所)	(表) 5.5 m ³ /s	当初 S 33. 1. 20	許可
10	川走川	旭化成工業(株)(川走川第2発電所)	(表) 4.58 m ³ /s	当初 T 13. 6. 17	許可
11	川走川	旭化成工業(株)(川走川第1発電所)	(表) 2.96 m ³ /s	当初 T 13. 6. 17	許可
12	川走川	旭化成工業(株)(白水発電所)	(表) 2.54 m ³ /s	当初 S 30. 9. 26	許可
13	三ヶ所川	九州電力(株)(三ヶ所発電所)	(表) 2.92 m ³ /s	当初 T 14. 12. 2	許可
14	三ヶ所川	九州電力(株)(回淵発電所)	(表) 2.45 m ³ /s	当初 T 14. 11. 11	許可
15	祝子川	宮崎県(浜砂発電所)	(表) 12.0 m ³ /s	当初 S 63. 10. 28	許可
16	祝子川	宮崎県(祝子発電所)	(表) 8 m ³ /s	当初 S 44. 2. 27	許可
17	祝子川	宮崎県(上祝子発電所)	(表) 2.3 m ³ /s	当初 S 11. 2. 17	許可
18	北川	大分県(下赤発電所)	(表) 20 m ³ /s	当初 S 36. 6. 15	許可
19	北川	大分県(北川発電所)	(表) 25 m ³ /s	当初 S 36. 3. 17	許可
20	桑原川	大分県(桑原発電所)	(表) 1.95 m ³ /s	当初 S 34. 8. 12	許可
21	日之影川	日之影土地改良区(日之影発電所)	(表) 1.44 m ³ /s	当初 S 55. 8. 19	許可
22	湯の谷川	九州電力(株)(下滝下発電所)	(表) 0.139 m ³ /s	当初 T 9. 11. 3	許可
合 計			237.499 m ³ /s		

2) 農業用水

五ヶ瀬川流域全体の農業用水としては、現在約2,400haに及ぶ耕地のかんがいに利用されている。特に、大瀬川沿川のかんがい用水は、基準地点三輪上流に位置する岩熊井堰から取水されており、五ヶ瀬川の農業用水水利使用の中で大規模な取水となっている。

表 5-1-2 五ヶ瀬川水系の水利権（農業用水） **〔許可水利権〕**

番号	河川名	水利使用者	取水量等	許可年月日	備考
1	五ヶ瀬川	岩熊土地改良区連合（岩熊井堰）	(表) 6.4 m ³ /s	当初 T 9. 4. 20	許可
2	日ノ影川	日ノ影土地改良区（七折頭首工）	(表) 0.8451 m ³ /s	当初 S 55. 8. 19	許可
合 計			7.2451 m ³ /s		

3) 工業用水

工業用水としては、五ヶ瀬川流域全体で約7.7m³/sの水利権量があり、このうち5.0 m³/sは大瀬川から取水されている。また、水道用水としての利用は約0.25m³/sとわずかで、現在延岡市のみが利用している。

表 5-1-3 五ヶ瀬川水系の水利権（工業用水） **〔許可水利権〕**

番号	河川名	水利使用者	取水量等	許可年月日	備考
1	大瀬川	旭化成工業(株)(大瀬工水)	(表) 5.0 m ³ /s	当初 S 3. 4. 19	許可
2	祝子川	旭化成工業(株)(中川原取水口)	(表) 2.064 m ³ /s	当初 T 15. 8. 2	許可
3	北 川	旭化成工業(株)(北川工水火薬)	(表) 0.667 m ³ /s	当初 S 13. 5. 3	許可
合 計			7.731 m ³ /s		

4) 水道用水

延岡市の水道用水は殆どが地下水に依存している。

水道用水の河川水の利用としては、大瀬川（5/200）地点で0.252m³/sのポンプ取水がなされているのみである。

今後の水需要の動向としては、延岡市の水需給計画によると給水人口、需要量等原単位の増加は見込まれていない。

また、延岡市変更計画（目標平成23年度）の需要量は、既認可値（目標平成15年度）よりも減少しており、新規利水の要望は挙がってこないものと想定される。

表 5-1-4 五ヶ瀬川水系の水利権（上水道） **〔許可水利権〕**

番号	河川名	水利使用者	取水量等	許可年月日	備考
1	大瀬川	延岡市上水道	(表) 0.252 m ³ /s	当初 S 44. 3. 18	許可
合 計			0.252 m ³ /s		

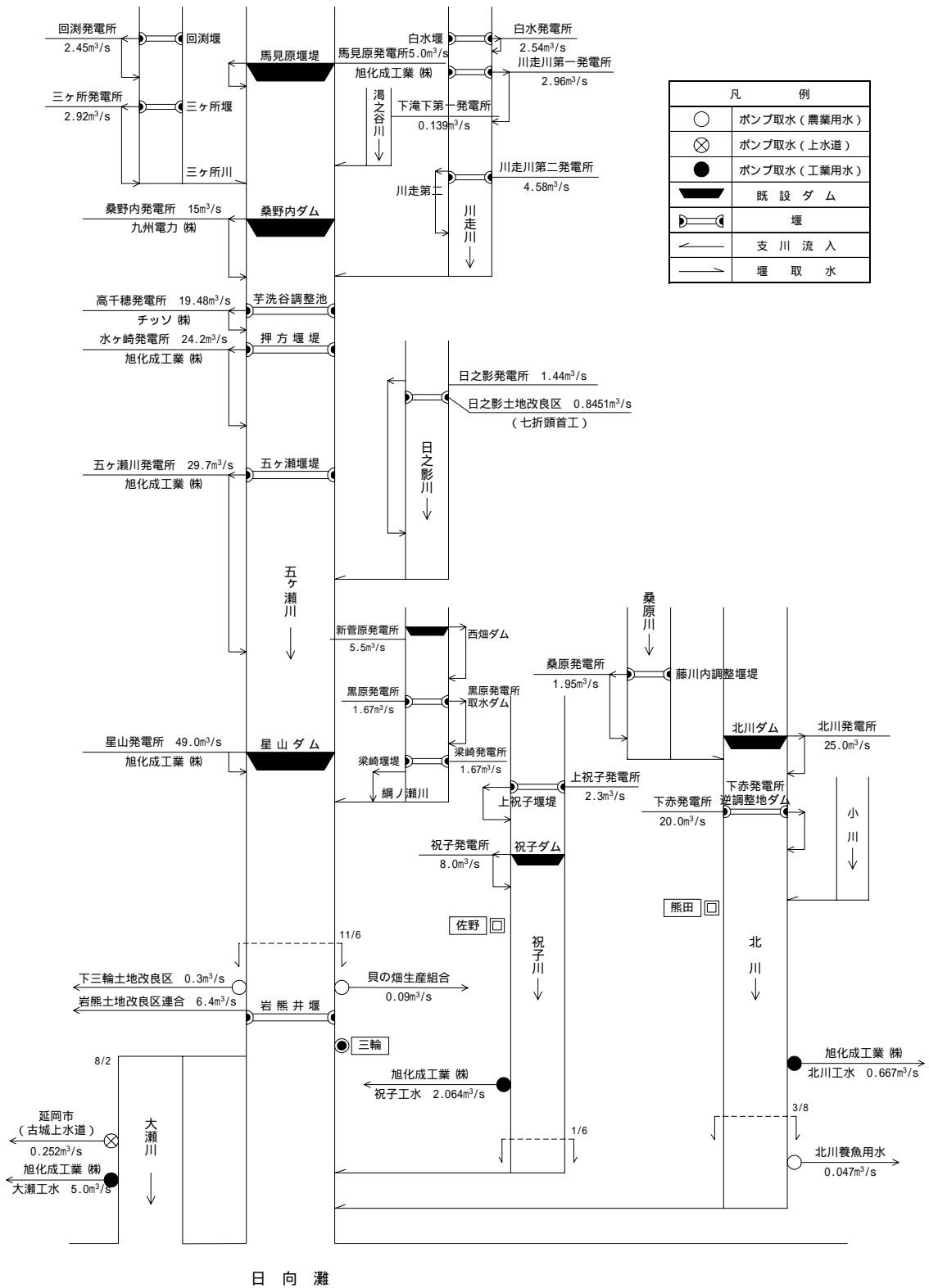


図 5-1 五ヶ瀬川水利現況模式図

5 - 2 . 濁水被害の概要

流量観測基準地点である三輪地点(流域面積 1,044.1 km²)の、昭和 30 年から平成 13 年の過去 47 年間での平均濁水流量は 15.4m³ / sec であり、近年においても濁水被害は発生していない。また、過去に実施した濁水被害履歴に関する資料収集及び聞き取り調査結果においても、五ヶ瀬川流域内で濁水被害に関する記録はないことが判明している。

以下に、濁水被害履歴調査対象市町を記載する。

表 5-2-1 濁水被害履歴の調査対象市町役場

調査地		聞き取り対象	備考
県	市町		
宮崎県	延岡市	延岡市役所	
	北川町	北川町役場	
	北方町	北方町役場	
	日之影町	日之影町役場	
	五ヶ瀬町	五ヶ瀬町役場	
	高千穂町	高千穂町役場	
	北浦町	北浦町役場	
	その他	西臼杵市町	
大分県	宇目町	宇目町役場	
熊本県	蘇陽町	蘇陽町役場	
	高森町	高森町役場	

6 . 河川の流況と水質

6 - 1 . 河川流況

五ヶ瀬川の主要地点である三輪地点での流況は、次表に示すとおりである。昭和 30 年～平成 13 年までの 47 年間()の平均値を見ると、低水流量が 23.2(m³/s)、渇水流量が 15.4(m³/s)である。これらを流域面積 100(km²)あたりの比流量に換算すると、それぞれ 2.22(m³/s)、1.47(m³/s)となり比較的安定した流況となっている。

()昭和 30 年～平成 13 年(昭和 40 年、平成 12 年は欠測、昭和 59 年～平成 7 は棄却)

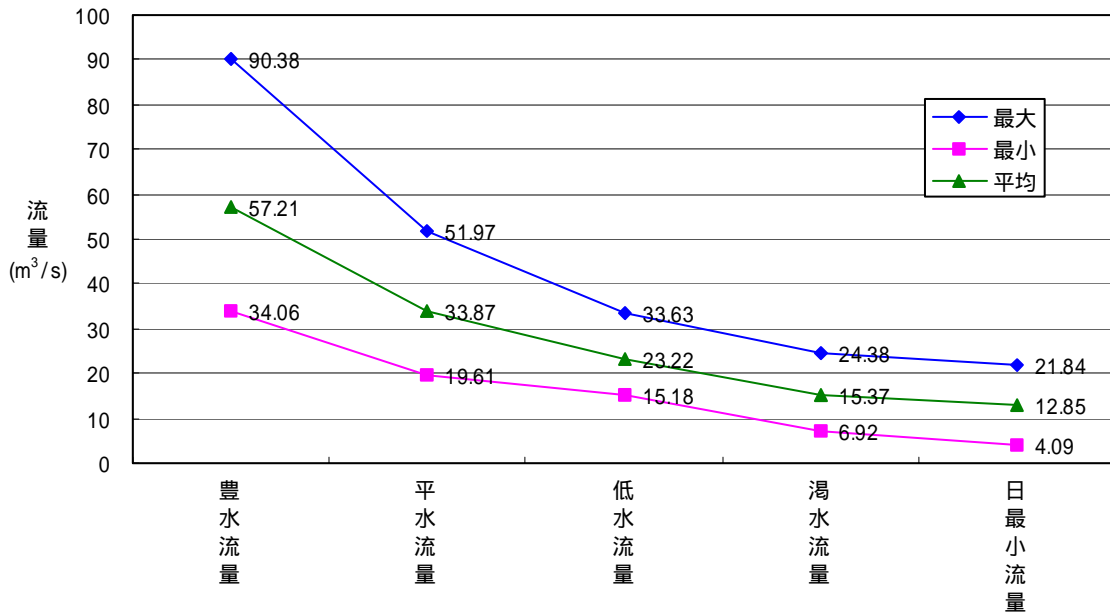


図 6-1 (1) (五ヶ瀬川) 三輪地点現況流況図 (昭和 30 年～平成 13 年)

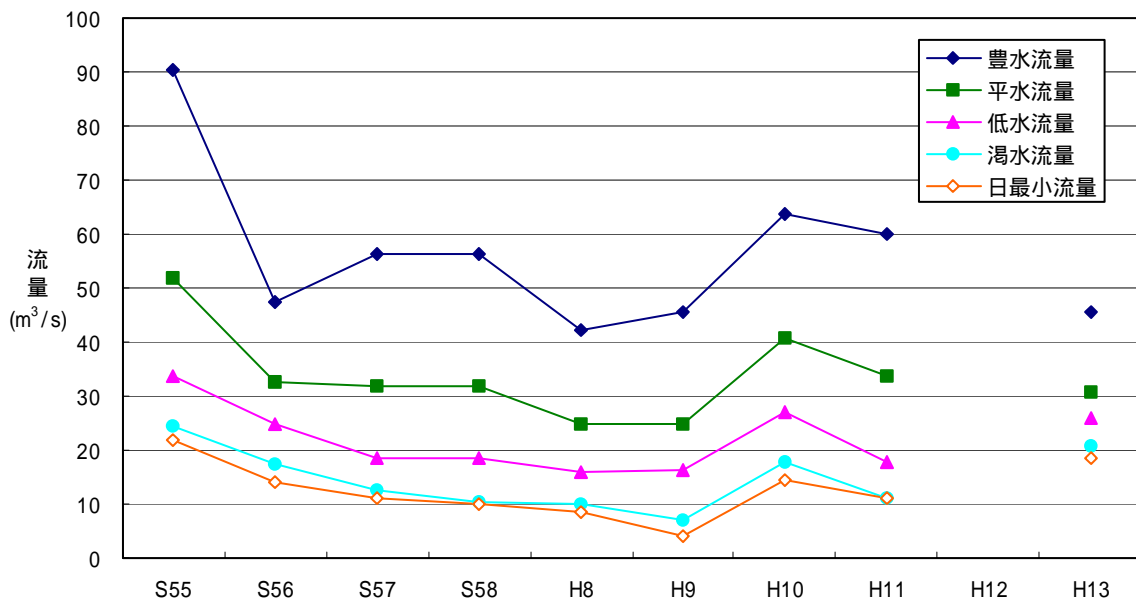


図 6-2 (2) (五ヶ瀬川) 三輪地点現況流況図 (最近 10 ヶ年)

表 6-1-1

三輪地点流況表

(五ヶ瀬川、CA=1044.1 km²)

年	日最大 (m ³ /s)	豊水 (m ³ /s)	平水 (m ³ /s)	低水 (m ³ /s)	渇水 (m ³ /s)	日最小 (m ³ /s)	年平均 (m ³ /s)	流出量 (×10 ⁶ m ³)	備考
S30	553.00	51.80	30.00	19.90	14.50	12.40	47.20	1,488.50	
31	931.00	57.10	35.50	25.80	14.20	12.50	56.70	1,793.00	
32	1,830.00	65.00	35.70	27.90	17.00	13.60	73.20	2,308.00	
33	243.00	41.60	31.20	24.00	13.60	11.80	43.90	1,384.00	
34	2,500.00	53.90	36.70	29.60	21.20	18.40	72.50	2,286.00	
35	855.90	65.30	26.80	19.70	13.80	12.20	55.50	1,755.34	
36	2,336.50	89.20	50.40	28.60	13.80	9.40	98.80	3,117.02	
37	1,333.60	75.80	38.50	21.40	15.70	12.50	80.70	2,543.93	
38	956.50	67.20	38.10	26.00	14.20	12.00	64.80	2,042.02	
39	1,486.10	45.50	33.70	25.90	19.70	16.70	58.90	1,862.69	
40	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	
41	1,624.07	77.76	44.11	28.43	18.64	15.60	91.99	2,900.85	
42	388.00	34.07	19.61	15.19	11.09	9.19	33.09	1,043.62	
43	931.82	37.88	20.55	15.18	11.24	8.57	44.88	1,419.06	
44	843.20	34.06	25.34	19.70	14.88	12.47	43.56	1,373.64	
45	2,090.17	73.70	37.47	22.36	14.58	13.76	81.52	2,570.96	
46	3,563.75	64.44	29.61	18.86	11.91	8.43	87.76	2,788.42	
47	1,746.60	63.80	41.26	25.27	13.81	6.84	74.68	2,361.71	
48	811.95	44.88	32.30	24.36	17.30	13.95	45.84	1,445.76	
49	1,437.03	44.41	24.38	17.70	13.34	10.30	48.76	1,537.64	
50	616.98	70.42	41.31	33.17	23.94	19.02	63.24	1,994.44	
51	1,402.33	62.49	41.81	30.28	19.47	17.94	69.63	2,201.83	
52	880.19	59.84	35.30	21.77	18.03	15.43	61.75	1,947.28	
53	854.94	40.30	26.16	20.46	14.92	13.52	52.01	1,640.15	
54	865.07	60.24	39.29	26.51	14.70	13.47	64.58	2,036.44	
55	2,331.93	90.38	51.97	33.63	24.38	21.84	87.92	2,780.23	
56	956.47	47.32	32.62	24.82	17.56	14.06	45.64	1,439.31	
57	3,137.77	56.26	31.72	18.44	12.53	11.25	81.94	2,584.01	
58	536.35	56.32	31.76	18.58	10.51	9.98	51.31	1,618.22	
H 8	1,221.11	42.04	24.74	15.91	9.93	8.61	49.44	1,563.60	
9	3,038.03	45.57	24.77	16.39	6.92	4.09	59.94	1,890.13	
10	925.93	63.84	40.65	26.91	17.91	14.46	66.14	2,085.85	
11	2,260.68	60.04	33.80	17.81	11.21	11.21	101.97	3,127.51	
12	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	
13	601.53	45.50	30.67	25.79	20.66	18.50	46.34	1,461.45	
平均	1,396.71	57.21	33.87	23.22	15.37	12.85	63.82	2,011.90	
最大	3,563.75	90.38	51.97	33.63	24.38	21.84	101.97	3,127.51	
最小	243.00	34.06	19.61	15.18	6.92	4.09	33.09	1,043.62	
W = 1/10		37.88	24.38	15.91	10.51				3/33

S59～H7年は棄却

6 - 2 . 河川水質

(1) 環境基準

五ヶ瀬川の水質環境基準の類型指定状況は以下に示すとおりである。

表6-2 環境基準類型指定状況

水域の範囲	類型値	達成期間	環境基準地点	指定年月日	備考
五ヶ瀬川上流 (亀井橋より上流)	A	イ	松 山	昭和52年2月25日	宮崎県
五ヶ瀬川下流(1) (亀井橋より下流大瀬川合流点まで)	B	ロ	五ヶ瀬橋	昭和45年9月 1日	環境庁
五ヶ瀬川下流(2) (大瀬川合流点下流)	A	イ		〃	〃
大瀬川上流 (大瀬橋より上流五ヶ瀬川合流点まで)	A	イ	大 瀬 橋	昭和52年2月25日	宮崎県
大瀬川下流 (大瀬橋より下流)	A	イ	浜 砂	昭和45年9月 1日	環境庁
祝子川下流 (五ヶ瀬川合流点より上流粟野名堰まで)	B	イ	中州合流点	〃	〃
祝子川上流 (桑平橋より上流、祝子川に流入する檜山谷川等の河川を含む)	A A	イ	桑 平 橋	昭和58年6月 1日	宮崎県
祝子川中流 (桑平橋より粟野名堰まで)	A	イ		〃	〃
北川上流 (川島橋より上流流入する支川を含む)	A	イ		昭和52年2月25日	宮崎県
北川下流 (川島橋より下流五ヶ瀬川合流点まで)	B	イ	白 石	昭和45年9月 1日	環境庁
岩戸川全域 (流入する河川を含む)	A A	イ		昭和52年2月25日	宮崎県
三ヶ所川 (五ヶ瀬川合流点まで、三ヶ所川に流入する小谷川等の河川を含む)	A	イ		平成 4年4月 1日	宮崎県
綱ノ瀬川 (五ヶ瀬川合流点まで、綱ノ瀬川に流入する猪の内谷川等の河川を含む)	A A	イ		〃	〃
曾 木 川 (五ヶ瀬川合流点まで、曾木川に流入する大保下川等の河川を含む)	A A	イ		〃	〃
細 見 川 (細見川に流入する西の小谷川等の河川を含む)	A A	イ		平成 5年4月 1日	
日之影川 (日之影川に流入する河川を含む)	A A	イ		平成 7年4月 1日	

注) A A : BOD 濃度 1mg/l 以下

イ : 直ちに達成

A : BOD 濃度 2mg/l 以下

ロ : 5年を越える期間で可及的速やかに達成

B : BOD 濃度 3mg/l 以下



図 6-2-1 五ヶ瀬川水質環境基準地点及び類型指定状況図

(2) 水質の現状

五ヶ瀬川の水質は、昭和 56 年以降は横這い状態でいずれも環境基準値を満足しており、おおむね良好な水質を保っている。

三輪地点においては、汚濁支川及び生活排水等による影響がほとんど無いことから、BOD75%値は 1mg/l 程度であり環境基準 2mg/l を満たしている。大瀬川分流点下流の延岡市街地上流に位置する松山橋地点では、平成 2 年 6 月 13 日より濁水位等でも 1m³/sec を分流させていることから、BOD75%値は 1mg/l 程度であり環境基準 2mg/l を満たしている。

今後、三輪より上流の現状の水質は保持され、大瀬川分流点より下流は下水道等の整備によりさらなる水質改善が期待される。

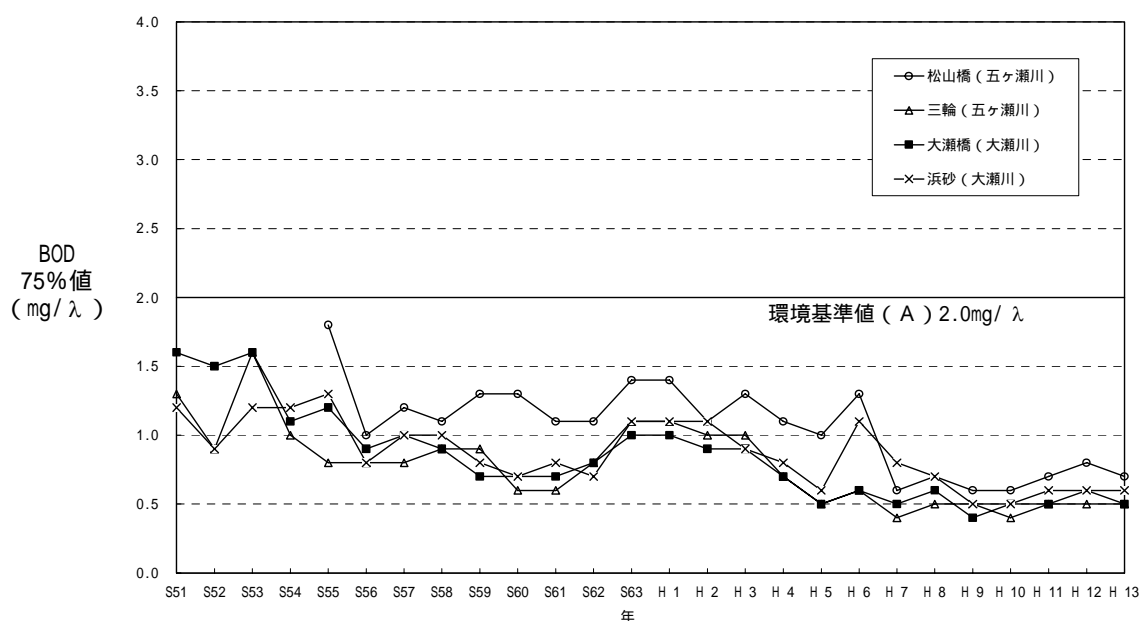


図 6-2-2 (1) 五ヶ瀬川における水質 BOD75%経年変化 (A 類型)

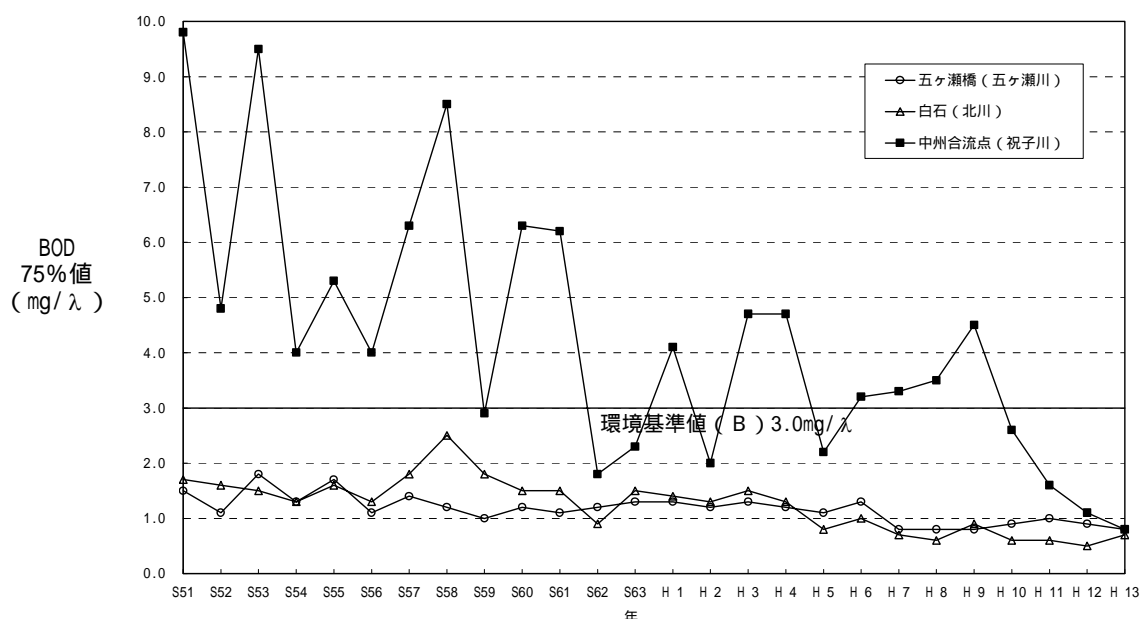


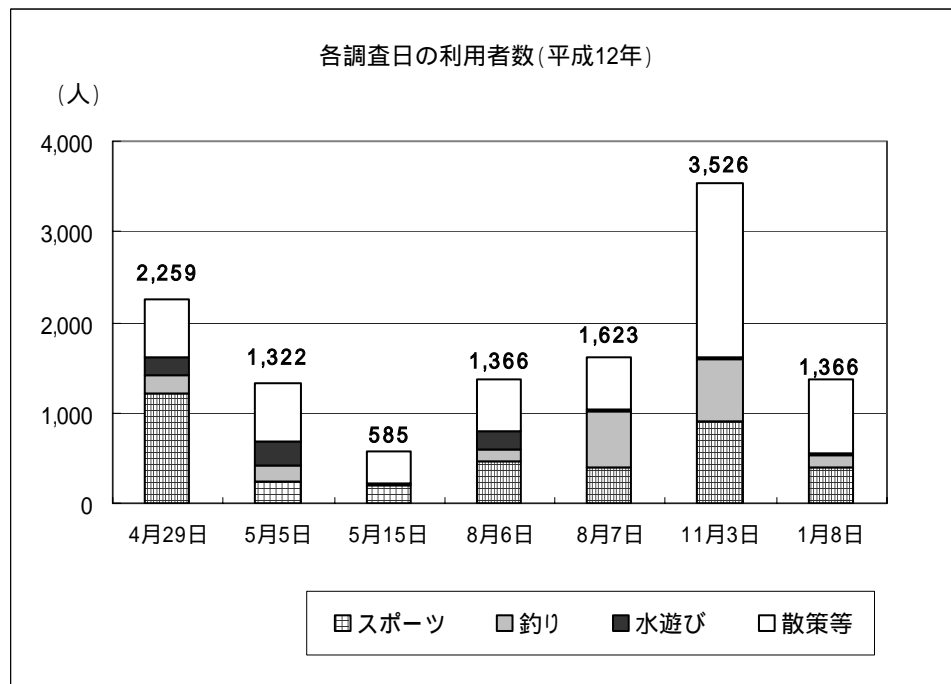
図 6-2-2 (2) 五ヶ瀬川における水質 BOD75%経年変化 (B 類型)

7. 河川空間の利用状況

当該流域は、各市町を縦横に流れる五ヶ瀬川水系とともに発展してきた地域であるといえる。各市町では、多くの歴史的文化財と同様に、山岳や溪谷、滝、清流など豊かな景観資源を観光的側面から有効に活用し、自然との調和を優先させた河川利用が積極的に行われている。また、中・下流域では有名な「鮎やな」やお盆の精霊流しなど、伝統的かつ日常的な河川との関わりを持っている。

五ヶ瀬川の年間利用者数（推定）は約51万人であり、沿川市町村人口からみた年間平均利用回数は7.6回となっている。直轄区間における五ヶ瀬川の季節ごとの利用者数では、秋季の11月3日（文化の日）が最も多く、逆に5月15日（平日）が一番少ない。これは11月初旬は落ち鮎の釣りシーズンであり、他の季節よりも多くの釣り客が河川を利用していることに起因している。（図7 - 1参照）

五ヶ瀬川右岸の4～6kmでは、堤防が歩道として整備されていることもあり、河川利用形態としては散策が最も多くなっている。次いで、下流部の高水敷に設置されている施設でサッカーやゴルフ等のスポーツも盛んであり、そのほかでは釣り、水遊びという順での利用がなされている。



（出典：建設省九州地方建設局延岡工事事務所）

図7 平成12年の五ヶ瀬川利用者数

7 - 1 . 河川の利用状況

(1) 上流部

五ヶ瀬川上流部は、蘇陽峡や高千穂峡などの渓谷や滝、清流などすぐれた景勝地が点在し、多くの観光客を集めている。また、それらの景勝地の周囲にはキャンプ場やレジャー施設が整備され、気候のよい時期は行楽客や登山客などで賑わっている。

宮崎県の日之影町や、五ヶ瀬川最上流域にあたる熊本県蘇陽町では、河川に係わるイベントを町が企画するなど、豊かな自然を活用した観光に力を注いでいる。

表7-1-1 五ヶ瀬川上流域の河川利用

県	市町	利用名	内容	位置	期間
宮崎県	日之影町	日之影渓谷紅葉路 マラソン大会			11月
		日之影渓谷 イルミネーションまつり			12月
		水無村キャンプ場 日之影キャンプ場	トレッキング、水遊び、釣り 河川プール	日之影川上流	
		かもしかの森	渓流釣り、ケビン 英国館(日本でのフライフ ィッシング発祥の地)	日之影川上流	
		トロッコ道ウォーキング	渓流沿いのトロッコ道を跡 を往復16km歩くイベント	日之影温泉駅から 石垣村	4月下旬から 年数回開催
		五ヶ瀬川ふれあい遊水 エコフェスタinひのかげ	河川・渓谷の石を利用した クラフト教室、渓流釣り、カ ヌー遊覧、ラフティング等	役場下河川敷、五 ヶ瀬川及び日之影 川	8月初旬
		青雲橋夏まつり	コンサート、各種イベント 花火等	青雲橋周辺	8月お盆
	高千穂町	高千穂峡遊覧ボート	貸しボート	高千穂峡	
	五ヶ瀬町	五ヶ瀬の里キャンプ場	遊歩道、滝	五ヶ瀬川上流	4月1日 ～9月30日
		やまめの里	ヤマメの養魚場等	鞍岡(五ヶ瀬川源 流)	
熊本県	蘇陽町	ヤマメ解禁	ヤマメのほかにマス、コ イ、ウグイなどの釣りが楽 しめる。	馬見原橋下、中山 ダム等	3月1日 ～9月30日
		カヌー		馬見原橋下	
		ヴァレアスレチックツアー	渓流ハイク	蘇陽峡	
		水遊祭	川遊び、水遊び	五ヶ瀬川沿い	7月下旬
		スタンプラリー	渓流トレッキング	五ヶ瀬川沿い	

(出典 : 各市町ホームページ、観光パンフレット等)



日之影キャンプ場（日之影町）
写真：パンフレット「かもしかの森」（日之影町）

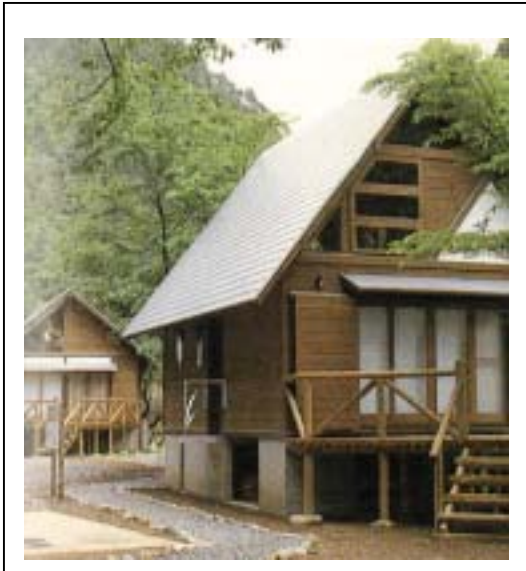
青雲橋花火大会（日之影町）
写真：パンフレット「21世紀への架け橋」（日之影町）



トロッコ道ウォーキング（日之影町）
写真：パンフレット「21世紀への架け橋」（日之影町）

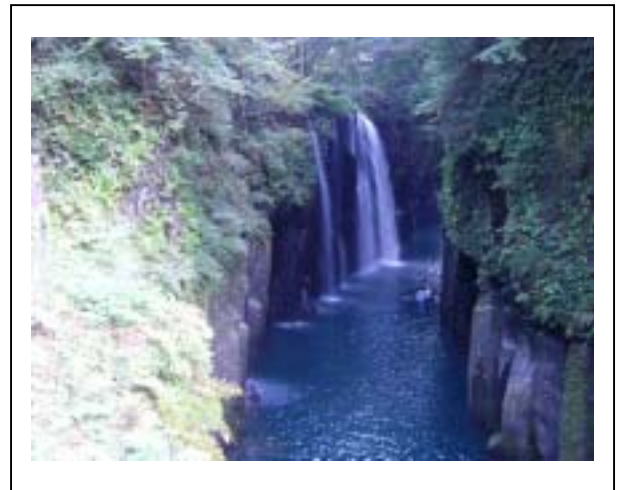
英国館（日之影町：かもしかの森）
写真：パンフレット「かもしかの森」（日之影町）





ケビン村（日之影町：かもしかの森）
写真：パンフレット「かもしかの森」（日之影町）

高千穂峡遊覧ボート（高千穂町）
写真：延岡河川国道事務所



カヌー（蘇陽町：馬見橋）
写真：観光カード「カヌー」（蘇陽町企画観光課）

(2) 中流部

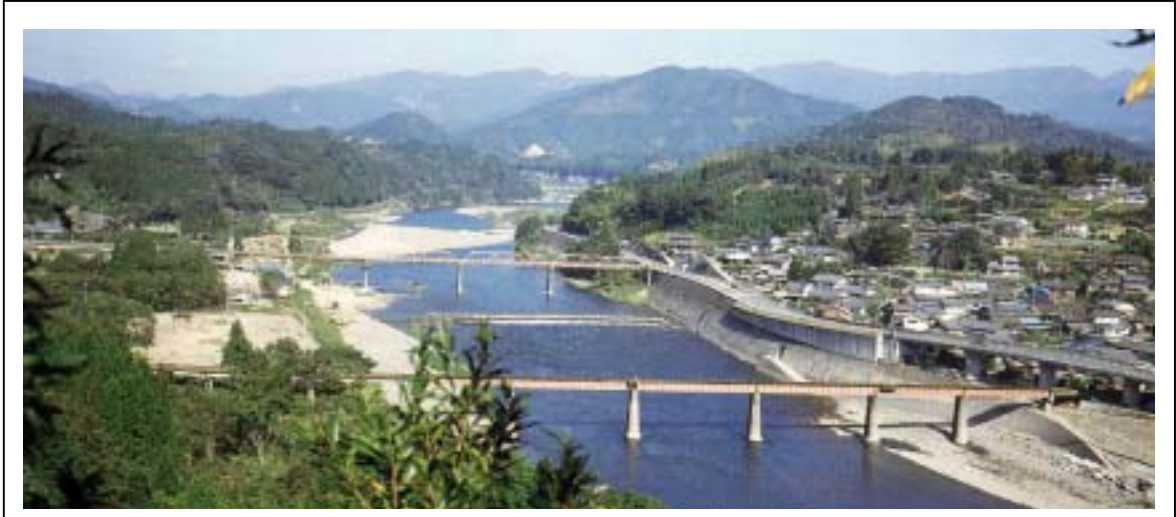
北川町にかかる中流部は、河川の瀬や淵が多いため良好な釣り場となり、全国からアユやヤマメの渓流釣り場として人気の高い地域である。また、五ヶ瀬川で行われる鮎やなのうち、最も上流に架けられる「川水流やな」は、巨大なアユが獲れることで有名である。

支川綱ノ瀬川の上流に位置する鹿川キャンプ場は、流域内で最も早くキャンプ場開きが行われ、付近を流れる鹿川渓谷ともに新緑の季節から紅葉の秋まで多くの観光客で賑わっている。

表7-1-2 五ヶ瀬川中流域の河川利用

県	市町	利用名	内容	位置	期間
宮崎県	北方町	やまめ解禁		鹿川、深谷、二股地区	3月初旬
		鹿川キャンプ場開き	鹿川渓谷トレッキング、水遊び、釣り	鹿川キャンプ場	4月下旬
		鮎漁解禁	五ヶ瀬川は巨鮎が育つとして有名なため、鮎漁解禁日には全国から釣り人が集まる	五ヶ瀬川水系	6月初旬
		精霊流し		曾木	8月お盆
		川水流やな	五ヶ瀬川で行われる鮎やなのうち最も上流に架かるやな	川水流	10月1日～11月末

(出典：各市町ホームページ、観光パンフレット)



川水流やな(北方町)

写真:パンフレット「北方見聞」(北方町)

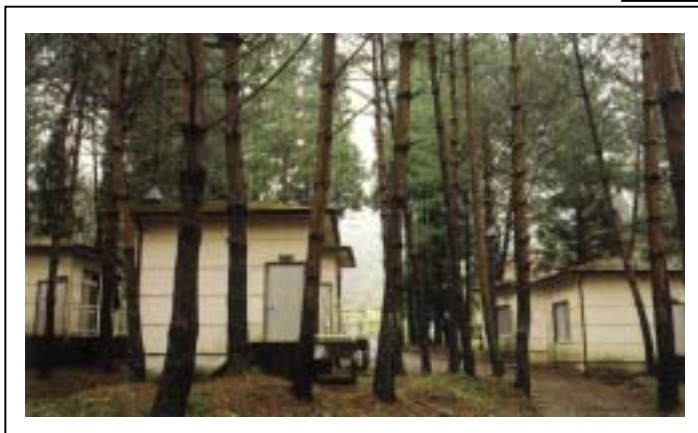


あゆの友釣り

写真:パンフレット「北方見聞」(北方町)

夏の鹿川渓谷(北方町)

写真:北方町企画開発課より



鹿川キャンプ場

写真:パンフレット「北方見聞」(北方町)

(3) 下流部

延岡市を貫流する下流域では、7月に五ヶ瀬川イカダ下り大会実行委員会により「五ヶ瀬川イカダ下り大会」が開催され、グループや企業で作成した色とりどりのイカダが、北方町より大瀬川の河川敷まで自然を楽しみながら下っている。

また、10月初旬から11月末にかけて、市内2ヶ所に大がかりな「やな」が架けられ、落ち鮎を獲っている。これは延岡市の秋の風物詩として全国的に有名であり、県内外から多くの観光客を集めている。また、同じ時期に落ち鮎を求めて釣り人が全国から集まるため、秋季は五ヶ瀬川の利用者数が最も多くなる季節となっている。

また、延岡市のお盆の行事として、明治時代から伝わる精霊流し「流れ灌頂」が行われるなど、延岡市と五ヶ瀬川の繋がりは日常的かつ歴史的にも強いものとなっている。

表7-1-3 五ヶ瀬川下流域の河川利用

県	市町	利用名	内容	位置	期間
宮崎県	延岡市	鮎漁解禁	五ヶ瀬川は巨鮎が育つとして有名なため、鮎漁解禁日には全国から釣り人が集まる	五ヶ瀬川水系	6月上旬
		五ヶ瀬川イカダ下り大会	グループや企業で作ったイカダで五ヶ瀬川を下るイベント	北方町笠下～岩熊井堰～延岡市大瀬川河川敷	7月中旬
		流れ灌頂	明治時代から伝わる初盆の精霊流し。お盆の後、市内の全寺院が集まり、初盆家や祖先を慰める人たちが手作りの和紙灯籠等に灯を燈し、夕暮れの五ヶ瀬川に流す	延岡市内 五ヶ瀬川 亀井橋下	8月18日
		鮎やな	市内2ヶ所に大がかりな「やな」がかかり、落ち鮎をとり、河原での趣ゆたかな鮎料理が味わえる。延岡市の秋の風物詩でもある	延岡水郷やな(大貫町3丁目) 岡元やな(岡元町)	10月初旬～11月末

(出典：各市町ホームページ、観光パンフレット)



五ヶ瀬川イカダ下り大会(延岡市)
写真:延岡市総務課



あゆ釣り(延岡市)
写真:延岡市総務課



鮎やな(延岡市):(延岡市内に2箇所架けられる,10~11月)

写真:延岡市観光協会ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/nobekan/cont/sigh/gokase/gokase.html>
延岡市公式ホームページ <http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/syoko/syogy/ayuyana/>



流れ灌頂(延岡市,亀井橋下)

写真:延岡市観光協会ホームページ
<http://www5e.biglobe.ne.jp/nobekan/narrow/even/naga/naga.html>

7 - 2 . 高水敷地の利用状況

延岡市街部を貫流する下流部は、高水敷も広く、グラウンド、ゴルフ場などが整備され、住民の散策の場、憩いの場ともなっている。その分布は直轄区間内全域に亘っているが、特に五ヶ瀬川から分派した大瀬川において多くなっている。

五ヶ瀬川の高水敷総面積は106.50haであり、このうち、20.67haが公園・緑地などとして利用されている。利用形態としては日常的なスポーツ・レクリエーションなどが主体となっている。また、花火大会などのイベントの場としても利用されている。

また、延岡市は、まちづくりの一環として「アスリートタウン構想」を掲げており、国際大会開催が可能な運動公園の建設や、河川堤防敷を利用したジョギングコースの整備構想が進められている。この構想を支援するため、国土交通省九州地方建設局延岡工事事務所では、河川環境整備事業として遊歩道や休憩施設、親水性のある環境護岸等の整備を行っている。

表7-2-1 五ヶ瀬川河川敷利用状況

単位:件数(カ所)、面積(ha)

土 地 の 占 用											
公園・緑地		運 動 場				ゴルフ場 (類するもの含む)		その他		合 計	
		地方公共団体		学 校							
件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
10	16.04	2	0.06	1	1.26	1	0.11	79	3.20	93	20.67

出典：土地占用の処分に係る面積等報告書
建設省 延岡工事事務所

表7-2-2 五ヶ瀬川高水敷の利用内容

	名 河川	No.	距離標 (km)	左右 岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名	一般 利用	利用 料金
ゴルフ場	大瀬川		4.57～ 4.95	右	大瀬川ゴルフコース	ショートコース	34787.290	日豊開発株式会社	可	有料
			6.0～ 6.47	左	大貫川練習場	開放し ショートコース	39947.000	延岡市河川敷 運用協会	可	有料
都市緑地	五ヶ瀬川		3.0～ 4.0	右	第1五ヶ瀬川市民 緑地本小路地区	都市緑地	31140.480	延岡市	可	無料
			8.8～ 9.0	右	第1五ヶ瀬川市民緑 地分流公園地区	都市緑地	8088.640	延岡市	可	無料
			5.0～ 6.0	左	第1五ヶ瀬川市民緑 地古川松山地区	都市緑地	54181.316	延岡市	可	無料
	大瀬川		3.85～ 4.57	右	第1五ヶ瀬川市民 緑地占城地区	都市緑地	48526.630	宮崎県	不可	無料
			7.8～ 9.0	右	第1五ヶ瀬川市民 緑地三須地区	都市緑地	25361.830	延岡市	可	無料
			2.93～ 3.06	左	第1五ヶ瀬川市民 緑地新町地区	都市緑地	29180.010	宮崎県	不可	無料
			4.0～ 5.15	左	第1五ヶ瀬川市民 緑地下大貫地区	都市緑地	17689.298	延岡市	可	無料
			6.47～ 7.0	左	第1五ヶ瀬川市民 緑地上大貫地区	都市緑地	25476.460	延岡市	可	無料
	北川		1.55～ 1.85	右	第2五ヶ瀬川市民 緑地川島地区	都市緑地	41301.420	延岡市	可	無料
			3.0～ 3.8	左	第2五ヶ瀬川市民 緑地二ツ島地区	都市緑地	55300.480	延岡市	可	無料

出典：延岡工事事務所資料

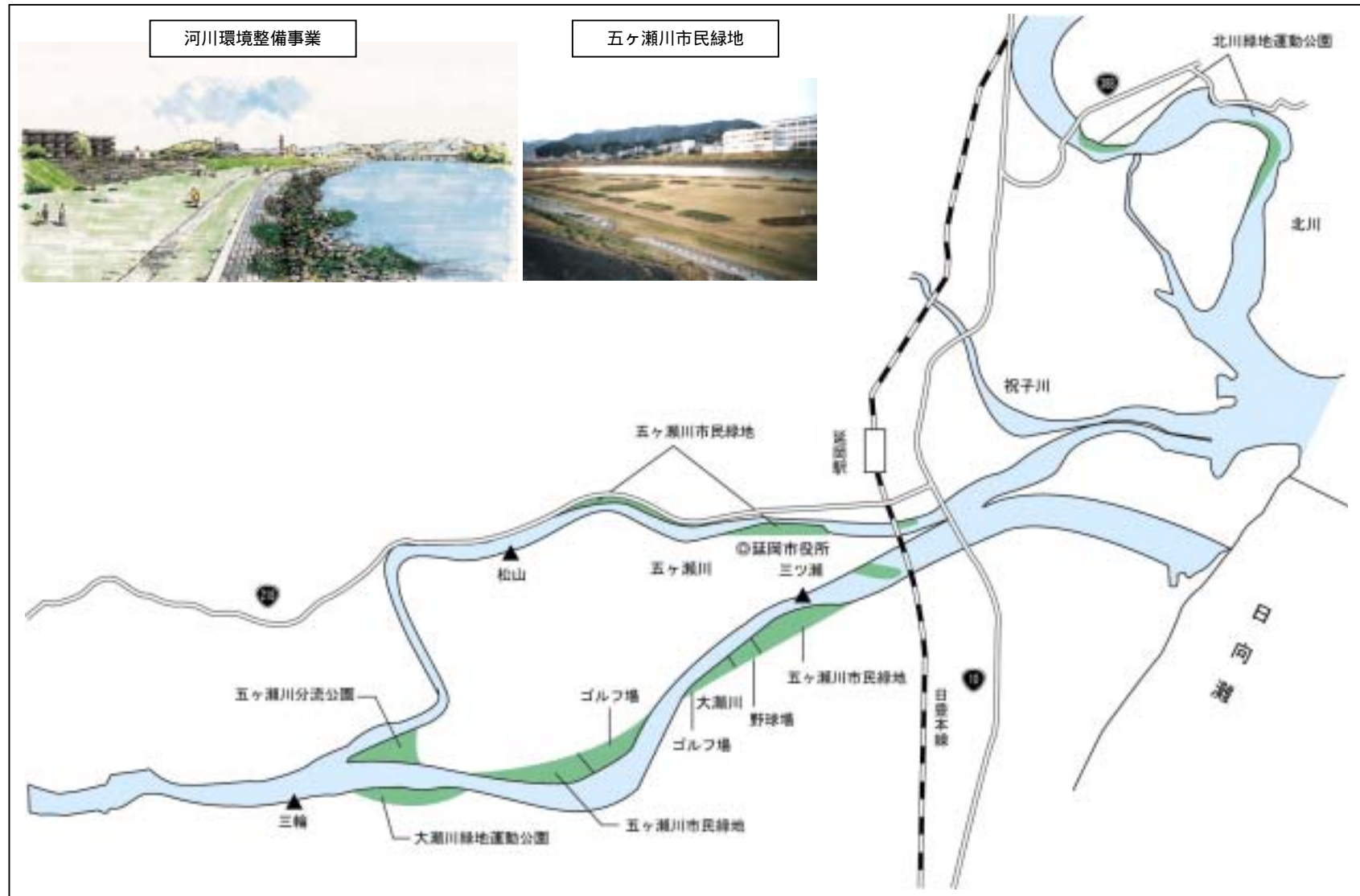


図7-2 五ヶ瀬川高水敷の公園位置図

出典：国土交通省九州地方建設局延岡工事事務所

8 . 河川管理の現状

8 - 1 . 河川管理施設

河川の管理には、施設の維持・管理、流水管理、法律にもとづく許認可などがある。延岡工事事務所においても日常の川の管理をはじめ、洪水時の管理、濁水時の管理、施設の点検・補修など、河川の正常な機能維持のために、常にきめ細かい管理を行っている。

施設の維持・管理としては、堤防のひび割れ補修や河川構造物（堰や樋管など）の点検・補修、河川利用施設の監視など様々な管理をおこなっている（表8-1-1参照）。

表8-1-1 延岡工事事務所による河川施設の維持・管理

堤防（ひび割れの補修）
高水敷（竹木、ゴミの除去等）
低水路（護岸の点検補修等）
河川構造物（堰、樋管等の点検補修等）
観測施設（テレメーター、水位・雨量データ観測・収集施設等の点検・補修等）
行政事務（河川台帳の作成、境界杭の管理等）
河川利用施設（不法投棄の監視等）

（出典：国土交通省九州地方建設局延岡工事事務所ホームページより）

（1）堤防

堤防の整備の現状（平成15年3月現在）は下表のとおりである。

表8-1-2 直轄管理区間堤防整備状況

	延長（km）
完 成 堤 防	35.9（73%）
暫 定 堤 防	6.3（13%）
未 施 工 区 間	6.8（14%）
堤 防 不 必 要 区 間	6.0
計	55.0

延長は、直轄管理区間（ダム管理区間を除く）の左右岸の計である。

（2）排水機場等

河川管理施設：16m³/s

直轄管理区間の施設のみである。

8 - 2 . 河道内植生

五ヶ瀬川流域内の植生については、表8-2の資料などにより調査されている。このうち延岡工事事務所で作成された「五ヶ瀬川水系河川環境情報図」では、直轄管理区間である下流域の生態系分布が詳細に明らかにされている。また、五ヶ瀬川の宮崎県管理区間については「五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川圏域河川整備計画（案）」で、支川・北川については「宮崎県河川整備計画検討委員会 五ヶ瀬川水系北川圏域」において生態系調査が行われており、河川管理のための重要な基礎資料となっている。

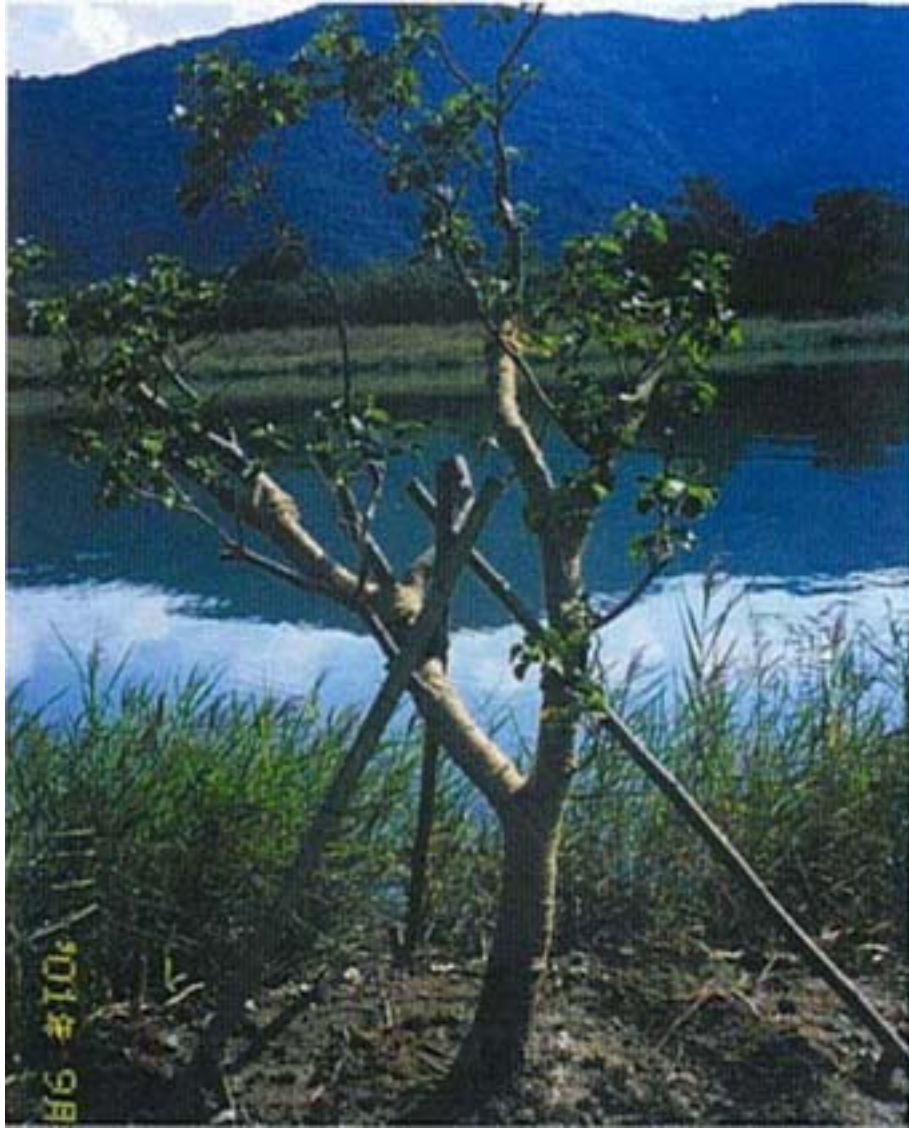
五ヶ瀬川河道内及び周辺の植生は、上流部では溪谷や滝の切り立った河岸上に照葉樹林が分布し、中流部では比較的穏やかな流れの河道兩岸に、スギ・ヒノキ等の人工林が分布している。また、下流域は川幅が広く高水敷が多く存在し、河口部から2.5kmまでは湿地・ヨシ原が主体となっている。2.5kmから6.0kmの水路沿いはツルヨシ群落、6.0kmから11.6kmはツルヨシ・オギ群落の中に河畔林、竹林が混在する区間となっている。また、それぞれの区間には、塩沼地に分布するハマボウや水辺の植物であるタコノアシ、ミゾコウジュ、カワヂシャなどの貴重種も分布している。

これらの抽水植物や草本植物群落は、生物の重要な生息域となっていることが判明している一方、周辺住民からはヨシを伐採して欲しいとの要望もあがっている。

五ヶ瀬川の支川である北川の上流区間（北川大橋～八戸地区）では、高水敷に単子葉草本群落（ツルヨシ等）が広範囲に見られ、そのほかヤナギ林、竹林が部分的に見られる。山付き区間では、アラカシやツブラジイ等の常緑樹の二次林やスギ植林になっている場所が多い。また、特定種としてズイナ、ウバタケニンジン、ヤナギイボタ、ミゾコウジュ、カワヂシャ、イズハハコ、ヒメミクリ、キンランが確認されている。

また、下流部については、山腹が河川に迫っている区間において、兩岸に河畔林が発達している。草本類としては、主にススキ群団が主で、特定種としてはウラギク、センニンモ、リュウノヒゲモ、イトトリゲモ、ナガボシテンツキなどの水生植物が確認されている。また、北川下流域の家田・川板周辺の湿地帯は、希少種・固有種の水生植物が多く、新種も見られているため、環境庁の「日本の重要湿地500」で選定されているとともに、「宮崎県の保護常住様な野生物」（宮崎県2000）で、極めて危機的レベルの高いAランクにも選定されている。

北川の左支川で、北浦町から本川へと注いでいる小川（永代橋～松瀬地区）においては、単子葉草本群落（ツルヨシ等）や裸地が多く見られ、山付き区間では、北川本流上流域とほぼ同じ様相を呈している。特定種としてはニッケイ、サンヨウアオイ、ミズマツバ、ツクシムレスズメ、ウバタケニンジン、ヤナギイボタ、ミゾコウジュ、スズメハコベ、マイヅルテンナンショウが確認されている。



ハマボウ

8 - 3 . 地域との連携

五ヶ瀬川は、宮崎県、熊本県、大分県の3県10市町を貫流しており、歴史的に見ても地域と河川の繋がりが深い流域である。また、豊かな水と自然景観に恵まれた延岡市は、「水郷のべおか」とよばれる五ヶ瀬川と大瀬川を中心に街並みが形成された城下町で、河川と地元住民とは深い繋がりで結ばれている。

このため宮崎県では、第5次宮崎県総合長期計画を推進するプロジェクトの一つとして、五ヶ瀬川流域の自然や歴史、文化、景観などの特性を活用した広域的な地域づくりの指針として、平成13年3月に「五ヶ瀬川ふるさと水回廊構想」を策定し、人と自然が共生する流域連携社会の形成をめざすこととした。構想の対象地域としては、宮崎県延岡市、北方町、北川町、北浦町、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町の1市6町で、構想の期間としては平成13年度を初年度として概ね10年間の計画としている。（表8-3参照）

表8-3 五ヶ瀬川ふるさと水回廊構想プロジェクト

学びの回廊	川を学ぶプロジェクト 川の学校設立運営、五ヶ瀬川学、子どもの水辺づくり等
	流域の歴史再発見プロジェクト 舟運の歴史再現、水神様再現、水と生きる知恵再発見等
	流域の文化伝承プロジェクト 伝統漁法体験、川の歳時記作成、伝統技能映像保存等
遊びの回廊	リバースポーツプロジェクト 五ヶ瀬川オリンピック、サイクリングロード、鮎のごかせ発信等
	冒険リバープロジェクト 川下り冒険、源流体験、トロッコ探検ロード整備等
	いやしの川づくりプロジェクト ごかせがわ周遊化、いやしの川音、リバーセラピー等
花と緑の回廊	花と緑の川街道プロジェクト 花と緑の風景演出、橋のある風景づくり、ふるさと風景保全等
	清流ルネッサンスプロジェクト ほたるルネッサンス、清流意識啓発、ごかせの水発信等
	流域の森形成プロジェクト 流域の森植樹、森の苗木育成、森を守り新たな仕組み等

出典：五ヶ瀬川ふるさと水回廊構想ホームページより

一方、平成6年（1994年）より、国土交通省や漁協、行政各機関、市民団体や学生の支援を得て「リバーフェスタのべおか」が開催され、川とふれあいながら自然や環境を考えるためのイベントとして、その後も年1回継続的に催されている。

リバーフェスタの目的として、「川で様々な生活体験と川と共生したくらしの創設」をうたっており、川遊びの伝承や水辺の生物調査、カヌー・船・イカダ・Eボートなどの体験、環境問題の啓発活動、稚魚放流などを毎年趣向を替えながら行っている。また、実際川にふれることができるイベントとして親子連れなどに人気が高い。



写真(右)：「五ヶ瀬川ふるさと水回廊構想」ホームページより
<http://www.pref.miyazaki.jp/kikaku/tiiki/mizu/river-festa/index.htm>

「リバーフェスタのべおか」の様子

また、1970年より始まり、世界規模200ヶ国で開催される世界最大の環境イベント「アースデイ」が1998年より延岡市において定期的に開催されており、その中心となる会場として五ヶ瀬川下流の高水敷が利用されることが多い。イベントの内容としては源流となる森林のための植樹やクリーン作戦などを、延岡工事事務所や延岡市、五ヶ瀬川ふるさと水回廊倶楽部などの協力を得て、ボランティアを中心に行われている。



「延岡アースデイ」の様子

8 - 4 . 水防体制

(1) 河川情報の概要

五ヶ瀬川では、流域内に雨量観測所（15ヶ所）、水位観測所（20ヶ所）を設置し（図8-4-1）、テレメータなどにより迅速に情報収集するとともに、図8-4-2に示すようにこれらのデータを用いて水位予測などを行い、流域住民の水防活動に活用している。

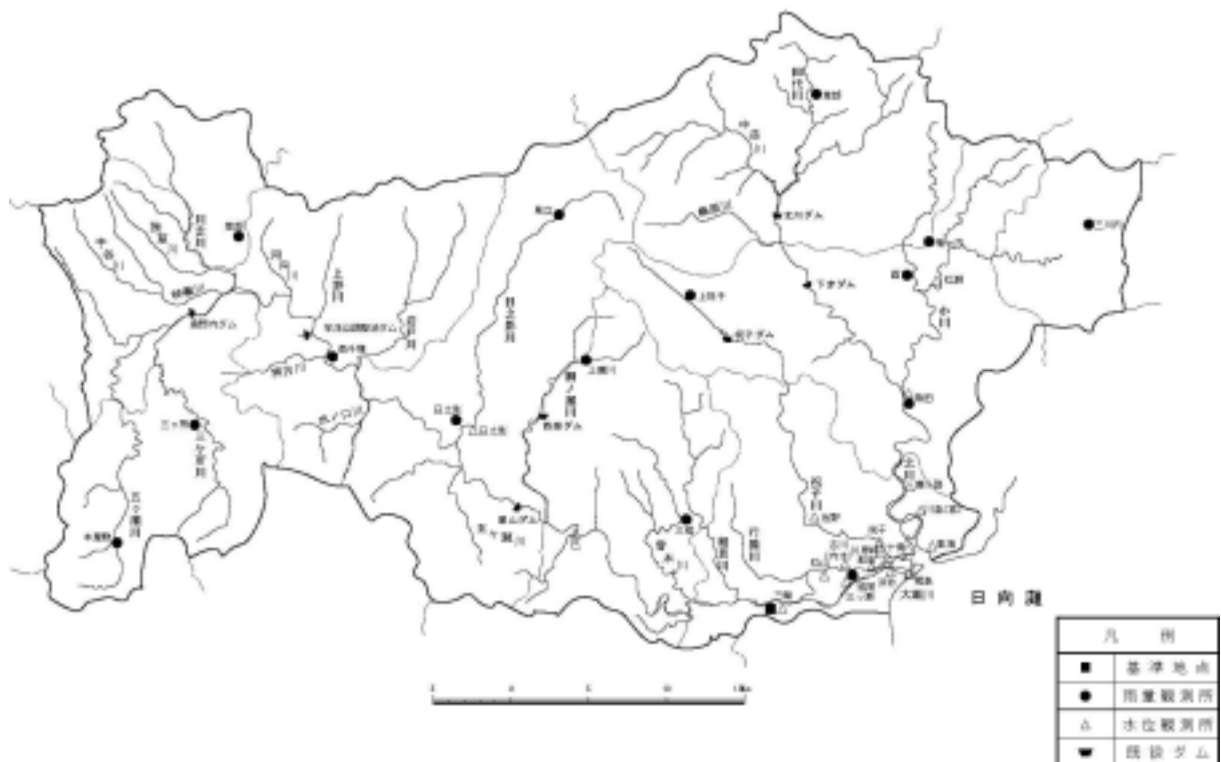


図8-4-1 雨量・水位観測所位置図

危機管理システム(防災情報共有システム)の構築

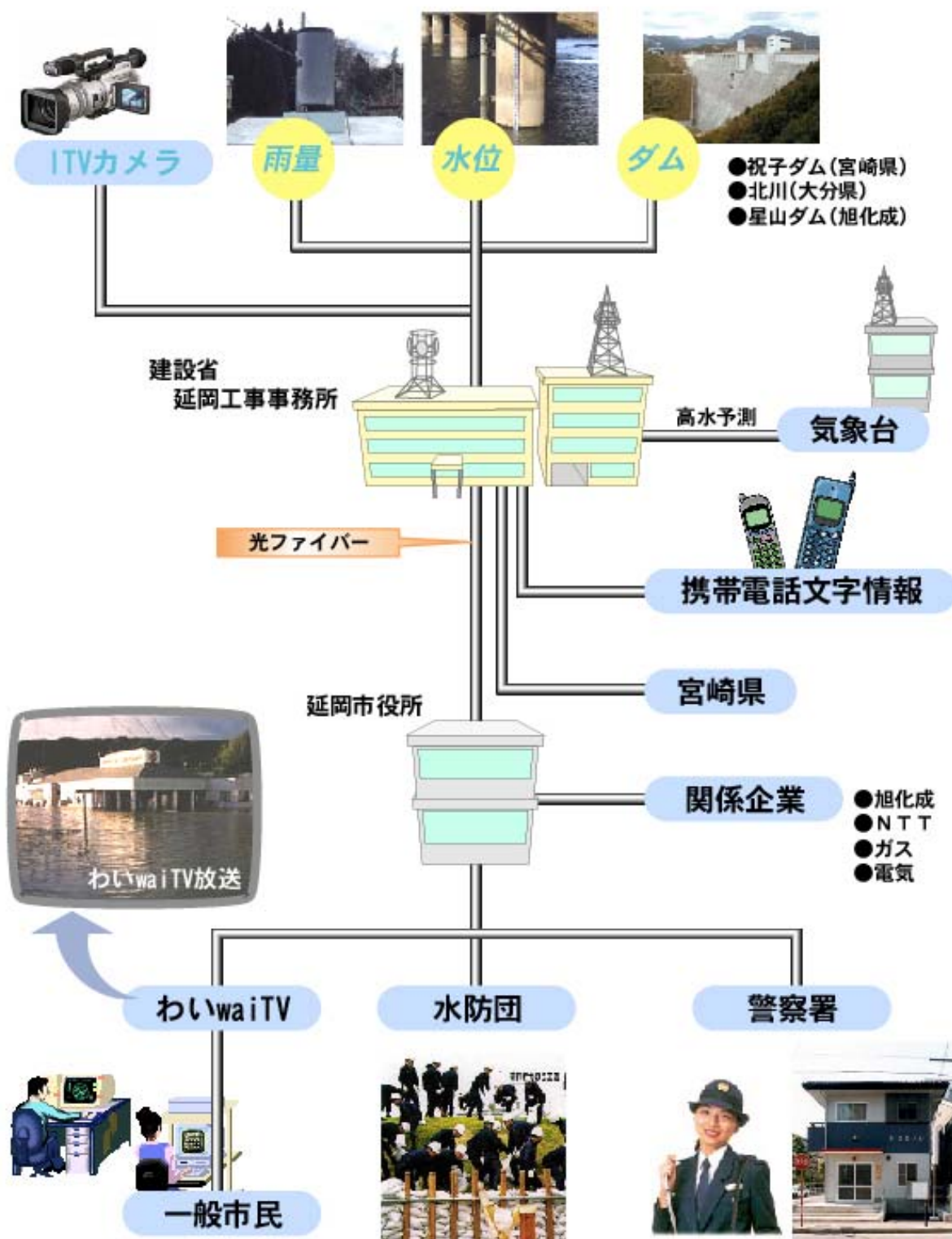


図8-4-2 延岡工事事務所における危機管理システム

(2) 水防警報の概要

五ヶ瀬川では洪水による災害が起こるおそれがある場合に、水位観測所の水位をもとに水防管理団体に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速、的確に行われるように水防警報を発令している。

(3) 洪水予報河川の指定

五ヶ瀬川では、平成11年2月より水防法第10条及び気象業務法第14条に基づき、洪水予報指定河川となり、気象台と共同で「洪水予報」を発表するようになった。

(4) 洪水危機管理の取り組み

洪水危機管理において、平常時から危機管理に対する意識の形成を図るとともに、洪水発生時の被害を最小限に押さえるため、浸水実績や洪水氾濫危険区域図（図8-4-4）を公表し、水防計画・避難計画の策定支援、土地利用計画との調整を関係機関や地域住民などと連携して推進している。

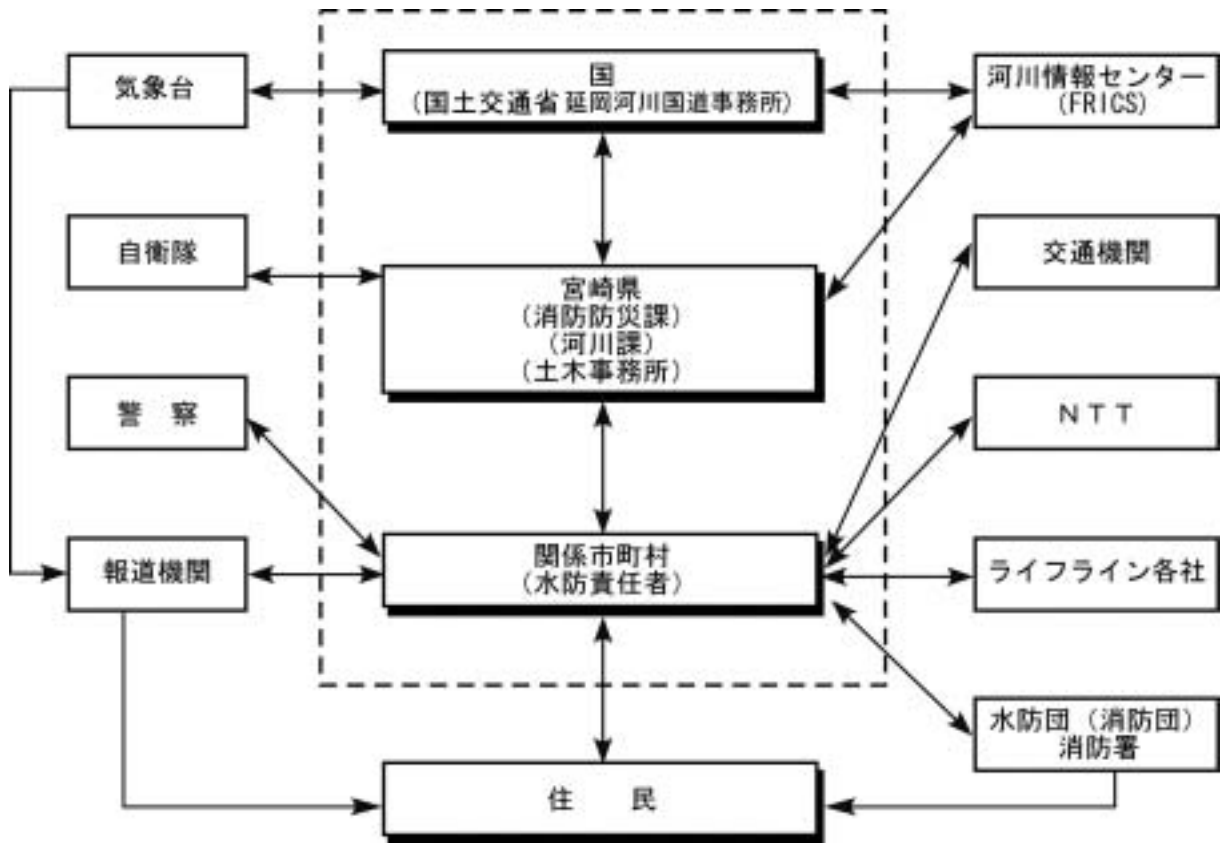


図8-4-3 五ヶ瀬川洪水危機管理における情報ネットワーク図

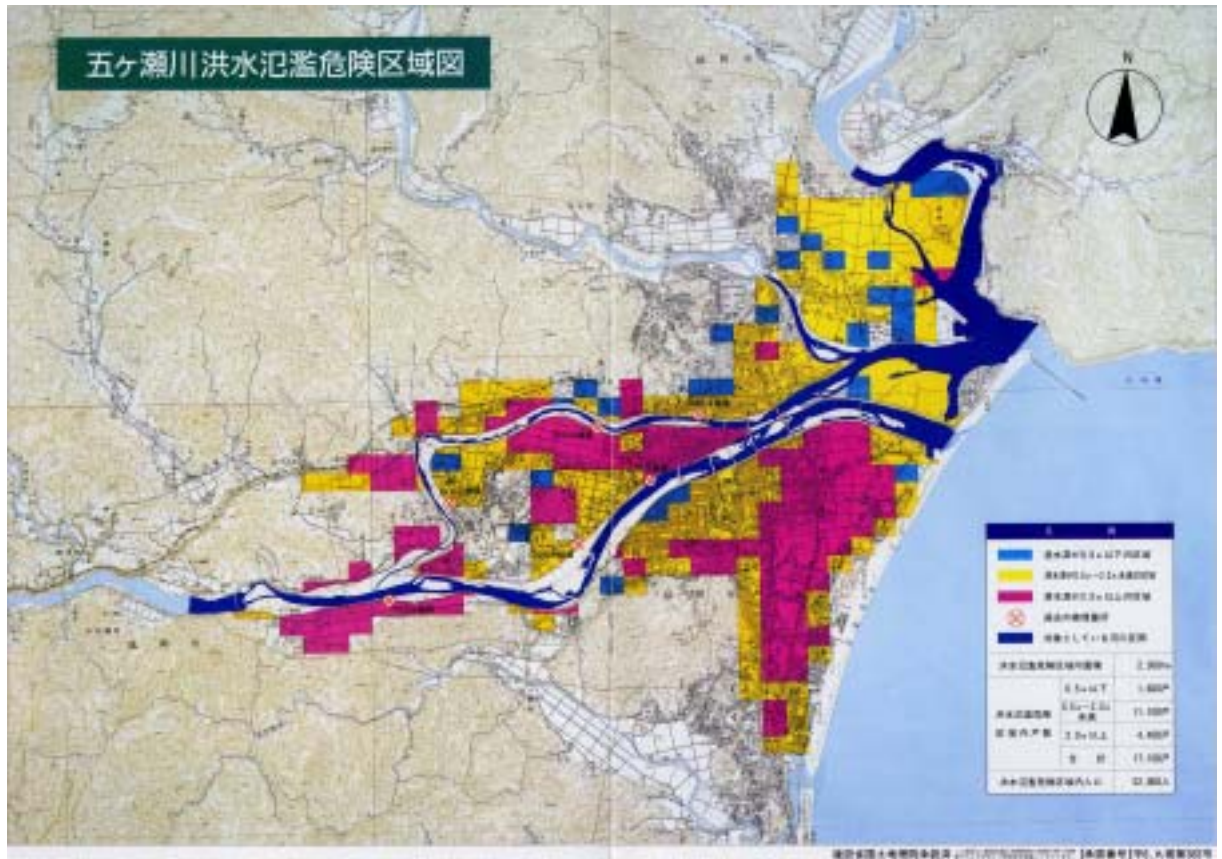


図8-4-4 五ヶ瀬川の洪水氾濫危険区域図